令和4年度

学社融合推進協議会活動報告集

令和5年3月

田辺市教育委員会

はじめに

今年度も秋から冬にかけて、全国的にコロナウイルス感染症の感染者が急増し、当地方も例外なくその影響を受け、各種行事は開催時期を遅らせたり、開催方法を見直したりといった状況が続きました。

しかし、以前のように直ぐに事業を中止するというのではなく、実施可能な方法を見出しながら感染対策を講じた上で活動を前に進めるという方向に舵を切りました。

それぞれの学社融合推進協議会においても、運営に関して苦慮する場面が多々見られましたが、アイデアを出し合い、工夫を凝らし、活動を停滞させることなく実施している様子を伺うことができました。

コロナ禍で、日常の活動が制限される状況にあっても、学校と地域の繋がりが見られ、協働する姿に逞しさを感じました。

さて、田辺市教育委員会では、学校や地域社会が抱える様々な課題を解決するためには学校・家庭・地域が互いに連携・協力して課題解決に取り組むことが重要であると考え、平成１９年度を『学社融合元年』と位置付け、学校教育と社会教育を融合させた「学社融合」を積極的に推進してきました。この取組も、今年度で１５年目を迎えました。

また、平成３０年度にはこれまでの学社融合の取組を発展させる形で「田辺市学社融合推進協議会」を設置しました。保護者や地域住民が学校運営に参画する体制の構築と、学校や地域の特色を生かした新たな取組の展開を目指してきましたが、今年度で５年目の節目を迎えました。

そこで、それぞれの立場からこれまで行ってきた様々な実践を振り返り、その是非を検証したり整理・統合したりするとともに次のステージに向けて新たに歩み出すことが大切だと考えました。

学校、保護者、地域住民が互いに知恵と意見を出し合い、「熟議と協働」を重ね、「地域に開かれた学校づくり、学校を核とした地域づくり」を推し進めていくことが重要です。

今一度、熟議すべき内容とはどのようなものか、熟議したことをどのように展開していくのかといったことを見直し、学社融合推進協議会の発展に繋げていただきたいと思います。

今後も、全ての園・学校と公民館・地域が連携・協働して、学社融合推進協議会の一層の充実を図っていただきますことを心から願っております。

令和５年３月

田辺市教育委員会　教育長　　佐　武　正　章

目　　次

［小学校］

田辺第一小学校…… 1
田辺第二小学校…… 3
田辺第三小学校…… 5
芳養小学校…… 7
大坊小学校…… 9
稲成小学校……11
会津小学校……13
新庄小学校……15
新庄第二小学校……17
三栖小学校……19
長野小学校……21
上秋津小学校……23
秋津川小学校……25
上芳養小学校……27
中芳養小学校……29
田辺東部小学校……31
龍神小学校……33
上山路小学校……35
中山路小学校……37
咲楽小学校……39
中辺路小学校……41
近野小学校……43
鮎川小学校……45
三里小学校……47
本宮小学校……49

［中学校］

東陽中学校……51
明洋中学校……53
高雄中学校……55
新庄中学校……57
衣笠中学校……59
上秋津中学校……61
秋津川中学校……63
上芳養中学校……65
中芳養中学校……67
龍神中学校……69
中辺路中学校……71
近野中学校……73
大塔中学校……75
本宮中学校……77

［幼稚園］

新庄幼稚園……79
三栖幼稚園……81
上秋津幼稚園……83
中芳養幼稚園……85

[学社融合推進協議会活動報告集]

令和4年度

各学社融合推進協議会の活動風景

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：田辺第一小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺第一小学校	公民館名	中部公民館

学社融合における学校・地域の様子

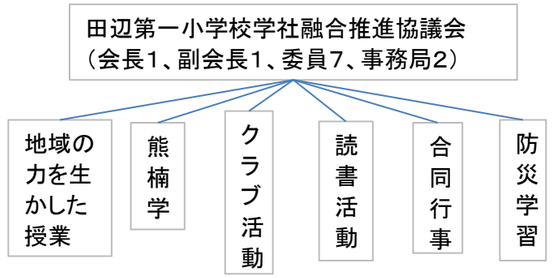
本校の校区は、かつての城下町の名残をとどめ、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、歴史と伝統にあふれる地域である。熱心に学校教育活動を支援してくれる人材にも恵まれており、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などを中心に、地域の教育資源を生かした特色ある取組を行っている。

目標

学校・園・地域

【学校】
・地域の人々との活動を通して伝統芸能や文化にふれさせることで、地域に誇りを持つ子どもを育てる。
・専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。
・地域の人々や仲間との活動を通して、子どもたちのコミュニケーション能力を育てる。
【地域】
・地域と子どもたちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子どもの双方からつながりを築く。
・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子どもたちに自分も地域の一員である自覚を持たせる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・熊楠学
（地域学習コーディネーター）
・田一小校区協議会
・田辺観光ボランティアガイド
・地域の方々
・保護者

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・学社融合推進協議会定例会では、委員に学校の方向性や児童の様子を知っていただき、また、学校の課題等を協議できるよい機会となっている。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年間リモートで行っていた町たんけん（2年生）を、今年度は実際に足を運んで行うことができた。実物を見て感じたり、対面で緊張しながら挨拶や質問等のやりとりをしたりする活動はかけがえのない体験となった。コミュニケーション力向上にも繋がるよい機会となった。 ・児童は地域教材への興味関心が高く、その内容は新鮮で未知なことが多いため、充実感を得ることができた。 ・職員にとっても地域や他の専門分野を知るよい機会となっている。 ・協力していただいた地域の方にも喜んでいただけた。	・本年度も新型コロナウイルス感染拡大により、従来の学社融合の取組が少なからず制約を受けた。 熊楠学の集大成として、地域人材（教材）を活用して6年生が地域歴史学習に取り組み、地域の方々を招いて発表会を行っていたが、コロナ禍になってからの3年間はできていない。どのように復活させていくかが課題である。 コロナ禍で中止になったり、縮小されたりしたため従来の学社融合関係行事や活動を経験していない教職員が増えてきている。職員間で情報共有し、継承できるように努めなければならない。 ・地域の方と職員とで日程調整をしたり、十分な打ち合わせをしたりするための時間を取ることが難しい。
公民館（地域）	・本年度も新型コロナウイルスの影響を受けたが、これまで中止していた運動会などの行事を新しい形で開催することができ、地域と学校・子どもたちが関わるきっかけを作ることができた。 ・感染症対策をとりながら慣例の事業を実施することができ、地域と子どもたちとのコミュニケーションの場を作ることができた。	・今後も新型コロナウイルスとの共生になっていくと予想されるが、これまで実施できなかった事業の実施方法や新しい取組を模索し、地域と学校との交流の機会を増やしていく必要がある。 ・地域住民の高齢化が進んでいることから、新たな指導者や人材を確保しなければならない。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

〇「コロナ禍における学校行事の在り方について」
・最近の状況から考えれば、みんな揃って実施するというのは無理ではないか。実情に応じた形で実施していけばいい。
・コロナのことについては、オープンではない。「実施しても大丈夫、参加してください。」と言われて、行動しているが本当のところがわからないので、心配な面もある。
・地域も初めてのことで対応に苦慮している。祭りをしないのは子どもがかわいそうだ。
・今の子どもは損をしている。田辺のよいところを教えてやれない。
・今までの行事、話し合いでのつながりは大きい。年々やらなくなるのはつらい。
〇「子どもの安全、家庭教育の重要性について」
・子どもを中心に考え、親が接する18歳までの中で、コミュニケーションを大事にしてほしい。
・親と地域と皆さんが参加できる行事があればいい。接し方に違いがある。機会はなくしたくない。学校行事があることで参加する保護者の横のつながりができる。
・子どもたちのあいさつは大変元気である。
〇その他
・ネット環境やパソコン、タブレットの性能がもう少しよくならないのか。先生の仕事の効率にも影響するのではないか。

特徴的な協働活動

レッツゴー！町たんけん[2年生]

「お店（寺）に行って、知らないことを見たり聞いたりしてこよう」というめあてをたて、2年生児童がグループに分かれて校区内の6つのお店等（白井スタジオ・山政商店・YOKOYA・AUBE・浄行寺・くすもと整骨院）を探検した。
自分たちで計画を立て、担当（挨拶・カメラ・質問等）を決めるなどの準備を進め、当日を迎えた。張り切って出発し、緊張しながらの挨拶から探検はスタート。様々な物を見せてもらったり、質問に答えてもらったりし、お店の方々の思いや工夫について知ることができた。お店の方々がたいへん温かく子ども達を迎え入れ、対応してくれた。わくわくドキドキ、大満足の探検となった。
【児童の感想】
・お店が120年前からやっているなんて思わなかったので、びっくりしました。「町の人たちにおいしいお米をとどけることを考えています。」と聞いたとき、とてもやさしい気もちでお店をつづけているのだなと思いました。
・1日に１００まいから２００まいしゃしんをとっているのが、びっくりしました。おきゃくさんがいたら、ぜひそのすがたを見たかったです。いつかわたしも、白井スタジオでしゃしんをとってほしいです。

くすもと整骨院

YOKOYA

AUBE

浄行寺

白井スタジオ

山政商店

大人も子どもも地域作品展

小学校体育館に地域の方の作品や小学生全児童の作品を展示し、地域の方と子どもたちとの交流の場になった。

中部公民館地域運動会

中部公民館主体で行った地域運動会。コロナ禍のため3年ぶりの実施となった。小学生児童も参加し、地域の方々と共に楽しく競技に参加した。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：田辺第二小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺第二小学校	公民館名	東部、南部公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めてきた。しかし、今年度も、コロナウイルス感染症予防のため、幼･保･小･中学校及び地域との地震津波避難合同訓練、公民館主催行事などが中止となった。そのような中ではあるが、３年ぶりに公民館主催文化展示会への作品を出品することができた。また、各学年、生活科及び総合的な学習の時間に、公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出かけたり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域学習、福祉体験学習、歴史学習等に取り組んできた。

目標		
	学校・園・地域	○自分たちが住む地域のよさを知り、ふるさとを愛する児童を育てる。またその学習の中で調べる力・協力する力・表現する力を身につけさせる。 ○自分たちでは調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。 ○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てる。 ○子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館） ○地域の良さを伝えることで、子どもたちとの交流を楽しむとともに、自分たちも地域について見直す機会とする。（地域）

校（園）区の推進組織（組織体制図）

田辺第二小学校学社融合推進協議会
⇕
東部・南部公民館　東陽中学校　幼稚園
保育所　育友会
⇕
地域の力を生かした教育活動

支援者及び支援組織

東部公民館
南部公民館
田辺市防災まちづくり課
ファミールヴィラ自治会
交通安全指導委員会東部小隊
闘鶏神社
神楽神社
地域にお住まいの皆様方

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	○コロナ禍中ではあったが、感染予防を徹底したり、綿密に打ち合わせをしたりすることで、各学年ともに工夫して地域学習に取り組むことができた。 ○子どもたちに身につけさせたい力（問題解決の力・共に学ぶ力・表現する力）を明確にして、学習や活動をさせることができた。 ○地域の自然や社会【人々・歴史・施設・文化・動植物】と関わる中で、問題を発見し、追求する力や仲間と協力して活動する力等を高めることができた。	◇これまでは、発表会を開いて、学んだことを地域に発信することができていたが、今年度も、地域の方を学校に招くことができなかった。ただし、見学や体験学習でお世話になった施設や地域の方々には、お礼の手紙や新聞、ポスターにまとめたものを送り届けるようにした。 ◇子どもたちが、地域の一員として主体的に活動できるような取組を行いたい。
公民館（地域）	○３年ぶりに東部・南部公民館主催「ふれあいバスピン大会」を開催することができた。子ども会へ加入する世帯は年々少なくなってきているが、本事業をきっかけに子ども会への加入を希望する世帯もみられた。子どもたちだけでなく、親同士のつながりを深めることにもつながっている。 ○「東部公民館作品展」・「なんぶフェスティバル」それぞれにおいて、その地域に住む子どもたちの作品を展示した。子どもたちの普段の学習の成果・成長を地域の方々に見てもらうことができた。	◇今年度は数年ぶりに公民館の各種事業を開催することができたが、今後もコロナの動向に十分注意しながら、内容を工夫し事業を実施していく必要がある。 ◇学校・子ども会・地域の方々・その他関係機関等と連携をより深めていく必要がある。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

『田二っ子ＳＤＧｓ会について』

○育友会では、使わなくなった学用品を譲り受け、欲しい方に提供する「田二っ子SDGsの会」を発足した。体操服や傘、文房具等、約100点が集まり、参観日にあわせて展示した。再利用品は瞬く間に手に取られていき、この取組は、保護者の方々からも大好評であった。ソフトボールやキックベースボールの大会がなくなったり、子どもクラブへの加入が少なくなったりして、保護者同士のつながりが希薄になってきている昨今、育友会が中心となって、このような取組を増やしていくことが大切である。

『運動場の芝生再生に向けてⅡ』

○昨年度に引き続き、今年度も芝生再生への取組を進めた。2000個のポット苗を作ることからはじまり、グラウンドへの植え付けや雑草抜き等、全校児童で取り組むことで、「芝生を大切にしたい」との思いが広がり、その結果グラウンドを再び緑の絨毯にすることができた。育友会、地域とも連携して、芝生を管理していく必要性について協議した。

特徴的な協働活動

発見!町の仕事名人【３年生】

アセロラフーズ

幸　屋

碓 井 商 店

七 福 堂

3年生は、11月に地域の仕事名人の方々（北本商店、幸屋、三浦畳店、碓井商店、七福堂、アセロラフーズ）を訪れた。仕事の内容や技術についてはもちろんのこと、仕事への思いや地域に対する願い等についても学び、地域の良さや特徴に気づき、それらを支える人々の工夫や努力について知ることができた。

また、帰校後は、質問して分かったことや発見したことを、グループごとに模造紙にまとめ、発表会を開いた。

最後に、感謝の気持ちをまとめ、それぞれの仕事名人に届けることができた。

「世界遺産学習に係る学校間交流」

三 浦 畳 店

学校間交流

北 本 商 店

学校間交流

自分たちの地域の魅力を伝え合うことで、互いに手を取り合って持続可能な社会の実現を目指すことを目的に、3年生は奈良市立辰市小学校の3年生とICTを活用し交流した。

第１回の交流では、扇ケ浜や天神崎の美しい海を紹介したり、運動場が芝生であることを伝えたりすると、相手校からとてもうらやましがられた。

第2回の交流会では、「発見！町の仕事名人」で学んだ事をまとめて、グループごとに発表した。辰市小学校からは、「いつか田辺市へ行ってみたいです」「田辺のケーキやシラスなどがとてもおいしそうで食べてみたいです」等の感想を聞くことができた。

再発見！ふるさと田辺【６年生】

６年生は、地域の歴史、史跡について学び、語り部活動をとおして、学んだ事を発信している。今年度は縁あって、6名の能楽師の方々に来校いただき、能のお囃子や型を体験することができた。さらに舞囃子『船弁慶』を鑑賞し、700年の歴史がある「能の世界」に浸ることができた。

地域の方々との心のつながりを大切に

扇ケ浜公園のトリムコースで実施した校内持久走記録会では、顔を真っ赤にして一生懸命に走る子どもたちに、大勢の地域の方々からご声援をいただいた。また、合唱部が「銀座ミュージックストリート」で歌った時や校内バスピン大会でも、地域の方々からのあたたかい声援が子どもたちの励みになった。これからも、地域の方々との心のつながりを大切にし、連携して子どもたちの学びや愛郷心を育んでいきたい。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：田辺第三小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館

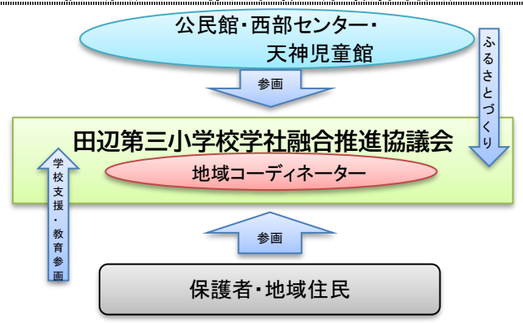
学社融合における学校・地域の様子

本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター、天神児童館「西部エンパワーメント支援事業」等と協働・連携しながら各種の事業に取り組んでいる。本校区内では、核家族化や高齢化、少子化などの問題が進行している。そこで、本校では、地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、大変重要であるとともに大きな課題であると考えている。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切にし、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。

目標　**学校・園・地域**

①子どもの教育をよりよいものとする。
②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。
③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。
④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。
⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- 西部公民館
- 西部地区自主防災連絡協議会
- 西部町内会連絡協議会
- 西部老人クラブ連合会
- 校区協議会
- 天神児童館
- 西部子どもエンパワーメント支援事業
- 西部センター
- 民生委員
- スポーツ推進委員

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	昨年度の課題を受け、本年度は「アップデート」をテーマに学校運営の方針を組み立てた。学社融合についても、アップデート③「生き方」を考える場として、児童が地域に対して「見える」「繋がる」「広がる」をテーマに、地域の課題を自分事として考え、自分たちにできることを取り組む位置づけができた。	昨年度に引き続き、感染症対応とボランティアの高齢化によって、多くの取組が未再開や継続困難の状況であった。 しかし、このような機会だからこそ協議会として、児童の実態について協議し、学校・地域が共に育てる児童像を共有することに努めた。 学校の向かう方向性、めざす児童像についての共有化、共に地域の子供を育てるチームとしての協議会を目指したいと考える。
公民館（地域）	コロナ禍の影響により、学社融合事業は実施できないものが多かった。感染防止対策として規模を縮小して開催した「天神児童館まつり」では、昔遊びなどを通じて世代を超えた交流を図ることができた。	コロナ禍でもできることを研究し、実践していくことを心掛けたい。 事業に協力していただいている方の大半が高齢者であり、健康上の理由により辞退される方が多いため、新たな人材の発掘が必要である。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

（１２月総会より）
○児童の状況について共有した
　・学校の取組（アップデート）の進捗状況について共有した。
　・学校の取組の成果が出ている。
○一部の児童らが自発的に行っている地域の清掃について検討した
　・大変素晴らしい取組であるので、協議会としてもできることを取り組む。
○学校評価から見た本校の状況について協議した
　・下校時の通学路の安全について、働きかける必要がある。

（２月総会での協議内容：予定）
○学力・学習状況調査、学校評価をもとにした、本校児童の実態分析
○児童に付けたい力の共有
○児童に付けたい力の共有に基づいた、取組の再構築

特徴的な協働活動

（３年）天神崎生き物ウォッチング

天神崎の生き物について現地で観察し、説明を受ける（地域を知る）

（２年）まちたんけん

自分たちに関わりのある場所を訪問し、見学する（地域と繋がる）

（５年）天神崎学習

ナショナルトラストの観点から天神崎について学習し、その大切さを地域に知らせる（地域を知る・地域に広げる）

（４年）地域で考える防災

地域の防災について、地域の方々と共に考える。（地域と繋がる・地域に広いげる）

上の山スポーツチャレンジデー

子どもクラブや地域のスポーツクラブチームと連携して、様々なクラブスポーツを体験する機会を設けた。（地域と繋がる）

学校ホームページの開設

今年度は、感染拡大の状況に応じて、行事については、中止、児童のみ、保護者のみ等と、開催の規模に制限を設けた。このようなことから、学校の情報を学校だより、公民館報だけでなく、開設したホームページにより、保護者や地域の方に、いつでも、何度でも見ていただけるようにした。

地域の方の声

１２月２３日、双葉福祉会の方から電話がありました。「今日は利用者さんと江川公園のトイレ掃除をしていると、子供たち４人組がやってきて、『いつもありがとうございます』と言いながら、掃除の手伝いを申し出てくれました。今日は寒いのでいいよと言っても、進んで手伝ってくれて、落ち葉拾いまでやってくれました。このように自分たちから言ってくれたのがとてもうれしかったので、学校に言っておくよと伝え、電話させてもらいました。」
本校の子たちは、以前より地域の方々への挨拶、地域での自主的なゴミ拾いなどを、地域に対して「自分たちにできることはないか」と考えています。推進協議会でもこのような児童の思いを地域全体に広げたいと考えて居ます。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：芳養小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

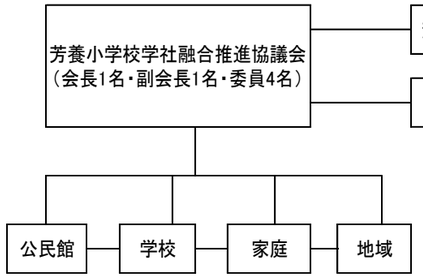
平成１９年度より子供の健全育成と放課後の居場所づくりを目的に取り組み始めた「芳養ふれあい教室」、平成２０・２１年度には芳養小学校・芳養公民館が市の指定研究を受け、学社融合の先駆けとなった。その成果が脈々と受け継がれ、現在に至っている。コロナ禍や職員の異動により、地域の教育力を生かした授業実践がやや縮小されているが、「地域とともにある学校」としての意識を常にもち、学校と公民館が連携した取組を進めている。

目標

学校・園・地域

〇学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。
〇保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切にする心を育てる。
〇地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで教育内容の充実を図るとともに、地域活性へと繋げる。
〇地域の方々が学校や児童の様子を知ることで、今後の地域づくりに生かす。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・芳養公民館
・町内会
・芳養児童センター
・芳養校区子どもクラブ
・ふれあい教室実行委員会
・芳養校区補導委員会
・更生保護女性会
・民生児童委員
・交通指導委員
・育友会
・地域の方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・３年生の梅ジュース作りを３年ぶりに実施することができた。地域の方々と交流をすることで、新たな繋がりが生まれ、地域の方々に支えられていることを実感することができた。 ・ふれあい教室を実施していく中で、地域の方々からも、「子供たちから元気をもらえている」というお声をいただけている。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、向日葵の種植え、よもぎだんご作り、おいもの蒸しパン作り、ひじきご飯作りは実施することができなかった。そんな中でも少しずつではあるが、できる活動が増えてきている。 ・ふれあい教室の協力者の方々は協力的であるが、新型コロナウイルス感染症拡大により休止になってしまっている活動もあり、繋がりが薄れてしまっている。今後に向けて、人材の新規開拓にも取り組んでいく。
公民館（地域）	・放課後のふれあい教室だけでなく、学校の授業等にも、地域の方々に積極的に参加・協力していただいている。また、それにより、地域の方々の交流にもなっている。 ・公民館報等を通じて、子供たちの様子や学校の状況などを知ることができ、地域で子供たちを育てるという意識を持つことに繋がっている。	・ふれあい教室や授業への協力等の活動を今後も継続していくために、人材の確保や育成を行う必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、活動ができていないものについては、今後再開するのか、新しいものに取り組んでいくのか考えなければならない。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【教員の多忙化について】
　１年・３年が今年度から単学級になったことや、昨今の教員の多忙化について触れ、働き方改革の推進を要望する意見が出された。今年度からスクールカウンセラーが単独配置されたことや、シルバー人材派遣で消毒作業をしていただいていることなどについて説明。又、今年度は理科と外国語を専科指導とし、時間割の工夫をしていることについて説明した。

【防災教育について】
　地域の津波避難タワーを活用して学校で防災教育に取り組んでいることはよいことであり更に充実させてほしい。また、土砂災害について学ぶことも大切であり、学校で取り入れてほしいとの意見が出された。

【育友会組織と活動について】
　育友会の役員選出に苦慮している実態を受け、町内会や子どもクラブの加入が減少していることとも重なり話題となった。かつては、子どもクラブ加入が当たり前で、子どもクラブでの保護者の働きを目の当たりにし、感謝の気持ちを抱いた。育友会でやっていることが見えにくいのではないかとの意見が出された。

特徴的な協働活動

令和４年度第１回芳養ふれあい教室　実行委員・講師合同会議が４月１８日(月）に芳養公民館にて行われた。
・今年度のふれあい教室について、昨年同様の５教室（かきかた、花アレンジ、中国語、俳句、読み聞かせ）で実施していくこととなった。
・本年度は前期・後期ともに概ね予定通り、ふれあい教室を実施することができた。
・３年生では、スクールパートナーの方々に来ていただいて、毛筆や梅ジュース作りに取り組むことができた。

・かきかた教室では、スクールパートナーの方に硬筆と毛筆の指導をしていただいた。3年生の書き方でも、毛筆の指導で何度か協力をお願いした。

・婦人会の方々を中心に、ふれあい教室で花アレンジ教室を開催していただいた。毎回趣向を凝らした内容で、楽しく花アレンジを学ぶことができた。

・3年生の梅ジュース作りでは、スクールパートナーの方々に来ていただいて、作り方を教えていただいた。どの児童も楽しんで取り組むことができた。

・読み聞かせ教室は、1・2年生に読み聞かせを実施していただいた。参加児童は、毎回読み聞かせを大変楽しみにしていた。

・中国語教室では、3年生以上を対象に中国語を指導していただいた。語学に興味を持っている児童が多く、毎年参加している児童も多い。

年末には、スクールパートナーの方々とふれあい教室の協力者の皆さんで、開催教室の大掃除をしてくださった。

学社融合推進協議会活動報告書

協議会名：大坊小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立大坊小学校	公民館名	芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校区は大坊･団栗の二地区からなり、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成31年3月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、より一層地域の総合センターとしての役割が求められている。地域のつながりは深く、学校の教育活動に対しても大変協力的である。運動会や各行事において、各団体に協力していただきながら取組を進めている。

目標（学校・園・地域）

地域とともにある学校

～学校は地域の未来を創る～

大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とした実践的な取組や活動を進めていく。

具体的目標

目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」
目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」
目標3：小学校を活用した 「地域力の向上」

校（園）区の推進組織（組織体制図）

学社融合推進協議会親部

- **学習支援部**
  目標１：地域人材を生かした「学校力の向上」
  取組の柱　①学習支援　②家庭教育の支援
- **環境整備部**
  目標２：地域人材を生かした「学校環境の向上」
  取組の柱　①環境整備　②登下校の安全対策
- **地域活性化部**
  目標３：小学校を活用した「地域力の向上」
  取組の柱　①学校行事への参画　②学校施設の地域への開放

支援者及び支援組織

- 大坊小学校育友会
- 大坊小中学校校区協議会
- 大坊区
- 団栗区
- 地域老人会（白楽会）
- 両区青年団
- 大坊女性会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の方から直接学ぶことは、子供たちにとってよい刺激となり、その後の学習が活性化した。 ・地域に誇りを持ってほしいという地域住民の願いが子供たちにしっかりと伝わっている。 ・感染症拡大防止に努めつつ、地域の方を招いた活動をすることができた。新校舎を初めて利用する方もおられ、喜んでいただけた。 ・育友会だけでなく地域の皆さんが学校教育活動を自分事としてとらえてくださっている。	・教師主導のふるさと学習になりがちである。児童自身の地域とのつながりや探究心を生かした展開も考えていく。 ・以前の取組には完全に戻せていないが、感染症に対する考え方も様々であるため、今後も地域とよく話し合って学社融合の取組を推進していく必要がある。
公民館（地域）	・地域活性化部の活動を１年半ぶりに再開することができ、事業を通じて地域の方々同士の交流が深まった。 ・子どもたちを地域で育てるという意識から、地域の一体感もより良くなった。 ・公民館報を通じて、子どもたちの様子や学校の取組を地域の方々に分かりやすく伝えることができた。	・高齢化が進んでいく中で、学校と地域の連携を継続していくことも意識する必要がある。 ・公民館としても地域に出向き、地域への情報発信により力を入れる必要がある。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

４／１３　全体会
・本校のスクールプランについて承認していただく。
・感染症への対応は十分に行うべきである。その中で実施可能なものを見極めていく。
・中学校への通学路の危険箇所を確認。行政へ報告し、改善要求。

５／３１　専門部で活動計画作成

（学習支援部）
・昨年に引き続きノーメディアデイを企画したり、保護者･地域の方による読み聞かせを実施したりする。
・青年団と連携した取組ができないか検討する。

（環境整備部）
・校庭の樹木への名札付けなど、学習になる環境作りもしていきたい。
・イノシシ、不審者等について情報共有していく。

（地域活性化部）
・学校施設を活用した活動を企画し、地域住民が交流する機会をつくっていく。

特徴的な協働活動

【学習支援部】
9/26　青年団による運動会準備
12/２　保護者、地域の方による読み聞かせ
常時　ふるさと学習コーディネート

【環境整備部】
5/15　敷地内草刈り･畑の整備
常時　イノシシや不審者についての情報共有

【地域活性化部】
7/15　グラスサンドアート教室
12/２　人権を考える集い

ふるさと学習

地域の方をゲストティーチャーに招き、昔の子供の生活や代々続いてきた果樹栽培、生活用水や農業用水を得るための先人の努力などについて学びました。学習発表会ではそれらをまとめて発表しました。

【ふるさと学習　児童感想】
･みかんづくりに適したこの地区と、毎日一生懸命働いてくれるお母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃん、そのまたおばあちゃんやおじいちゃんたちを誇りに思いました。

【学習発表会　地域の方のご感想】
･自分の住んでいる大坊、団栗の知らなかった事がありました。
みかんの事を理解して、自分が生まれ育ったことを誇りに思ってくれるとしたら最高です。

青年団と運動会準備（スローガンづくり）

青年団の活躍を見て、将来、地域で生きる自分の姿をイメージすることができます。

サンドアート教室

多目的ホールを利用した文化教室のひとつです。少しずつ以前のような活動が増やせるよう取り組んでいます。

しめ縄づくり

白楽会の皆さんを中心に協力していただき、しめ縄づくりを行っています。日本の伝統･地域の伝統を受け継ぐ貴重な機会となっています。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：稲成小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立稲成小学校	公民館名	稲成公民館

学社融合における学校・地域の様子

当地域では、学校と公民館、地域の代表者が中心となり、地域コミュニティへ働きかけ、学社融合を推進してきた。

感染症の拡大に伴い、学校と地域の連携が難しい時期もあったが、今年度は地域との話し合いを進めながら、できる限り行事を実施する方針を立て、運動会や文化祭も工夫して取り組んだ。感染症予防のため、変更が必要な行事もあったが、概ね予定通り実施することができた。

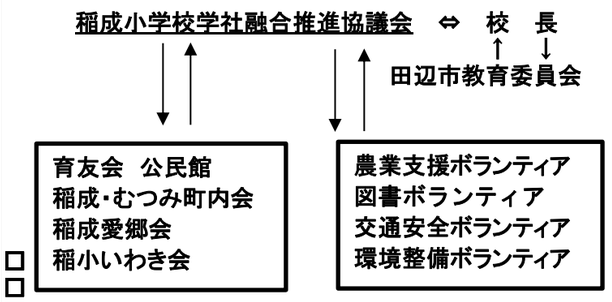
目標

学校・園・地域

〈学校の目標〉
①農業体験ボランティアを学校教育に定着させ、地域と共に学校教育を充実させる。
②図書ボランティア活動を活発にし、児童の読書意欲を喚起するとともに図書室を地域コミュニティの場として活用する。
③交通安全ボランティアを募り、より安全な登下校指導体制を構築する。

〈地域の目標〉
①学校教育に関わることで、地域の子どもたちとの良好な信頼関係を結ぶ。
②ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。
③子どもたちが安全に登下校できるように支援する。

支援者及び支援組織



- 稲成校区協議会
- 稲成公民館運営協力委員会
- 稲成町内会
- むつみ町内会
- 稲成愛郷会
- 稲小いわき会
- 稲成小学校育友会
- 民生児童委員会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・本年度も感染症拡大防止のため、公民館や地域との合同での活動に制限があったものの、実施する内容を精査・工夫しながら取り組むことができた。 ・地域及び公民館や町内会からの協力を得て、児童の教育や安全のため、連携することができた。学校や児童の様子についても理解していただくことができた。また、公民館報に学校の行事を載せていただき、様子を地域の方々に知っていただくことができた。 ・校内持久走を稲成地域で行ったことで、地域の方も児童も相互にパワーをいただくことができた。	・感染症拡大防止のため、行事を実施するかどうかの判断が難しい面があった。 ・行事は概ね再開することができたが、運動会やふるさと文化祭などは変更点もあったため、取組を校内で伝達していく必要がある。 ・今後も実施できる内容を精査・工夫しながら、取組を進めていく必要がある。
公民館（地域）	・昨年度に引き続きコロナ禍の影響のため中止となった事業はあったが、地域の方々による３年生の防災学習は実施できた。過去に田辺市や稲成地域で発生した災害の被災状況について、実体験や当時の写真などの資料を交えて説明していただいた。児童が地域の方々から学び、世代を超えた交流を図ることができた。 　また、規模を縮小してではあるが、「2022　稲成　むつみ　ふれあい文化祭」を開催し、地域の活性化を図ることができた。	・今後も引き続き、コロナ禍であってもできることを考え、地域の活性化につなげていきたい。 　また、人づくり・地域づくりの拠点となる稲成公民館が完成した後、建物を活用した世代を超えた交流の促進と地域の活性化のため、事業を企画、実践していきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

年度当初の学社融合推進協議会では、今年度の実施計画や役員紹介、前年度の取組やその成果と課題等について話し合った。

その中で、今年度からは行事を中止するのではなく、学校と地域が連携し、工夫しながら実施していくという方向性を決めた。また、地域で対応していただいている通学路の危険個所や、感染症の様子を見ながら実施していきたい夏祭り等についても話し合った。

本校では、農業体験ボランティアの方のご協力により、地域と学校が連携した活動を行ってきている。今後もマスクの着用、ソーシャルディスタンスの保持等を徹底し、感染症拡大防止に配慮しながら取組を進めていくという考えで一致した。

公民館と学校が共催している「ふれあいスクール」についても、昨年以上の回数で実施していく予定であることを報告した。

今年度のように、地域人材を発掘し、安全面や子供が楽しめる内容を考えた上での運営を来年度以降も積極的に実施していきたい。

また、防災面では、避難所での生活についての体験活動を実施するなど、地震が増加している昨今、あらゆる機会を生かし、地域ぐるみで取組を進めていければと考えている。

特徴的な協働活動

学社融合に関わる学習は、地域の人々や自然、施設、産業などとの関わり合いを通して、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな心を育んだりするとともに、地域を知り、地域に対する愛情を育てることをねらいとし、各学年で取り組んでいる。

４年生では、地域の方の畑で梅の収穫をさせていただいたり、その収穫した梅で梅ジュースや梅干しを作ったり、農業振興課の方にお話を伺ったりして、梅の収穫、選定、加工、流通までの学習に取り組んだ。「農業みらい基金」モデル校として取組を進めた。

梅についての学習

梅の収穫体験

梅ジュース作り

梅干し作り

梅の流通についての学習

年間を通して取り組んできた学習内容については、１１月下旬の学習発表会で保護者に向けて発信した。

地域から学び、学んできたことを自分たちでまとめ、まとめたことを身近な方に発信するという理想的な取組ができた。

このような取組を継続していくことを通して、地域に愛着を持ち、農業に魅力を感じてくれる子が増えてくれることを期待している。

学習発表会

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：会津小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館

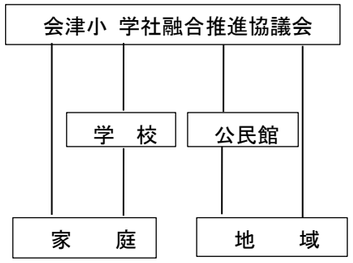
学社融合における学校・地域の様子

本校では、例年「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、老人会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら様々な教育活動に取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響で上記行事の開催を見合わせていたが、今年度は「合同作品展」に続き、観覧対象者を保護者と関係者に限定した「会津さわやかコンサート」を３年ぶりに開催することができた。現在455名の児童が通学しており、登下校の見守り活動や、地域の「ラジオ体操」など、地域で積極的に子どもたちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子どもたちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子どもたちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担ってくれている。

目標　学校・園・地域

【学校】
様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して
・地域の伝統や文化とその地域に住まう人々を大切にし、感謝する心を養う。
・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。
・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。
【地域】
・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

会津小育友会
会津小校区協議会
秋津公民館
万呂公民館
会津スポーツクラブ

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	「地域学習」では地域を教材とし、地域の歴史や防災について学ぶことができた。これらの学習を通じ、知識だけでなく課題を追求する力や工夫しながら表現する力を育成することができた。また３年ぶりに開催した校区協議会主催の「会津さわやかコンサート」では、育友会や町内会役員の協力を得ることによって、楽しい雰囲気に包まれた心温まる演奏会となった。 子どもたちにとっては、地域に住む人から学んだり交流したりすることによって、ふるさとのよさや課題に気づき、地域への愛着心を深めることにつながっている。	少しずつではあるが、従来から行ってきた活動を再開することができるようになってきている。目標に掲げている『様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して』にあたる活動（地域の文化に触れたり敬老者を含む地域の方々との交流等）については、教職員間で情報を共有しながら、学校・地域ともにメリットとなる協働的な学びを創り出していきたい。また地域の人材活用も積極的に進めていきたい。
公民館（地域）	公民館の展示会には子どもたちの作品を、学校の作品展には人材バンク登録者を含めた地域の方の作品を展示することで、作品の発表を通して互いの刺激になるとともに、地域と学校の交流の機会となった。 また、まち探検や公民館見学を通して、地域への理解を深めるとともに、郷土愛を持ってもらうきっかけづくりとなった。	地域の高齢化が進んでおり、地域の文化や歴史に精通している方が少なくなっているため、人材の育成や発掘に力を入れる必要がある。 また、昨年に設置した人材バンクにおいて、登録者数は増えてはいるが、学校の授業等での活用は未だ無いので、今後活躍の場を創出していきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

令和４年５月１６日開催　会津小学校学社融合推進協議会は令和４年５月１６日に開催され、以下のような内容の協議を行った。

◇多様な人材が指導に携わることができる体制づくり　～人材バンクの活用について～

現在１団体と6名の方に登録をしただいている。人材バンクの登録によって、公民館は地域の人材を知り、学校はゲストティーチャーの発掘ができるというメリットがある。ただし、現在登録数が少ないのが課題である。人材がなければ他の公民館とも連携を図りながら、人材発掘を進めたい。

◇地域と連携した協働的な学び　～今年度の主な活動について～

５年生「防災学習」におけるタウンウォッチングでは、秋津・万呂両公民館主事がコーディネーターとなって地域のことをよく知っている人をボランティアとして募り、児童の学習への参画を進める。

◇地域全体で子どもを見守る意識の醸成　～「登下校の見守り活動」～

現在町内会の組織である「万呂学童見守ろうかい」が、子どもの登下校における見守り活動を行ってくれている。見守りメンバーの方々は、交通指導だけでなく日々の児童の様子についても観察し、情報を寄せてくださっているが、メンバーの方の高齢化に伴い負担が増えていることや、なり手不足の解消に向けた取組についても課題となっている。

特徴的な協働活動

安心・安全なまちづくりを担う　～学校・地域の協働的な学びの実践から～

◇5年　総合的な学習 「めざせ！　住みよいまちづくり～自分たちにできること～」より

通学路の危険地区について調べるタウンウォッチングを、秋津・万呂両町内会の協力を得ながら行った。校区には左会津川と右会津川が流れており、長雨や豪雨の際には道路が冠水したり堤防が決壊したりする危険性がある。また、山の斜面でも土砂崩れの危険度が高く、日頃から危険場所を知り、危険を回避しながら安全に避難する方法について確認しておく必要がある。

児童は各地区に分かれ、協力いただいた町内会の役員にレクチャーを受けながら危険場所を実際に確認した。「目・耳・鼻を働かせながら状況把握や音を察知し、いつもと違う匂いを感じたら災害発生の前兆であるから注意が必要である。」など、災害に備えるポイントを教えていただきながら、児童はマップに書き込みながら確認していた。また道路幅員拡張に伴う交通量の増加により、高まる交通事故の危険性についても再確認した。

この学習を通じ、災害や事故に遭わないために「自分の命は自分で守ることの大切さ」についてしっかり学び、防災や安全についての意識を一層高めることができた。

◇職員研修 「秋津町内会自主防災の取組」より

秋津地区では、過去に2009年の七夕水害、2011年の台風12号などで大きな水害に遭っている。新校舎建築の際に避難所にしてほしいとの町内会の要望から、現在は屋上と多目的ホールが市の指定避難所となっている。

秋津町では、町内会あげて様々な防災の取組が行われており、その現状や課題について学校職員と情報を共有するために、自主防災の取組についての研修会を行った。街づくりで大切なことは、住民の防災意識を高め、災害に備えることである。声を掛け合うことの大切さを教訓として、町では「防災班」が組織されている。しかし、人口の約半分しか町内会に入会していないのが現状で、実際に災害にあったときには住民がスムーズに避難できるかどうか懸念される。

みんなが幸せに生きる町づくりにつなげるためにはどうすればよいかなど、地域の中の学校としての協働的な役割について意識を高める機会となった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

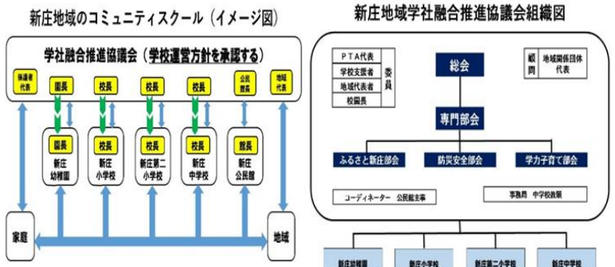
新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、平成３０年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めています。

目標　**学校・園・地域**

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

本校における学社融合の目標
　地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
- ○ 幼稚園・小中学校育友会
- ○ 学校支援者・地域代表者
- ○ 地域関係団体
- ○ 公民館運営委員会
- ○ 新庄地区校区協議会
- ○ 新庄共育コミュニティ本部
  その他関係機関
- ○ 新庄地区老人会
- ○ 真寿会
- ○ ふたば福祉会
- ○ 南紀のぞみ会
- ○ 社会福祉協議会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の方々の協力を得ながら、専門的なお話を聞いたり体験的な活動を行ったりすることができ、児童は学びを深めることができた。 ・新型コロナウイルス感染予防のため昨年度まで実施できなかった行事や活動を、感染症対策を講じながらいくつか再開させることができた。	・少しずつ状況は戻ってきてはいるが、地域の方々に、学校や子どもたちの様子を知ってもらう機会が十分であったとは言い難い。 ・ゲストティーチャーの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げるとともに、子どもたちが地域の一員として主体的に活動できるような取組を行っていきたい。
公民館（地域）	・昨年度に引き続き、積極的な活動が難しい１年であったが、少しずつ、かつての交流を復活させることができてきた。 ・地域の方が授業に参加できることで地域のことを伝えたり、特技を披露することができ、生きがいに繋がった。 ・地域の伝統文化を、次世代へ継承することができる良い機会となった。	・学校を中心として、学校と地域が共通の目標に向かってどのような連携ができるのかを考えていく必要がある。 ・地域学習の幅をさらに広げられるよう、公民館行事やサークル活動を通じて、地域の人材把握や育成に努めていく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

学社融合推進協議会では、各園、学校の取組について承認していただき、今年度のメンバーで、「ふるさと新庄部会」「防災安全部会」「学力子育て部会」に分かれ、活動計画等を立てた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いつも通り活動を実施することが難しかったが、状況を見ながら各学校や幼稚園など学社融合推進協議会のメンバーに行事等の案内を出し、可能な範囲で子どもたちの様子を見てもらい、課題の共有を図るようにした。
　今年度も各学校の研究授業や講師招聘研などにも参加していただき、児童だけでなく教師の力量アップにもかかわっていただくことにした。
　地域の方々と共に行う授業や行事についても、お祭りに関することや地域の産業に関わること、また災害に関することなど実施することにした。特に、今年は子ども獅子舞の参加や２地区の獅子舞の来校等、地域の伝統芸能を知る機会ももつことができた。また、新しくできた消防団の施設見学や、消防団の方に授業をしていただく機会も設けることができた。
　教育講演会では、児童の実情から内容を検討し、SNSが児童の脳に与える影響について薬剤師さんから親子でお話を伺うことで、SNSとの付き合い方についてふり返ったり、考えたりすることができた。
　ふるさとを知るという点については、まず学校職員が地域を知り地域の方と交流するきっかけとなるように、「ふるさと新庄部会」「学力子育て部会」が連携し、甌穴探検を企画・実行することができた。
　このように、新庄地域の各園・校の取組について共有し、交流することを大切にしてきた。

特徴的な協働活動

「ぎおんさんの夜見世」（３年生・１学期）

　今年は、３年ぶりに「ぎおんさんの夜見世」が行われ、本校からも３年生が作品を出展する形で参加した。参加にあたっては地域の方にお越しいただき、「ぎおんさんの夜見世」の歴史や展示する作品の作り方を教えていただいた。子どもたちは、地域の方々に教えてもらいながら、野菜を使って物語の一場面や生き物などを表現した作品を作ることができた。地域の伝統的な行事について学び、参加するよい機会となった。

「森林学習」　（５年生）

　森林のもつ様々な機能について学び、人々の生活や環境との関係について関心を深めるため、年間を通して森林学習に取り組んだ。
　１１月には１泊２日で森林に関わる様々な体験活動を行った。１日目は、日の丸製炭さんで紀州備長炭の作り方や歴史についてお話を伺ったり、熊野古道を歩きながら自然についてのゲームを行ったりした。
　２日目は、中辺路町の山で植樹体験や林業の見学を行った。ウバメガシの苗木を植えたり、ARやドローンが使われた最新の林業を見学させていただいたりした。
　森林の大切さや、和歌山県の林業について学ぶ貴重な機会となった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成３０年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校・家庭・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」を進めている。各園・学校単位でも学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとに特色ある学校づくりを進めている。

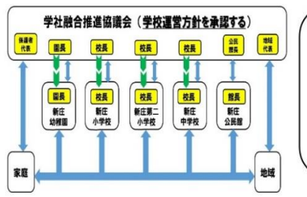
目標　**学校・園・地域**

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

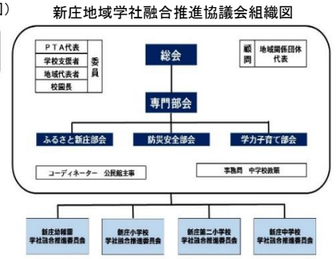
新庄第二小学校教育目標
自ら学び、人にやさしく自分にきびしく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

新庄地域のコミュニティースクール（イメージ図）



新庄地域学社融合推進協議会組織図



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
- ○　幼稚園・小中学校育友会
- ○　学校支援者・地域代表者
- ○　地域関係団体
- ○　公民館運営委員会
- ○　新庄地区校区協議会

新庄第二小学校学社融合推進委員会
- ○　育友会本部役員
- ○　主任児童委員
- ○　元学校評議員
- ○　校長・教頭・学社融合担当

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	①公民館や関係機関と連携・協働し、地域人材を活用することにより、学校単独では実現が難しい活動を実施することができた。 ②学社融合推進協議会委員の方々に教職員の研修に参加、または参観してもらうことを通して学校の現状や喫緊の教育諸課題を理解してもらうことができた。 ③専門的な知識や技術を持っている地域の方をゲストティーチャーとして招聘することで、地域の歴史や自然についての理解が深まり、ふるさとのよさを再発見することができた。 ④地域の方に教材開発に参画していただくことで、特色あるカリキュラム設計につながった。	❶学校教育側のメリットだけでなく、社会教育側にもメリットがもたらされるよう取り組んでいるが、引き続き公民館との連携を密にとり、協働しながらカリキュラム設計をする必要がある。 ❷保護者との目標・ビジョン共有は、一歩進んだが、地域の方とも「地域でどのような子供たちを育てるのか」という目標・ビジョンを共有する機会を設定する必要がある。 ❸学校単位で設置している学社融合推進委員会を効果的に活用し、校内における取組格差を無くしていけるよう、また、取組の質の向上を図れるようにしていく必要がある。
公民館（地域）	①昨年度に引き続き、様々な活動が制限された中であったが、感染症対策を講じながら、コロナ禍以前と同程度の交流ができるよう努めた。 ②新二まつりへのサークルの参加や、学校の授業・サークル活動への地域人材の派遣等、昨年以上に学校と連携した活動を実施することができた。地域の方にとっても、授業や学校行事に参加できることで、自らの知識や特技を活かすことができ、生きがいに繋がった。	❶学校を中心として、学校と地域が共通の目標に向かってどのような連携ができるのかを考えていく必要がある。 ❷地域学習の幅をさらに広げられるよう、公民館行事やサークル活動を通じて、地域の人材把握や育成に努めていく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

＊学力子育て部会
協議①内容：教育講演会の実施について
教育講演会のテーマと実施について検討したが、今年度は、ふるさと新庄部会と共催で地域探検を実施することとしたため、教育講演会は見送ることとなった。
協議②内容：各校における教育諸課題について
情報モラル教育についての問題意識の共有を行った。
各学校間、学校と家庭、地域で一体となって取り組めるようにするためにはどのようにすればよいか協議した。

＊ふるさと新庄部会
協議内容：フィールドワークについて
地域を知るために県の天然記念物である奥山の甌穴での現地学習を実施することとなった。

奥山の甌穴での現地学習

＊防災安全部会
協議内容：防災体験の実施について
消防新庄分団・田辺市消防本部と防災参観日・新二まつりにおける親子防災体験活動の内容について確認した。

特徴的な協働活動

＊取組：総合的な学習の時間 「大人も子どもも、共に学ぶ防災学習」（3年生）
本校の前身は、新庄小学校内の浦分校である。その新庄小学校内の浦分校は、昭和21年12月21日に起こった南海地震による大津波により甚大な被害を受け、移設を余儀なくされた。そういった点から地域の防災について学ぶことは、本校の子どもたちにとってはもちろん、当該地域で生活する保護者にとっても意味のあることだと考え、学校、地域、保護者が連携、協働しながら継続的に学べる機会をつくった。これは、田辺市が進めている学社融合に沿ったものである。学校、地域、保護者が一体となって子どもたちの学びに関わることで、子どもたちにとってはより深い学びに、地域にとっても地域の防災意識の高まりにつながるだろうと考え取り組んでいる。
単元は、「①過去の災害について知ろう」「②自分にできることを考えよう」「③ハザードマップを作って地域に向けて発信しよう」の3つのステージで構成し、自分の地区・通学路を中心に「オリジナル・ハザードマップをつくって発信する」ことを最終目標にし、学習を進めている。ただ町たんけんに行ってマップを作るだけで終わらず、地域、保護者、学校がともに防災についての知識を身につけ、目標達成に向け、継続的に協働しながら学習することができるよう単元を設計した。単元計画を立案する際には、学社融合推進協議会長（元新庄公民館主事）と育友会長（田辺市防災本部勤務：防災の専門家）にもアドバイザーとして参画してもらい、協働して教材開発を行った。保護者には参加希望を募り、子どもとともに学ぶ学習者として、探究的な学習活動（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）に継続的に参加し一緒に勉強してもらっている。（授業【全20時間】は継続中）地域の過去の災害や防災について専門的な知見から話してもらうゲストティーチャーは、3名招聘した。

①大人も一緒に学ぶ教室

②保護者も一緒に研究協議

③大人も一緒にマップ作り

＊取組：総合的な学習の時間 「守ろう私たちの自然遺産」（5年生）
本校は、今年度5年生で実施しているキャンプの宿泊地を熊野本宮おとなしの郷に変更した。これは、『田辺市森づくり構想』と連携した森林環境教育カリキュラム事業に係る学習を計画したからである。この本宮おとなしの郷での1泊2日のキャンプを核とし、総合的な学習の時間や社会科等、教科横断的なカリキュラムを設計し、「みんなで守っていく」～田辺市の森林構想づくり～という学習を展開している。学習は、①事前、②事中、③事後の3つのステップで行っている。事前学習では、インタープリターを学校に招聘し、熊野の森林や木の種類等についてワークショップ形式で学んだ。事中の宿泊学習では、インタープリターによる森林学習、熊野古道の道普請、木材伐採現場の見学、あかね材を使った灯籠づくりなど、現地を歩きながらのフィールドワークや体験活動を通して、田辺市の森林が抱える問題点や林業に携わる方々が抱えている問題点、森林と人との共生等について学んだ。また、新庄地域にある山長商店にも見学に行き、新庄地域も林業と深い関わりがあることを知り、地域を誇りに感じる事ができた。事後学習では、事前・事中で学んだ事をまとめるとともに、森林との共生のために自分たちにできることについても考えた。最後に11月に実施された本校の「新二まつり」にお世話になった方々を招き、学んだことを発表した。また、学びの集大成として、パンフレット『みんなで守っていく』を制作し、配付することを検討している。

①ワークショップでの森林学習

②熊野古道での道普請活動

③新二まつりでの学習発表

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：三栖地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人との繋がり方が難しくなってきている。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子どもは地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。

目標		
	学校・園・地域	・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。 ・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。 ・子どもと地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・地域住民が、子どもたちとのふれあいから子どもたちの様子を知り、教育活動への関心を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

会長（公民館長）
副会長（町内会長）
- 委員：・地域関係者 ・保護者 ・校園長
- 事務局：・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員

支援者及び支援組織

・三栖公民館文化委員
・クラブ活動外部講師
・交通安全指導員
・交通安全協会
・衣笠中学校
・三栖幼稚園
・保護者

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しながら、少しずつ以前からの取組を再開したり、新たな取組を実施したりすることができた。 ・幼稚園との交流機会が増え、繋がりを深めるとともに互いに成長できる機会とすることができた。 ・職員による地域の史跡巡りを実施することで、地域のよさを職員全体で確認することができた。 ・５・６年生の史跡巡りでは、公民館の文化委員の方々から説明を聞くことで、三栖風土記には載っていないエピソードなど詳細について知ることができた。また、地域の歴史、文化を知ることで、地域への愛着や誇りを持つことができた。 ・クラブ活動では、専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた。 ・公民館ロビー展や公民館前掲示板の装飾は、地域の方から好評の声をいただいている。	・新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた活動の幅を更に広げていけるようにしていきたい。 ・校務分掌等で学社融合に関わる職員以外も地域とのつながりを広げることで、多方面との協働体制を整えていきたい。 ・中学校との連携を更に深めていきたい。 ・学校側が地域や保護者に助けていただくことが多いため、地域の方の願いを知ったり、地域貢献につながる取組を増やしたりしていきたい。
公民館（地域）	・史跡めぐりを通して、三栖地域の良さを改めて確認でき、子どもたちと地域の方々との世代間交流ができた。 ・三栖公民館のロビーにおいて月替わりでロビー展を開催したことや、公民館前の掲示板に、小学校の掲示委員の子どもたちに装飾してもらったことで、日常的に地域の方々に児童の作品を見てもらえる機会を提供できた。 ・公民館だより（館報）の発行を通じて学社融合の取組などを広く発信できた。	・公民館関係者の高齢化対策として、館区内で新たな人材を発掘し将来へとつないでいく仕掛けが必要である。 ・学校と公民館だけでなく、地域全体が融合できる機会を作り、つながりを深めていく必要がある。 ・数少ない人口増加地域であるが、古い住民と新しい住民との交流機会やコミュニティの確保が期待されている。 ・新型コロナの扱いや対応が今後どうなっていくのか、活動への影響が懸念される。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◎コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、地域学習・交流の再開と拡大をすることで、地域との関わりを深めていくということを確認し、以下のような活動に取り組んできた。

・児童が地域の公民館・幼稚園・中学校・JA・郵便局・スーパーを巡り、施設見学や交流を行った。
・消防団の方から活動についての講話を聞かせていただいたり、消防車両や設備の見学をさせていただいたりした。
・校内音楽発表会を開き、保護者や幼稚園児を招待して歌や合奏を披露した。
・授業公開日を例年よりも多く設定し、保護者が学校に足を運びやすくした。
・参観日や学校開放週間以外にも、調理実習やミシン指導等での協力依頼を通して日頃から保護者が学校に来られるようにしていく。
・町内会の役員や民生委員、児童養護施設等、地域団体関係者の方々にも学校や児童の様子を見ていただく機会を設定し、協働体制を整えていく。
・学校側が地域や保護者に助けていただくことが多いため、互いに有益な取組を更に見出していく必要がある。

幼稚園との交流

地域の方の授業参観

校内音楽発表会

消防団による講話

特徴的な協働活動

《三栖の史跡巡り》
５年生１１月（上三栖方面　長尾坂まで）６年生１２月（下三栖方面　八上王子まで）
　公民館文化委員の皆さんに語り部をしていただきながら、三栖の史跡を巡った。途中、様々な史跡に立ち寄り、詳しく説明していただいた。
　事後学習では、５年生は学習したことを新聞としてまとめ、６年生は1人１台タブレット端末でパワーポイント資料を作成し、５年生に向けて発表を行った。公民館文化展では、ステージでの発表を予定していたが、コロナウイルス感染症拡大により、発表動画をテレビで繰り返し放送することで地域の方にも見ていただくようにした。
【児童の感想】
・三栖のすごさを家族や地域など、たくさんの人に伝えていきたいと思った。
・文化委員さんといろいろなお話をしながら歩いて楽しかった。
・実際に見ることで、昔の地域についてのイメージがふくらんで、さらに興味がわいた。
・今まで何気なく訪れていた場所が特別な場所に思えるようになった。　等

　夏期休業中には、全職員が三栖風土記をもとに事前研修を行い、公民館長・公民館主事とともに史跡巡りを行った。これまで史跡巡りの経験がある職員が二手に分かれ、未経験の職員に対して説明をしながら巡った。公民館長からは、風土記に載っていないエピソードを交えながら補足説明をしていただいた。
【職員の感想】
・三栖地域の魅力を改めて知ることができた。
・教師が地域の魅力を知ることはとても大切なことだし、よい機会になった。
・公民館やお寺の関係者の方々と関わる機会があってよかった。
・これからも、地域との交流を深めていきたいと思った。　等

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：長野小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館

学社融合における学校・地域の様子

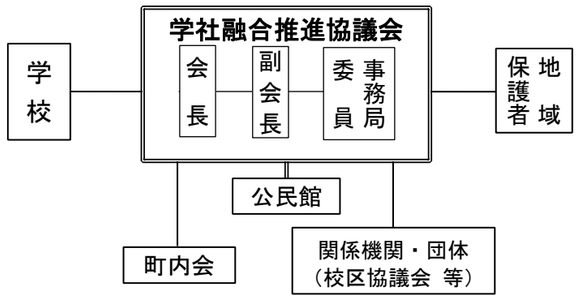
自然豊かな地域で、長野区では梅やみかん作り、伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家が多い。地域の方々は、協力的でいつも児童を温かく見守ってくれている。公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得て、児童は地域の自然、産業、歴史や伝統文化等を学び、地域の良さについて知ることができる。コロナ禍ではあるが、感染予防対策を講じながら行事や活動を行い、学校行事にも地域から多くのご参加をいただくことで、地域の方々同士の交流する機会にもなっている。

目標　**学校・園・地域**

地域と共にある学校づくり
～学校・家庭・地域のみんなで自立・共生・健康をめざして～

学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
- ○　小学校育友会
- ○　長野公民館
- ○　長野町内会
- ○　長野校区協議会
- ○　長野郷明会
- ○　地域関係団体

その他関係機関
- ○　ＪＡ紀南長野店
- ○　光福寺
- ○　不動寺
- ○　各区老人会
- ○　長野・伏菟野地域の方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・校内整備作業や運動会、ジャム作りや地区内ハイキングなど、公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々にご協力いただき実施することができた。 ・学習発表会や参観日にもお越しいただき、児童の頑張りを見ていただくことができた。 ・ほたる学習では、カワニナボール作りなどを通して郷明会の方々の地域を愛する気持ちに触れることができた。 ☆児童は地域の方々にいつも温かく見守られていることを実感したり、地域へ関心を持つとともに、自然豊かな地域の良さについて学ぶ機会を得たりすることができた。	・児童数減少が気になるところではあるが、児童には、地域からの学びを基に、さらに地域を学びたいという意欲を持たせたい。 ・地域学習や体験活動の範囲を広げ、児童の目がより地域に向くよう進めていきたい。 ・地域を学ぶだけではなく、地域に住む一員としてできることを児童なりに考えさせ、行動・発信できるように進めていきたい。 ☆長野・伏菟野地域への愛着や誇り、地域に貢献する心を育てていきたい。
公民館（地域）	・今年度の地区内ハイキングでは、児童と地域住民が共に高尾山に登り、交流を深めることができた。ふるさと長野を俯瞰的に観ることができ、地域学習にもつながった。 ・コロナ禍で昨年度中止となったSDGs学習会については、感染対策を講じながら開催した。 ・学社融合推進協議会関連の各種行事等で、地域住民（公民館・町内会・各団体等）の学校訪問機会を多く確保することができた。	・公民館関係者の高齢化対策として、館区内で新たな人材を発掘し、将来へとつないでいく仕掛けが必要である。 ・児童数も人口も減少傾向にある中、今後どのように活動を持続していくのか、事業の見直し等も含め話し合っていく必要がある。 ・世界遺産など地域の歴史資源を活用した学びの機会確保についても検討の余地がある。 ・新型コロナ感染症の扱いや今後の対応がどのようになるのか、状況によっては活動への影響が懸念される。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◎　少子高齢化が進んでいる現状→地域活性化のために必要なこと

【地域作り】

・地元に帰って来ることができる
・地元に帰って来たいと思える
　} そんな地域作りを していくことが大切

⇩

☆　長野・伏菟野地域への　愛着や誇り　地域に貢献する心を育てる

⇩

【地域の方々の協力】

・児童の見守り活動
・学校行事等での関わりや協力（行事でのゲストティーチャーや行事への参加、学校の環境整備等）

出会った時には、進んで挨拶をしてくれるとの嬉しい声。
児童と積極的な関わりを持つことで、一人ひとりのことをよく知ってくれており成長を見守ってくれる。
活動内容についての、積極的な提案やゲストティーチャーの紹介　　等

特徴的な協働活動

【ブルーベリージャム作り】

①ブルーベリー摘み取り体験（７月21日）

全校児童で、西原地区にあるベリー倶楽部さんの「ブルーベリー園」で摘み取り体験をした。ベリー倶楽部の方から摘み取り方を教えていただき、色が濃くて大きい粒を選びながら一粒一粒摘み取った。かなり根気のいる作業であったが、５００g用のプラスティックカップいっぱいに、一生懸命摘み取ることができた。

その後、ジャム作り用に洗って冷凍保存した。

②ブルーベリージャム作り（10月24日）

ベリー倶楽部の方や、学社融合推進協議会の委員さんに教えていただきながら、ジャム作りをした。ブルーベリーに、グラニュー糖とレモン汁を加え煮詰めていく作業は、火加減に気をつけたりあく取りをしたりと、鍋から目が離せない様子であった。アドバイスをいただきながら、楽しく適度なとろみになるまで煮詰めることができた。

できたてのブルーベリージャムを、ミニホットケーキにのせて食べてみると、「おいしい。」と感嘆の声があがった。

☆地域や保護者、諸団体の方々と関わる様々な活動を通して、児童は、地域の良さを知り地域を愛する方々の気持ちに触れることができた。「なあなあ〇〇ちゃん、私ら長野小学校で良かったなあ。」「うん。ほんまに良かった。長野に生まれて良かったなあ。」「うん。良かったなあ。」というエピソードからも、少しずつではあるが、地域への愛着などが芽生えつつあると感じることができた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会

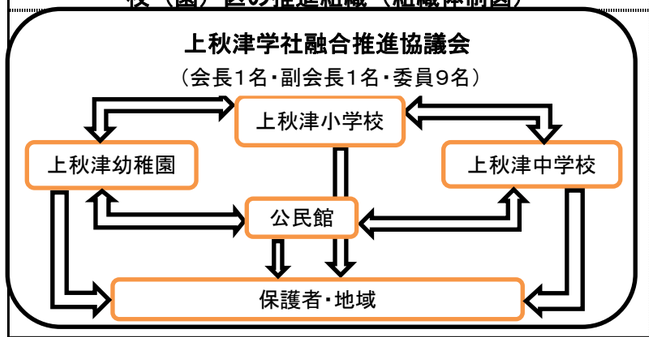
学校・園名	田辺市立上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館

学社融合における学校・地域の様子

当地域は田辺市の中でも、梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。そこで本校では、長年にわたり、地域の方々の協力を得て、体験学習に取り組んできた。平成３０年度までは「共育コミュニティ」の研究指定校として、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。２年前からは幼稚園、小・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。

目標		
	学校・園・地域	・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。 ・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・農業体験学習支援委員会

（ＪＡ紀南、ＪＡ紀南青年部、上秋津公民館、西牟婁振興局農業水産振興課、育友会）

・上秋津町内会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・コロナ禍ではあるが、公民館と連携しながら工夫した農業体験学習を実施することができた。 ・地域とのさまざまなかかわりを通して、児童は地域に親しみを持ち、上秋津のよさについて知るよい機会となった。 ・高学年では、実際に農家の方にインタビューさせていただき、自分自身の将来についても考える機会とすることができた。	・コロナ禍にあって活動を取りやめたり、ゲストティーチャーの依頼を躊躇したりすることもあった。取組時期の調整の関係からも見通しを持ってゲストティーチャーに依頼する必要がある。 ・教師間で入れ替わりがあっても、地域についての取組を共有し、継続して取り組むことができるように位置づけていきたい。「活動して終わり」にならないよう、子供たちの学びを地域へ発信できるような取組にしていきたい。
公民館（地域）	・農業体験学習では、上秋津の地場産業である梅やみかんの収穫体験をすることができた。また、収穫体験後にＪＡ青年部の皆様にお話を聞くことができ、上秋津の農業についてより詳しく知ることができた。 ・農業体験学習を通して、上秋津の良さを再確認することができた。また、地域の方と児童が交流する良い機会となった。	・梅やみかんの収穫体験の時期は繁忙期であるため、ご協力していただく農家の方やＪＡ青年部の皆様の負担をなるべく少なくし、今後も継続して実施することができる事業にしていきたい。 ・学校と農家の方、ＪＡ青年部との日程調整等は連絡漏れが無いよう引き続き公民館を通して行っていく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◆第1回学社融合推進協議会　定例会　（上秋津公民館）　令和4年5月17日（火）
・「早寝早起き朝ご飯」国民推進運動事業についての協力体制について

◆第2回学社融合推進協議会　定例会　（上秋津公民館）　令和4年11月28日（月）
・全国学力・学習状況調査の結果について（小中学校）
・中学校の部活動について
・活動報告

◆第3回学社融合推進協議会　定例会　（上秋津小学校）　令和5年2月17日（金）
・授業参観
・各校の取組と成果・課題について
・意見交流　　学校評価アンケートより

特徴的な協働活動

5年生『みかんでSDGsプロジェクト』

◆農業体験学習支援委員会の協力のもと体験学習を行うことができました。

学習の流れ

（秋津野ガルテンで課題見つけ→みかん収穫体験とJA青年部さんへの質疑応答→年間の仕事や道具等学習（座学）→秋津野ガルテンでみかん加工体験）

加工体験では、ジュースのしぼりかすからできたオイルを使ってハンドクリームを作らせてもらいました。持続可能な農業について直接学ばせてもらいました。

◆児童の感想から

◇台風が来て木が倒れたときが大変だったと聞いたとき、すごくがんばって育てたのにつらかっただろうなと思いました。

◇みかんをとるときは、枝や虫がじゃまで苦戦しました。みかん農家の方が手間ひまをかけつくっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

3．4年生 『ぼんおどり講習会』

◆コロナ禍で今年度も夏祭りが中止となりましたが、地域の方が「高尾音頭」を教えに来て下さいました。公民館と連携しながら声をかけてもらったところ、12名もの方が集まってくれました。講習会当日までに、何度か集まって練習していただいたそうです。

◆子供たちは、住んでいる地区の方と話をする様子が見られました。「もっとおどりたい。」の声が広がりました。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：秋津川地域学社融合推進協議会

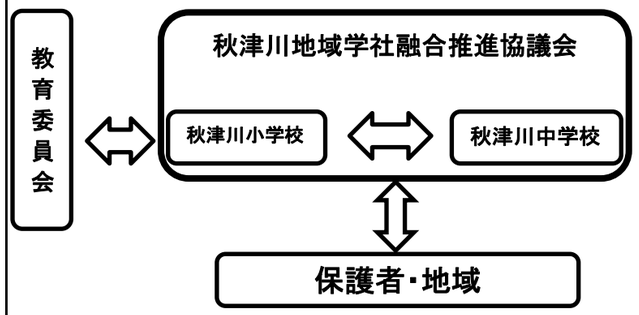
学校・園名	田辺市立秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館

学社融合における学校・地域の様子

本地域は豊かな自然や伝統文化、地域産業に恵まれており、また、地域の方々の学校教育への協力体制も手厚く、常に子どもたちを温かく見守ってくださっている。学社融合の取組によって、地域の産業や伝統文化等について学び、地域のすばらしさを知り、地域を大切に思う心が育まれている。また、秋津川中学校や秋津川保育所との「保・小・中連携活動」によって、交流を縦軸にもつなぐ取組を継続している。

目標		
	学校・地域	・ふるさとに夢や誇りを持ち、未来の創り手となる子どもを育成するため、学社融合を推進し、地域の豊かな伝統、文化、産業、自然環境等について学ぶとともに、地域の方々に感謝し、地域振興に主体的に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域の方々との温かな交流を通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域への愛郷心を養う。 ・日常的に子どもたちと接する機会の少ない方々に、行事などを通して交流を持っていただき、地域の活性化につなげていく。

校区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

秋津川公民館
秋津川町内会
秋津川振興会
JA紀南秋津川店
JA女性会
秋津川婦人会
秋津川中学校
秋津川保育所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域と連携した備長炭風鈴づくり・ウバメガシの森づくり・梅とり・芋ほり体験等の活動によって地域のすばらしさを再発見するとともに、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちをより高めることができた。 ・子どもたちの「地域の役に立てたら」という願いを、防災マップづくり等の活動で具現化することができた。 ・各種行事に、地域の方々にもできるだけ出席いただけるよう努めることによって交流の場が広がり、子どもたちもほめていただくことで達成感や充実感を高めることができた。 ・中学校・保育所との連携では、交流会や行事の合同実施等により、交流と「子ども理解」を深めることができた。	・地域の方々には、日常的に学校教育活動を支えていただいている。温かなふれあいの中で、子どもたちの地域の方々への尊敬と感謝の気持ちが高まるとともに、「少しでも地域の役に立てたら」という願いも高まってきている。その子どもたちの願いと、地域の願いをより強くつなぐために、今後も学社融合の取組を推進し、地域の願いにも耳を傾けていきたい。
公民館（地域）	・昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、地域行事の多くは中止となった。しかし、備長炭風鈴づくり等を通して、地域の文化や資源について今年度も継続して学ぶことができた。 ・防災マップづくりの活動では、避難所の情報をホームページにまとめ、地域内外に広く発信した。子どもたちの「地域に貢献したい」という考えから始まった活動であり、子どもたちの地域への愛着、関心が高いことが地域の方にも伝わった。	・地域の活動が再開した際に、地域と子どもたちの交流がスムーズに行われるよう、学社融合推進協議会を中心に地域と学校が連携できる体制を持続する。また、地域活動の内容について、今後も継続して行うことができるよう、状況に応じて変更、修正を行っていく。 ・子どもたちの「地域に貢献したい」という気持ちを具体的な活動に繋げることができるよう、様々なジャンルの地域人材の発掘、育成が必要である。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

今年度の取組
〇学社融合推進協議会において、学校運営方針を承認いただくとともに取組の目標等を共有した。
〇新型コロナウィルス感染症予防対策のため、地域全体での大規模な行事は制限したものにならざるを得なかったが、教育目標「賢く豊かにたくましく生き抜く力を育てる」の実現のために、連携し、工夫しながら計画を実行してきた。学社融合推進協議会の方々には、行事等の案内を手渡し、その都度「いつでも来校くださり、子どもたちの様子をご覧ください。」と声をかけるよう努めた。
〇学社融合推進協議会長・秋津川公民館長には日常的に教育活動の様子をみていただくとともに、地域学習の講師先生になっていただくなど、手厚い支援をいただいた。
〇子どもたちは、地域の方々の支援によって、秋津川の豊かな伝統文化、歴史、自然、産業について学習し、その成果を「秋小発表会」の舞台で発表することができた。今年度は学社融合推進協議会の皆様が、保護者とともに大きな拍手や励ましの言葉を送ってくださり、子どもたちは達成感や充実感をより高めることができた。
〇地域防災のため、様々な団体と連携して防災マップ（避難場所・避難所情報）を作成し、地域全体に広報することができた。
〇人権教育講演会（子育てに関わる学習会）を2月に開催（秋津川公民館と共催）する。

特徴的な協働活動

〇紀州備長炭風鈴づくり･田辺駅構内展示（全学年）
秋津川発祥の紀州備長炭と世界農業遺産「みなべ･田辺の梅システム」とのつながりについて、秋津川振興会長、秋津川公民館長からお話しいただき、その後、秋津川振興会の方々から備長炭風鈴づくりを教わった。子どもたちは、「田辺へようこそおいでくださいました」などの手書きのメッセージを風鈴の短冊に書き記した。作成した備長炭風鈴は、紀伊田辺駅構内に展示し、駅を利用する方々にもその涼やかな音色を聞いていただいた。

しっかりお話を聞いて作り方を教わりました。作業は難しかったけど、初めて田辺を訪れる人たちのためにがんばりました。風を当てると、備長炭の音が、とてもきれいでした。

〇地域の防災マップづくり （3～6年生）
県がオープンデータとして公開している「和歌山県避難先情報一覧」を活用し、防災マップづくりに取り組んだ。秋津川公民館、紀伊民報社、秋津川町内会、田辺市防災まちづくり課の方々から支援いただき、備蓄品、ＡＥＤの設置場所、避難先での過ごし方について学んだ。その後、実際に地域の避難施設に足を運び、避難場所の備蓄品の種類や設備について調べ、防災マップを作成した。地域の方々が使いやすいよう、防災マップは、紀伊民報社の特設サイトや、県オープンデータカタログサイトで公開していただくとともに、秋小発表会等でダイジェスト版を配布するようにした。（右下）

〇紀州備長炭の里　秋津川　ウバメガシの森づくり事業（秋津川中学校と合同参加）
秋津川振興会･町内会の皆様をはじめ、たくさんの方々に支援いただき、全学年で、ウバメガシの植樹、どんぐり植え、木工作業を体験した。備長炭原木の薪炭林や梅林等によって土砂流出が防止され、豊かな自然環境が守られていると地域の方から教わってきているおかげで、子どもたちはやりがいを持ち、意欲的に作業を行っていた。作業後、子どもたちは、「30年後のウバメガシの森を見るのが楽しみです。」などと語っていた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上芳養地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。
小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。
公民館は子供対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。

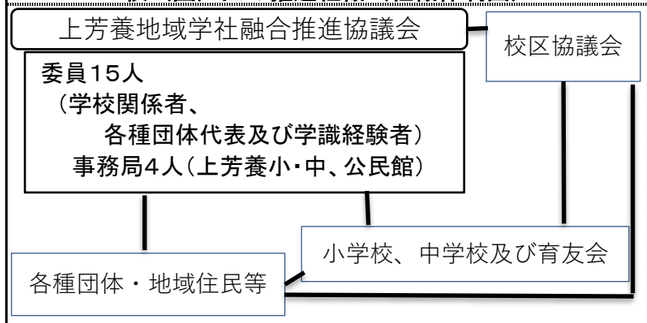
目標

学校・園・地域

学校
○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。
○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。
○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。

地域（公民館）
○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。
○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。
○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
　上芳養小学校育友会
　上芳養中学校育友会
上芳養公民館
日向保育所
各種団体
　・上芳養町内会
　・交通安全協会上芳養分会
　・上芳養消防団
上芳養校区協議会
学識経験者
地域の事業所・地域の先生

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・コロナ禍ではあるが、少しずつ活動できる範囲が広がり、昨年よりも地域の方から学ぶ機会が多くなった。地域の方々に学校の教育活動をより知っていただくことができた。 ・地域の方は、非常に協力的で、梅学習をはじめ、他の学習についても年間計画に位置付け系統的に学ぶことができた。 ・また、校内には書や絵画などの芸術作品を多数展示し、子どもたちは、土地付いた環境で豊かな学びの時間を過ごすことができている。 ・多くのゲストティーチャーを招聘することができた。	・コロナ禍で、梅学習等以前の様に戻りつつある学習と、高齢者学習や障害者施設の訪問等、取り組めていない学習もある。今後、方法も探りながら実施できるようにしたい。 ・地域や社会に貢献できる人材育成の視点から、公民館をはじめ地域の各種団体とより連携を深めて取り組む必要がある。
公民館（地域）	・乗馬体験教室等、日常生活では体験できないような事業を通して、感性を磨き、人間性を育むことができた。 ・文化や体育等の各種事業において、児童、地域、教職員、公民館が連携・協同して取組を行うことができ、関係性をより深めることができた。 ・公民館内の図書コーナーの利用を活性化させ、読書の推進を促した。また、公民館の事業に参加したことのなかった児童たちにも公民館を身近に感じてもらい、今後の事業参加に繋げることができた。	・児童向け事業の参加者数をより増加させていくため、児童たちの興味のあることや、意向を踏まえながら、昔ながらの良い事業、時代に即した新しい事業を織り交ぜながら展開していく必要がある。 ・感染症対策をしてきたことで、絶たれてしまった事業や地域との交流を、フェードアウトさせないように取り組み、学校と地域の結びつきをより強固なものにできるように努める。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

第１回定例会　新型コロナ感染症拡大防止により文書決裁
○上芳養小、中学校　学校経営方針
○令和４年度事業計画書
○令和４年度収支予算書

第２回定例会　令和４年７月１９日（火）
○上芳養小学校の取組・・・梅学習を中心とした取組の紹介
○上芳養中学校の取組・・・梅アピール大作戦等取組の紹介
○今後の活動について
・敬老祝賀会や祭等の地域の行事
・作品展などの公民館行事　　コロナの様子を見て決定する
・梅マラソン
・旧中学校跡地に、子どもたちが遊べる公園を造っていく予定。
○その他 ・サルの学校の畑や通学路における出没について、専門家を入れて対策を進めている。
・時代の流れに乗っていく方が生き残れる。上芳養もいい意味で変われるようにしたい。

第３回定例会　２月に開催予定
・活動のまとめと次年度の取組について　・学校評価について

特徴的な協働活動

～ 地域の先生から学ぶ ～

ころころ山　読み聞かせ　全学年
毎月第2第4木曜日　8:10～8:30
地域の方々で構成されている読み語りグループ「ころころ山」のメンバーが読み聞かせをしてくれている。
低学年では、紙芝居や絵本を中心に、中学年では、絵本を中心に、高学年では、絵本や語りを中心に読み聞かせてくれている。

生け花教室　6年
毎週水曜日(12月からは火曜日)12:45～
地域で生け道教室を開いている先生に来ていただき、生け花教室を行ってもらっている。1巡目は2人で、2巡目からは1人で教えてもらう。毎回2～3種の花で生け方を教えていただいている。同時に花の名前や花の特徴も教えていただいている。

戦争の話　3年
10月17日(月)
「ちぃちゃんのかげおくり」の時代背景を理解するため、地域に住んでいる戦争経験者2名に来ていただいて当時の様子を話していただいた。
物語を読解していく上で、戦時中の時代背景が分かっていると、すんなり物語に入れた。

ようこそ先輩　5，6年
創立記念日(7月15日)　8:10～
毎年創立記念日に上芳養小出身の先輩に来ていただき、昔の地域や子どもの様子についてお話をしていただいている。
今年は、東京出身であるが上芳養にお住まいの方に来ていただいて、東京と上芳養の小学校の違いを話してもらった。比べることによって、上芳養の良いところが見えてきた。

書道教室　3～6年
年間6～7回
書初会の時期を中心に、地域の書道に精通している方に来ていただき、毛筆を教えていただいている。 書き方から、文字の細かいポイントまで分かりやすく教えてくれている。

1／2成人式　4年（予定）
2月1日(予定)
公民館長さんをゲストに迎えて、参観日に合わせて、１／２成人式を行う予定。

～　梅から地域を学ぶ　～

【３年】６月　梅座学　JA職員より梅についてのお話を伺う。
梅採り　地域の方の畑で体験をする。　⇒　梅ジュース作り
【４年】３学期　着花率調べ　JA職員の指導のもと，地域の方の畑で観察・調査をする。（予定）
【５年】６月　梅座学　JA職員より着果率、流通等のお話を伺う。
梅拾い・梅漬け体験
７，８月　梅天日干し作業　地域の方の指導のもと実施する。
３学期　中芳養梅加工場見学　梅干しパック詰め　パンフレット作り（予定）
【６年】２学期　田辺市観光センターに梅干しを置いてもらい、配布する。
３学期　梅座学　地域の方より世界農業遺産等についてお話を伺う。（予定）

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中芳養地域学社融合推進協議会

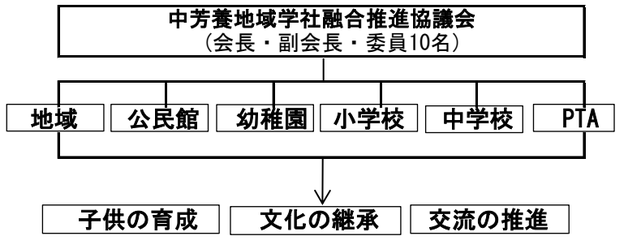
学校・園名	田辺市立中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、田辺市街地周辺の梅・柑橘類の栽培を主とする農村地帯にある。児童は明るく、上級生が下級生の世話を進んで行い、地域住民も学校の教育活動に協力的で、みんなで子供たちを見守ろうとする優しい雰囲気の中で教育活動を行っている。平成２８年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の継承」「交流の推進」を大切にし、学校と公民館が連携しながら地域の教育資源を生かした教育活動の充実に努めている。

目標		
	学校・園・地域	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・中芳養公民館
・中芳養幼稚園
・中芳養中学校
・JA紀南芳養谷支所
・中芳養町内会
・中芳養地区老人会
・中芳養地区消防団
・中芳養小学校PTA
・地域の農家
・地域の寺院・神社

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナの影響はあったものの、地域と連携した学習活動に計画的に取り組むことができた。 ・自然、歴史、人、文化等の地域の教育資源を活用した学習によって、児童は教科書では学べないことを学び、ふるさとの良さを知ることができている。 ・調査、体験、資料の整理、発表等の活動を通して、課題を探求する力や表現力、仲間と協力する態度等を育成することができた。	・従来の活動を継承しつつ、さらに充実した活動になるように、カリキュラムの工夫や見直しをしていきたい。 ・ゲストティーチャーとして協力してもらえる人材を、今後も公民館と協力して探していく必要がある。 ・活動や体験だけにならないように、つけたい力を明確にして学習を展開していくことが大切である。 ・学校の取組について、今後も授業参観や学校便り等を活用して積極的な情報発信に取り組んでいきたい。
公民館（地域）	・公民館事業では、参加者や講師である地域の方とふれあうことで、児童たちと地域住民とのコミュニケーションが図られ、世代間交流を促進できた。また、異学年の児童同士の交流もできた。 ・合同作品展等、地域と学校が一体となって事業を行うことで、関係性が強固になった。また、児童たちの日頃の学習成果を地域の方に見ていただくことで、児童の学習意欲も増加し、地域の方も、地域をあげて子ども達を大切に育てていこうという気持ちを改めて感じていただけた。	・児童が中心となる公民館行事は現在限られているので、新しい事業も展開していく必要がある。 ・学校運営や公民館事業に積極的に取り組んでくださる人材を、より増やして行けるように取り組む。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・授業参観から。落ち着いて学習に取り組めている。昔に比べて児童数が減ったが、いきとどいた指導ができてよいのではないか。
・今年度の学社融合の取組から。コロナ禍の中でも工夫した実践が行われていてよいと思う。
・交通安全について。通学路で横断歩道の表示が分かりづらい場所がある。
・情報モラル教育と家庭でのルールの必要性について。
・地域の歴史について教えてくれる人や菜園管理に協力してくれる人材が欲しい。

特徴的な協働活動

ふるさと学習

感染対策を取りつつ、多くの方の協力をいただいて取組をすすめることができた。地域の自然・歴史・産業等の教育資源を生かした豊かな学びが展開できている。

１・２年

季節みつけ
季節ごとに違う草花や生き物の様子について地域の先生に教えていただきながら観察した。

まちたんけん
地域にあるお店や事業所などを訪問して仕事の様子や工夫について学んだ。

梅博士になろう
JA芳養谷支所と地元の農家さんの協力を得て、収穫や梅干し作り等に取り組んだ。

クリーンアップ作戦
自分たちの住む地域の環境をテーマに、校区内の調査や清掃をおこ

３・４年

写生会
地域にある神社に出かけ、伝統的な建物を題材に絵画制作に取り組んだ。

中芳養の魅力再発見
地域の名所を訪ね、ICTを活用してまとめ、紹介した。

５・６年

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：田辺東部小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館

学社融合における学校・地域の様子

平成７年に「ひがしコミュニティーセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組の充実を図ってきた。新型コロナウィルス感染症の影響で令和２・３年度は多くの活動を制限せざるを得なかったが、本年度は３年ぶりに「東部っ子を育てる会」と「ひがしふれあい秋祭り」を開催することができた。感染症対策のため、ともに従来のものとは異なった内容・形になったが、これまで受け継がれてきた学校・地域の取組を再開できたことに大きな意義を感じている。来年度も地域・学校を取り巻く状況を総合的にとらえて判断しながら、本会の本来の目的がより高い水準で達成されるよう取組を進めていきたい。

目標

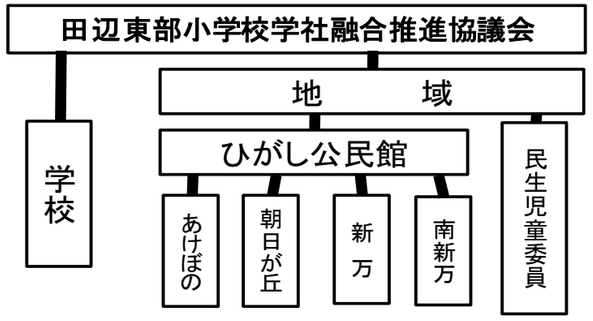
学校・園・地域

〇地域の方々が持つ知識や技能を活用し、専門的・体験的な学習を展開することで、子供たちの学ぶ力・生きる力を育む。

〇学校と地域が協同的な活動に取り組むことで、地域の魅力・課題への認識を深め、子供も大人も地域の一員であるという自覚を高める。

〇様々な交流やふれあいを通して、地域の方々と子供たち、また地域の方々どうし・子供たちどうしが望ましい人間関係を築く。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

◎ひがしコミュニティセンター
◎ひがし公民館
◎ひがし秋祭り実行委員会
◎花つぼみ会
◎読み聞かせサークル
◎ちひろ助産院
◎地域にお住まいの方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	〇３年ぶりに「東部っ子を育てる会」と「ひがしふれあい秋祭り」を実施した。従来のものから規模を縮小することになったが、感染症対策をとりながらできる限りの取組を行うことができた。 〇地域の方々をゲストティーチャー等に迎えることで、学校職員による指導だけでは実現できない学びを子供たちに体験させることができた。 〇「６年生語り部活動」で子供たちは地域の歴史について学び、保護者に向けて発表会を行うことができた。	〇新型コロナウィルスの感染状況は今後も見通しが不透明であるため、変化する状況に応じて弾力的に取組を進めていく必要がある。 〇２年間のブランクを経ての開催だったため、準備や運営で手落ちや行き違いがあった。今回の課題を次回に生かしたい。 〇それぞれの活動が子供たちにとってより主体的なものとなるよう、目的意識や課題意識の持たせ方を工夫したい。
公民館（地域）	〇３年ぶりに「ひがしふれあい秋祭り」を開催した。例年より規模を縮小しての実施となったが、地域と子供たちの関わりの場とすることができた。 〇３年ぶりに「ひがし趣味の作品展」を開催した。今年度は全校児童の作品を展示して、地域の方々に見ていただくことができた。 〇「６年生語り部活動」で、子供たちに地域の歴史や施設、住民の願い等を伝えることに喜びを感じている。自分たちにとっても、地域を再認識できる活動となった。	〇３年ぶりの開催となったこと、例年と開催内容が異なることなどから、準備の段階でトラブルが発生した。今回の課題を来年度に生かしたい。 〇今後も公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切であるが、新しい生活様式の中で、取り組み方について検討していかなければならない。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

〇新型コロナウィルス感染症に対応しながらの学校運営も３年目に入った。感染リスクを抑える工夫をしながら、昨年度まで行えなかった行事を実施できたことはとてもよかった。子供たちにとっても、大人にとってもそれぞれ意味のある体験になったと思う。

〇授業の様子を参観し、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られた。また、先生方が工夫して授業づくりをしていることも見て取れた。校内の掲示物など環境整備にも手間をかけてくれていて、ありがたく感じる。

〇特に１年生は、１学期と２学期で教室の雰囲気ががらりと変わっていた。この数か月間の成長が表れている。特別支援学級の在籍児童を合わせて３６名という大人数で、支援員の先生が果たす役割も大きいのだろう。

〇１人１台ずつ学習用タブレットが配置されていて、それを積極的に活用していることが分かった。インターネットを通じて手早く幅広い情報が得られることや、画像や動画を日常的に活用できることは利点だと思うが、じっくり文章を読んだり丁寧に言葉で表現することも大切にしていってほしい。

特徴的な協働活動

〇6年生語り部学習

10月27日（木）、6年生は4名のゲストティーチャーを迎え、あけぼの・新万・南新万・朝日ヶ丘・橋谷の歴史などについて教えていただいた。その後、プレゼン形式にまとめ、11月13日（日）の「ひがしふれあい秋祭り」に「地域の魅力を発信しよう」と題して学級別で語り部発表をした。子供たちからは「初めて知ったことがたくさんあった。もっと詳しく知りたい。」「地域の特徴や歴史を学習して、普段の身近な景色も違って見えるように思う。」などの感想が、ゲストティーチャーからは「地域のことに興味を持ってもらえてよかった。」という声が聞かれた。

〇ひがしふれあい秋祭り

１１月１３日（日）、田辺東部小とひがしコミセンを会場に「第１３回ひがしふれあい秋祭り」を開催。ステージイベントには、「ひがしコーラス」が出演し、息の合った歌声を披露してくださった。続いて、１・２年生が元気いっぱいの「キッズよさこいソーラン」でお祭り気分を盛り上げた。３～６年生も、総合的な学習の時間などに取り組んだ成果をクラス別に発表した。育友会の協力による餅まき、町内会の協力によるお土産コーナーもあり、子供たちは満足そうな表情を浮かべていた。来場者を制限したり半日開催としたり従来とは異なる形となったが、３年ぶりに実施できたことが喜ばしい。

〇花の苗植え

11月18日（金）、「花つぼみ会」の方々に指導を受けながら、3年生が花の苗植えを行った。保護者も参加し、国道42号線沿いの花檀にパンジーやナデシコなど約200本を植えた。また、学校に戻ってから、それぞれが選んだ苗を自分の鉢に植えた。事前に代表の方から「花つぼみ会」の歴史や活動の意義を学んでいたので、子供たちは目的意識をもって苗植えを行うことができた。子供たちからは「いろんな所に花を植えている『花つぼみ会』の目的を知って、すごくいいことだと思った。」「自分で植えた花を大切に育てていきたい。」などの感想が聞かれた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：龍神小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立龍神小学校	公民館名	龍神公民館　龍神分館

学社融合における学校・地域の様子

龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することで龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。
保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。

目標	学校・園・地域	
		本校における学社融合の目標 ・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことで児童の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の資源や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

龍神小学校学社融合推進協議会
会長－副会長－委員（７名）

公民館	PTA	行政局　教育事務所

支援者及び支援組織

田辺市役所　龍神行政局
田辺市立龍神小学校PTA
田辺市立龍神小学校動産委員会
田辺市龍神公民館龍神分館
田辺市教育委員会　龍神教育事務所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・昨年度の反省を生かし、地域の方と一緒にできることを精選しながら行事を行った。昨年度より多くの方に関わっていただくことができた。 ・地域の方々に子どもたちの様子を見ていただいたり、ご指導いただいたりすることができた。 ・行事にご参加いただいた方には喜んでいただける機会となった。 ・少人数で学習しているため、相手を意識して発表できる機会は貴重である。見ていただけること、喜んでいただけることを励みに学習に取り組むことができた。	新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて、地域の方に協力していただける行事について見直しや工夫を行い、参加していただけるようにしたい。
公民館（地域）	・活動を通して、子どもたちと地域の方々のふれあいの場となった。ご高齢の方にとって運動会や学習発表会などの行事は、子どもたちの頑張る姿を見たり声を聞いたりする機会となっている。そのため、参加された方からは、「元気をもらえた」「子どもたちの様子が見られて嬉しかった」という声が聞かれた。	新型コロナウイルス感染症の状況を見極めて、積極的に地域の方々の力を借り、機会を捉えながら行えるように計画を立てて実行していきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

第1回
・学校の経営方針に関する事項について、本年度重点的に取り組んでいくことを中心に学校長が説明を行った。
・教育課程編成に関する事項について、コロナ対策をしながら編成をしていることを学校長が説明した。
・運営に関する年間計画について話し合い、防災デイキャンプ、運動会や学習発表会で協力していくこととなった。

特徴的な協働活動

・防災デイキャンプ（６月２４日）

「出張！ふれあいルーム」代表の幾島浩恵さんを講師に迎え、「災害時や災害が起こる前、人の命を守るために何ができるのかを知る」というテーマで保護者や地域の方にご参加いただき取り組んだ。体験活動ではスリッパづくり、簡易トイレづくり、牛乳パックを使った食器づくりを行った。さらにその食器を炊事体験で作ったカレーやポテトサラダを入れる時に使った。午後からは、田辺市防災まちづくり課の方を講師に迎え、災害が起こる理由や起きたときの対処法や防災バッグの中身について学習した。

・運動会（10月2日）

校報を通じて、地域の方に参加を呼びかけた。昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策をお願いし、応援をしたり、じゃんけん大会などの種目に参加したりしていただいた。
本年度は、地域の方にたくさん参加していただけるよう、全員で参加できる種目を増やしたり、中学生のリレーには保護者や中学生の保護者、小、中学校の職員が参加したりした。

・学習発表会（10月26日）

校報を通じて、地域の方に参観を呼びかけた。本年度も新型コロナウイルス感染症防止に留意し、学習発表を行った。最後には、全校で龍神太鼓を披露した。
高学年の児童が地域でインタビュー活動を行ったこともあり、たくさんの地域の方がご参観くださった。
地域の方の指導を受けて龍神太鼓の練習をすることができ、本番も自信をもって発表できた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上山路小学校学社融合推進協議会

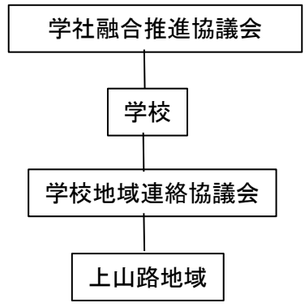
学校・園名	田辺市立上山路小学校	公民館名	龍神公民館 殿原分館・東西分館・宮代分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、殿原小学校、東小学校、宮代小学校が統合して１４年目を迎えた。その間、3地域の願いや想いを大切にしながら様々な取組を行ってきた。平成26年には、田辺市学社融合の研究発表大会も行った。地域の方々は、「自分たちの学校」という思いを強く持ってくれており、何事にも協力的である。地域の教育資源を生かし、地域と学校が一体となった取組を進めている。

目標	学校・園・地域	
		学校地域連絡協議会会則 上山路小学校と学区民が連携を図り、地域全体で児童の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。 本校における学社融合の目標 ・「地域とともにある学校」づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域の連携を強化し、子ども達の健全育成を進める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・丹生ノ川区、殿原区
・上宮代区、下宮代区
・東区、西区
・丹生ノ川果無クラブ
・殿原老人クラブ
・ピンコロ会
・上宮代ふれあいクラブ
・あけぼの学級
・殿原婦人会
・宮代婦人会
・東西婦人会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・感染症対策を講じながら、学社融合推進協議会、学校地域連絡協議会との連携を図り、諸行事を実施することができた。 ・コロナ禍において、例年行ってきた行事を、少し形を変えながら実施することができた。 ・地域の自然や、歴史、文化を知り、地域を大切にしようとする愛郷心を持つことができた。 ・地域の方との交流では、子どもたちだけでなく、地域の方にも喜んでいただける機会となった。また、子どもたちの様子を知ってもらうことができた。	・それぞれの活動が、目的意識や課題意識を持って取り組めるよう、ゲストティーチャーと綿密な打ち合わせを行う必要がある。 ・自ら進んで挨拶したり、関わっていったりできるよう、コミュニケーション能力を高めていきたい。 ・コロナ禍において、事業が中止になったり、規模を縮小したりしてきたが、教育活動が元に戻ることで、コロナ前の取組の様子を模索しながら、活動内容も検討していきたい。
公民館（地域）	・学校行事・取組への参加が交流の場となり、学校を中心としたコミュニティが形成されている。 ・新型コロナウイルス感染症が流行以降、実施できていなかった「上山路祭り」について、内容等を変更し、実施することができた。	・学校行事や学社融合の取組を進めるには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。しかし、人材の高齢化が進んでいるため、新たな人材の確保が必要である。 ・学区が広域（３地区）のため、学区民に地域の学校として身近に感じてもらえるように工夫して取組を行うことが求められている。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【児童の様子について】
・誰に対しても、自分の考えを自然に話せる子どもになってほしい。話しかけられても固まらずに話せるようになるといい。
・あいさつの声が大きくなってきた。「あいさつされるとうれしい」「あいさつされると気持ちいい」という思いがあると、誰かにあいさつしたくなり、自然と気持ちのよいあいさつができるようになる。
・友だちと違う考えでも言える環境、間違っていても受け止めてくれる環境が大事。

【「さん」づけの呼び方について】
・授業中、友だちのことを〇〇さんと呼ぶが、その意図について詳しく知りたいとご意見があった。 ジェンダーレス、男女混合名簿、ＳＤＧ’ｓ 、ＬＧＢＴなどから、学校での 授業中は「さん」づけで呼んでいる。

【いじめについて】
・いじめはあるのかというご質問があった。トラブルがあってもその都度解決している。いじめられていても声に出せない子どももいるので、アンテナを高くして小さな変化に気付くようにしている。

特徴的な協働活動

花の苗植え　　春・秋　　参加者：全校児童

地域のゲストティーチャーと全校児童１９名で、学校の花壇やプランターに、花の苗植えを行った。全校児童で種まきからポット植えまで、水やり、草引きなどをして大切に育てた。
春は、マリーゴールド、ケイトウ、サルビアなど６種類の花を植えた。
秋は、パンジー、ビオラ、など６種類の花を植えた。
プランターは地域の郵便局に届けた。地域の方との交流を通して、植物を大切に育てる気持ちを学んだ。

藍染め体験　　7月14日　　1・2年生

学校の花壇に植えている藍の葉を摘み取って、藍染め体験を行った。自分たちで育てた植物を使い、きれいな藍色に染めることができた。地域の方に藍染めの仕方を教わり、地域の自然の素晴らしさを実感した。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中山路小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中山路小学校	公民館名	龍神公民館　中山路分館

学社融合における学校・地域の様子

本校では平成11年より龍人学（ふるさと教育）として、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かした実践と共に「地域の学校」としての活動を展開してきた。保護者および地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を推進しながら、学校が持つ役割や責任を自覚し、家庭・地域・関係機関との連携の在り方を相互補完型から協働機能型へとその発展をめざしてきている。今年度は新型コロナウイルス感染症の行動制限がなくなり、少しずつ本来の活動ができつつある。

目標

学校・園・地域

・学校・保護者・地域の連携を密にし、相互にその教育力を活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。

・地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。

・地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

保育園・中学校・公民館・福祉施設

↓

中山路小学校学社融合推進協議会【体育部会・文化部会】
（会長・副会長・委員・事務局）

↓

保護者・地域住民

支援者及び支援組織

・中山路小学校ＰＴＡ
・龍神公民館中山路分館
・３地区
・２地区シルバー会
・柳瀬保育園
・龍神中学校
・龍トピア・龍の里
・龍神教育事務所
・学識経験者

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・学校では教えることができない専門性の高い内容を地域講師から学ぶことができた。 ・交流学習会は、児童のコミュニケーション力を鍛える場となった。 ・地域教材を生かした学習や保護者・地域の方との交流学習会は、児童の学ぶ意欲を高めてくれるものとなった。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の行動制限がなくなったことで、感染対策を講じながら学校への来校や行事参加について、広く地域や保護者に呼びかけることができるようになった。 ・学社融合推進協議会向けの参観授業日をもうけることができた。	・行動制限がなくなり、いろいろな行事をどのような形で行っていくかをＰＴＡ、学社融合推進協議会で話し合っていく必要がある。 ・交流学習会は、学年部ごとに児童につけたい力を明確にした要項を作成し、早い目に計画を行う。地域講師とは、事前に綿密な打ち合わせを行う。 ・日常的な挨拶や返事など、児童のコミュニケーション力を継続的に鍛えていく。 ・新たな魅力ある地域教材を発掘していく。
地域（公民館）	・地域について学ぶことで、地域の良さに気づくことができた。 ・交流学習会は、児童・保護者と地域の方々のコミュニケーションの場となった。 ・保護者や地域の方が子どもと向き合って共に活動したり、地域教材で学んだ学習の成果発表を聞いたりすることで、地域の良さを再発見する機会となった。	・学社融合活動に参加される方が固定化してきており、新しい方に参加していただけるような工夫が必要。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない活動があり、以前の活動へスムーズに戻していくことが必要。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【第１回中山路小学校学社融合推進協議会】

【議事】①本会について　②役員選出
③令和４年度中山路小学校の経営計画について
④本年度の計画について　⑤地域の児童の様子について　⑥その他
・通学路の危険箇所については、学校、地域ともに協力しながら行政にあげていく。
・挨拶運動なども、地域によびかける。
・通学途中のマスクなども適宜はずして、必要な時にできるようになってきている。

特徴的な協働活動

【交流学習会】

日　時　：　令和4年　11月　30日(水)　13:00～15:35
ねらい　：　昔の遊びやスポーツ、和楽器の演奏などを教わり、交流することで親睦を深め、コミニケーション能力の向上を図る。
参加者　：　児童・保護者、地域の方々
低学年:昔の遊びを楽しもう　中学年:囲碁ボールを楽しもう　高学年:和楽器演奏に挑戦

〇一番楽しかったのは、けん玉です。亮平さんと修世さんのお母さんが教えてくれました。けん玉がてっぺんにのってうれしかったです。
〇ぼくは、お手玉が得意になりました。地域の方に教えてもらったからです。楽しかったです。

〇シャッフルゴルフは難しかったけど、すごく楽しかったです。
〇囲碁ボールやシャッフルゴルフを地域の人やお家の人としてみて、上手にできたり失敗したりしたけど、とっても楽しかったです。地域の人、お家の人も楽しそうだったのでよかったです。

〇5・6年生で三味線をあわせて、うまくできてよかったなと思いました。練習するにつれて、みんな上手になっていってすごいなと思いました。
〇はじめて三味線をしたけど、すごく楽しかった。地域の方が親切に教えてくれたので、少しずつ弾けるようになって、うれしかった。

【地域の昔話を知ろう】

ねらい　：　地域の昔から伝わるお話を知り、文化を学ぶ。（低学年）

地域の人から昔話を聞く

昔話の場所を見学

学習発表会で発表

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：咲楽小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館 福井分館・甲斐ノ川分館

学社融合における学校・地域の様子

地域の、学校や教育に対する関心が強く、ほとんどの家庭がPTA準会員として協力してくれており、運動会や学習発表会等にもたくさんの地域の方々が参加してくれている。本校では創立時より各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。例年であれば、地域の祭礼に児童も参加し、事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加すると共に、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなどの協力をしている。地域ぐるみで子どもを育てようとする土壌がある。

目標

学校・園・地域

○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境作りに寄与する。

・咲楽小学校の教育発展のために広く意見を聞き、学校運営に反映できるよう努める。

・学校を開き、地域住民と連携を図っていく中で、学校教育方針の周知に努める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

咲楽小学校 ⟺

学社融合推進協議会
・会長・副会長・委員（学校長含む）

⇕

学校地域連携推進会議
・老人会（４地区）・区長会（４地区）
・女性会（福井、甲斐ノ川）
・公民館（２分館、福寿学級）

⟺

支援者及び支援組織

・咲楽小PTA
・校区会（４地区）
・龍神教育事務所
・市教研龍神ブロック
・柳瀬保育園

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・昔の遊び、苗植え等、地域の方々の支援を必要とする学習や活動を通して、学社融合の大切さを再認識した。 ・大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知ってもらうことができた。 ・地域との一体感が得られた。 ・今年度は、感染症の予防をしながらの取組であったが、ほぼ例年と変わらない取組ができた。	・学校開放週間中の行事は、可能な限り同日開催を増やす。 ・やはり公開授業を参観してくださる方が少ない。 授業を観てくださる方を増やす工夫をする必要がある。 ・高齢者が多いので、取組や参加態勢について工夫をする必要がある。
公民館（地域）	・学社融合活動を通じて、児童と触れ合うことが大人にとっても楽しみであり、学校と地域を繋ぐ良い機会となっている。 ・学社融合推進協議会及び学校地域連携推進会議が積極的に活動してくれているので、地域との繋がりが安定したものになってきている。 ・感染症予防の為、一部内容を変更した取組みもあったが、予定した活動を行うことができた。	・学社融合活動に参加される方が固定化してきており、新しい方に参加していただけるような工夫が必要。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない活動があり、以前の活動へスムーズに戻していくことが必要。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議
第１回　学社融合推進会議
議案
（１）委員の選任
（２）当年度の学校運営の基本方針の説明　教育目標・経営目標・教育課程など
（３）学校・地域課題の決定
（４）課題を検討する各専門部会の決定　リーダーの決定、委員の選出など
学校地域連携推進会議
第１回学校地域連携推進会議
（１）第１回学社融合推進会議の共有
（２）当年度の取組内容や具体的事項などの協議
（３）各部会での活動内容や計画の検討
第１回専門部会　具体的な活動計画
○安全対策部会　取組…登校指導、下校指導、防災頭巾、通学路危険箇所確認
○行事運営部会　取組…運動会参加の呼びかけ（バザー等の運営）、ゲストティーチャーや地域人材の紹介（昔の遊び学習の指導等）、各行事への参加呼びかけ、共育ミニ集会の開催
○環境整備部会　取組…夏の整備作業の参加、運動会前の運動場整備、花壇の整備、秋の落ち葉清掃、遊具の点検、図書室ボランティア
第２回専門部会　次年度へ向けて（活動の振り返り、成果と課題）
第２回学社融合推進会議
（１）学校運営の基本方針に係る取り組み報告（活動状況報告書の作成）
（２）各専門部会からの取組報告（活動状況報告書の作成）
（３）次年度に向けての意見交換（４）本部会議からの報告事項

特徴的な協働活動

◇11月7日～11日「学校に行こう」（学校開放週間）
学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！（学校開放週間）」を設定した。校区全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と老人会には重ねて出席を呼びかけ，多数の保護者や地域住民の参加があった。
①収穫祭　8日（火）
全校で育てたさつまいもを収穫し、当日、学級毎に準備をし、校長が準備した炭火に入れて焼き芋にした。芋が焼けるまでの間、５･６年生が中心となりレクレーションを行った。また、お世話になった地域の方にも食べていただいた。例年は、お餅を作り保護者や地域の方に来ていただいてみんなで収穫を祝うが、今年は感染症予防のため内容を変更しての取組であった。
②給食試食会　9日（水）
事前に希望者を募り、普段児童が食べている給食を試食し担当者と意見交流を行った。感染症対策として、それぞれ距離を十分取れる場所を会場とした。参加者は、例年とほぼ同じような人数であった。
③公開授業　９日（水）
各学級で国語、算数、理科、社会、生活科、体育、音楽、道徳等の授業を公開し保護者や地域の方々に参観していただいた。保護者の参観が少ないのが例年の課題であったが、今年は、全体的に保護者の参観が多かった。
④花の苗植え　10日（木）
地域の方の指導により、全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。地域の老人会の皆さんにお願いし、毎年参加していただいている皆さんは学校に来るこのような機会を大変楽しみにしてくれている。進んで作業に取り組み、楽しみながら児童と交流する姿を、毎年観ることができる行事の一つでもある。
⑤木工教室　11日（金）
３～６年生児童の活動。講師を招き、小さく切った小枝を何本かくくり、フォトスタンドを作った。学校の周りや身近にある木材について教えていただく「森の学習」も行った。保護者も参加して児童と一緒に学習したり作業等を行ったりした。
⑥昔の遊び体験　11日（金）
１～２年生児童の活動。地域の方を講師として招き、竹とんぼの製作と遊び方（使い方）について教えていただいた。

◇学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議・咲楽小学校が中心となって企画及び活動を行った主な行事
①通学路危険箇所確認　8月末日　安全対策部会（学校地域連携推進会議）による、通学路における危険箇所の確認作業。
②福井公民館で行っている絵画教室の作品の入れ替え作業を行った。学校の玄関ホールに展示している。新しい作品ができあがると、その都度展示の入れ替えをしてくれている。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中辺路地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中辺路小学校	公民館名	中辺路公民館 栗栖川下分館 栗栖川上分館　二川分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、中辺路学社融合推進協議会を中心として、公民館・社会福祉協議会・老人会等の関係機関に様々な協力をいただきながら取組を進めている。地域の方々や保護者に見守られて、子供たちは明るく健康的な学校生活を送っている。地域の方々に訪れていただける行事を計画し、子供たちが頑張っている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出向いて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めている。

目標	学校・園・地域	
		子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される。そんな中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

田辺市学社融合推進協議会規則（H30,4,1施行）に基づき設置

支援者及び支援組織

・公民館
・町内会
・老人会
・社会福祉協議会
・読み聞かせサークル ひまわり
・田辺市消防団中辺路支団
・岩見淳三（プロギタリスト）
・下校見守り隊
・JA女性会
・校区内在住の方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・新型コロナウィルス感染症の影響で、実施を見送ったり内容の変更や規模を縮小したりしたものもあったが、感染症対策を講じ昨年度以上に取組を進めることができた。 ・地域の方々とともに活動する中で、教室だけでは学べないことを学習することができ、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。	・夏季休業中に予定していた育友会奉仕作業については、新型コロナウイルスの感染拡大で、中止せざるを得なかった。できなかった校内整備を、その後の期間で補っていく必要が生じた。 ・運動会、学習発表会などについては、感染症対策を講じたうえで規模を縮小して実施した。来年度は、屋外での行事などでは、学校での子供たちの様子を地域の方々にも参観していただきたい。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症の影響で中止や変更を余儀なくされたものもあったが、学校と連携をとりながら、また、工夫を凝らしながら取組を進めることができた。 ・学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。また、子供たちに地域のよさを知ってもらうことができた。	・来年度以降の取組については、新型コロナウイルス感染症の状況を見守りながら総合的な判断のもと、できるだけ実施する方向で考えていきたい。 ・今後も様々な事業を継続させるために、新たな支援者の発掘や、学校の要望に応じたゲストティーチャーの紹介をしていきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・中辺路小中連携の奉仕作業を計画した。学社融合推進協議会として、学校・保護者の負担軽減を考え、小中連携奉仕作業を行うこととした。学社融合推進委員が、町内会や老人会、消防団などに声をかけ、人員を集める。当日は、小学校、中学校で作業進度の連絡を取り合い、お互いに応援に駆け付ける。必要な道具や機材は事前に学校と学社融合推進協議会で準備するなど話し合った。（奉仕作業に向けて、準備を進めていたが、新型コロナウイルスの急激な拡大により、直前で奉仕作業は中止となった。）
・登下校の見守り活動やゲストティーチャーなど、地域の方々にはとてもお世話になっている。今後も、子供たちのためにできることがあれば、学社融合推進協議会として積極的にサポートしていきたい。
・登下校における危険個所について話し合った。（見通しの悪いところの木の選定や道路を横断するときの安全対策等）

特徴的な協働活動

「中辺路子ども環境探偵団」の取り組み

未来を担う中辺路の子供たちが、郷土の素晴らしい自然に親しみ、自然を愛し、自然を考える活動を展開している。この活動は、自然環境を守る心を育み、自然保護活動実践の大切さや地域の文化を学び、自然と人間が共に生きていくことの大切さに自ら気づくことをねらいとしている。南方熊楠顕彰館会員や自然林復活活動を展開している「いちいがしの会」の会員、語り部熊野古道中辺路の方々などの指導のもと、すばらしい活動を展開することができた。

◇活動Ⅰ「本宮町皆地での生物観察」　６月２５日　中辺路町内小学生
児童１２名が参加し、「ハッチョウトンボ」の生息地であった皆地いきものふれあいの里を訪れ、ふけ田（湧水の湿地）でメダカやトンボなどを採取した。講師に庄司堅一先生、竹中清先生、杉山勝司先生、玉田一晃先生を招き、自然環境の変化について学んだ。

◇活動Ⅱ「南方熊楠と中辺路」　１１月４日　中辺路町内４年生
子供たちは、中辺路町内における南方熊楠ゆかりの地を探索し、講師の先生から熊楠が自然を守ろうとしたことや、色々なエピソードを聞き熊楠について学ぶことができた。また、各検索場所では熊楠に関するクイズが出題され、子供たちは楽しく熊楠の足跡を巡ることができた。

◇活動Ⅲ「熊野古道潮見峠越ウォーク」　１１月１７日　中辺路小６年
中辺路から田辺までの熊野古道を、自分の足で実際に歩いた。覗橋から潮見峠を目指し、いちいがしの会の竹中さんや語り部熊野古道中辺路の福田さんに山の様子や歴史・文化について説明を受けながら歩くことができた。迫力のある捻木（清姫伝説）や潮見峠での戦場の話など、子供たちにとってはとても印象に残ったようである。

「本宮皆地での生物観察」

「南方熊楠と中辺路」

「熊野古道潮見峠越ウォーク」

ぼくは、南方熊楠が本当に中辺路に来たことや、もみじ屋にとまった理由を知っておどろきました。それからキノコがりでは、どくキノコもあり予想以上にキノコを見つけることができました。最後に一方杉を見に行きました。初めて見て大きいなと思いました。他にも南方熊楠が行ったところに行ってみたいです。（4年児童の感想）

私は潮見峠で、豊臣軍と山本・湯川軍が戦ったことを初めて知りました。熊野古道を歩いてみて、坂は急でしたが、周りは静かで涼しく、とても心地よかったです。途中で野イチゴを食べたり、捻木の杉に伝わる安珍・清姫の物語を聞いたりして「潮見峠越えウォーク」はとても楽しかったです。また潮見峠を歩きたいです。（6年児童の感想）

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：近野地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館　近野分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、世界遺産である熊野古道「中辺路」沿いに位置している。熊野古道の複数のルートの中でも「中辺路」は、平安時代より上皇や貴族から民まで様々な人々が参詣を繰り返した参詣道として知られている。そして、現在も本地域には、平安の昔を偲び古道を探索する人々が、日本だけではなくヨーロッパを中心に世界各国から訪れている。そのような歴史や伝統・自然環境にも恵まれた本地域には、古来より「誰でも受け入れる」という懐の深さがある。さらに、地域には我が身を惜しまず人々のために尽くした先人が幾人も輩出された歴史もあり、従来よりお互いのことを思いやって行動するという風土が地域内に根付いている。本校はそのような地域にあり、これまでの地域の教育力を活用したさまざまな取組により、多くの教育的効果をあげることができている。

目標

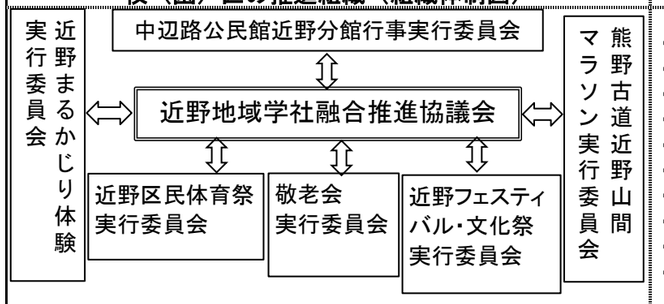
学校・園・地域

学社融合推進協議会活動を通し、学校を含めた地域の教育・文化の振興及び児童生徒と地域住民の健康・福祉の増進等に寄与する。

【学校】
・地域での活動を通して地域を知る。
・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切にし、尊重する気持ちを育てる。
・地域の一員として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。

【地域】
・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。
・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・森氏・前氏・久保氏・岡上氏
・九乗氏・岡上氏・大野氏
・尾中氏・伊藤氏・松本氏
・森氏・前氏・高田氏・田中氏
・古久保氏・井上氏・柳川氏
・中辺路公民館近野分館行事実行委員会
・近野まるかじり体験実行委員会
・中辺路町森林組合　・近野振興会
・近野獅子舞団　・ＪＡ女性会
・熊野百間渓谷自然学校　等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・取組の中で地域の特色を再発見するとともに、自分たちの暮らしが地域の人々の努力や工夫によって支えられていることに気付き、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちをより高める機会となった。 ・児童が地域で学んだことをスライドやパンフレットにまとめ、文化祭で発表することで郷土の魅力を伝えることができた。	・教職員が異動しても、新たなメンバーで学習活動のねらい等を引き継いでいくとともに、地域の方々とのつながりも継承していくことが重要である。 ・新型コロナウイルス感染症予防のために、３年連続で文化祭での学習発表に地域の方々を招待できていない。来年度は、お世話になった地域の方々を招き、感謝の気持ちを伝えられるようにしたい。
公民館（地域）	・地域の歴史や文化、自然等に関わる学習を継続することによって、ふるさと近野を誇りに思う気持ちや郷土愛が育まれている。 ・新型コロナウイルスの影響で、学校での活動の機会や規模は縮小されているが、地域の方々は学校の教育活動に協力的に参加していただいている。活動を通じて、子どもたちや学校の様子を知らせることができている。	・昨年度から交流活動の規模を縮小した形で実施しているため、それまで行ってきた学社融合の取組や地域人材のつながりを継続、発展していけるようにしたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

〇未だ新型コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たない状況であるため、従来実施してきた学校と地域が連携した行事や取組等は、しばらく制限された中での開催となると思われる。しかし、このような中においても、子どもたちの豊かな学びを保障し、たくましく生きる力を育むことができるよう、内容を工夫しながら学社融合の取組を進めていく。近野地域は文化財や自然などの郷土資源が豊富であり、地域社会の学校教育への協力体制も従来から手厚い。このような本地域の強みやよさを存分に生かして、確かな学力と豊かな人間性、たくましい心身の育成に努める。
〇学校周辺の草刈りに地域の方々が大勢参加してくださり大変ありがたい。
〇常会長のご支援により、毎月の学校だよりを全戸に配布くださり大変ありがたい。

特徴的な協働活動

地域の方々とふれあいながら　地域の豊かな文化・伝統・自然に学ぶ

地域で発見！～地域で働く人々について学ぶ～

近野たんけん「近露のたからもの」1･2年生（6月）

近露地区にある近露郵便局と奥JAPANを訪れた。郵便物を届けるために働く人々や熊野古道を訪れる人々が安心して旅行できるように働く人々の話を聞いたり、仕事の様子を見学したりすることができた。

ちかつゆのよいところをしゃしんでしょうかいしてくれているそうです。

ポストのひみつをおしえてもらいました。

地域の伝統文化～名匠の工房にて和の文化を体感する～

近野じまん発見！「木がもたらす恵み」3･4年生（9月）

県の名匠である地域の方の工房を訪れ、木桶づくりの工程を見せていただいた。かんな等のさまざまな道具を使い、桶を使う人のことを考えながら手作業で作るもののよさを感じることができた。

けずったところがつるつるで気持ちいいです。

地域の自然と産業 ～自然の恵みや自然との関わりについて学ぶ～

地域の産業「中辺路の林業」5･6年生（9月）

中辺路地域の森林は長い年月をかけて人々によって守られてきており、育てられた木材は全国的に評価が高いことを教えていただいた。また、林業の現場を訪れ、高性能林業機械を使うことで、安全性･生産性の向上を目指した作業の様子を見学することができた。

中辺路の木は虫食いが少なく、健康な木が多いです。

機械を使って一定の大きさにそろえて切っています。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：大塔地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館　富里分館 三川分館　鮎川分館

学社融合における学校・地域の様子

本校は、平成２７年に三川小学校、平成３０年に富里小学校と統合し、大塔地域に１校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、地域全体で、子どもたちを温かく見守り、育てていこうという意識が高い。授業や学校行事への協力、児童の放課後の居場所づくりにご協力いただいている。「大塔地域学社融合推進協議会」では、行事支援部会、学習支援部会、生活支援部会の３つの実働部会があり、小中学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で！」をテーマに取組を進めている。

目標

学校・園・地域

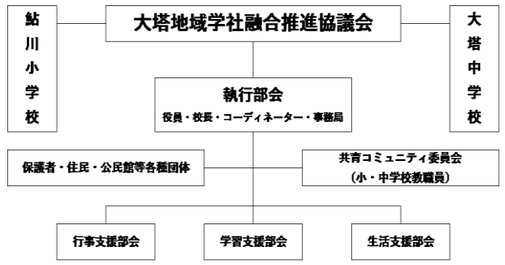
○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。

○鮎川小学校と大塔中学校の９年間を見通した学校運営を行う。

○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。

○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

○大塔公民館、各分館
○田辺市自治会連絡協議会大塔支部
○大塔女性会
○大塔老人クラブ
○社会教育委員会
○子どもクラブ
○放課後ふれあいスクール
○民生児童委員
○田辺市保護司会大塔支部
○社会福祉協議会
○田辺市消防　大塔分署
○青少年健全育成市民会議
　大塔地区協議会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	○今年度も感染症予防をしながら、大塔リフレッシュ大作戦や選択交流学習等、予定していた活動を地域の方と一緒に行うことができた。 ○５年生のチャレンジデイキャンプや４年生の水路見学では、公民館の方が事前の準備や当日の案内などを担当してくださり、地域の魅力や歴史を知る学習ができた。 ○校内音楽会のリハーサルに委員の皆さんをお招きした。委員の方からは励ましの声とともに、マイクや伴奏の音量等についてアドバイスをいただき、本番で生かすことができた。よりよい発表に向けて、同じ目線でアドバイスをいただけることはありがたかった。 ○ＰＴＡ情報モラル研修会を行い、保護者や教職員だけでなく委員の方にも参加していただくことができた。	△ゲストティーチャーの人材確保が課題である。幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていきたい。 △ゲストティーチャーに授業のお願いをする時に、早めに計画し、ねらいや時間配分等、十分な打ち合わせをできるように気をつける。 △３部会の活動を実施するにあたって、職員が変わっても引き継いでいけるよう、計画や実施後の振り返りを小学校・中学校・地域・公民館が共有していけるようにしなければならない。（特に小５・小６・中１で行う選択交流学習）
公民館（地域）	○昨年以上に事業を展開することができ、ふれあいスクールや図書ボランティア、公民館事業を通して、児童と地域の方々との世代間の交流を深めることができた。 ○校外学習（水路学習やチャレンジデイキャンプ）を通して地域学習を行い、児童に地域の魅力を提供し、また、職員も地域のことについて再度勉強ができ、大変良い機会となった。 ○朝のあいさつ運動や通学路（横断歩道）の補修要望、CSだよりの発行（交通安全の啓発や家庭学習の手引きの掲載）等を通じて、児童生徒に様々な生活支援を行うことができた。	○公民館として、地域全体で行っている学社融合推進活動により関心を持っていただくため、CSだよりや公民館だよりを通じて、地域住民に積極的に広報し、人材確保に努めていきたい。 ○現在の体制を維持しつつ、より一層公民館と学校、地域が連携を密にして活動を進めていきたい。 ○情報モラルやSDGs等の現代的課題や児童生徒、また、地域の課題を解決できるよう、学社融合推進活動や公民館事業を通じて積極的に取組を推進していきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

第１回大塔地域学社融合推進協議会（6/23）
①コミュニティスクール構想・大塔地域学社融合推進協議会　設置要綱の確認
②令和４年度鮎川小学校・大塔中学校学校運営方針の承認　③活動計画と予算の承認
④協議会を昼間、各校での開催にし、児童生徒の様子を見てもらう機会とする。
※協議会の委員さんを中心に、小学校の給食時（黙食のため）に流す読み聞かせＣＤを作り、毎週届けてくれている。お話に親しむ機会となっている。
※登下校の通学路の危険箇所が改善されたか共有を行った。

第２回大塔地域学社融合推進協議会（10/24）〈大塔中学校〉
①全国学力学習状況調査結果について報告　②児童生徒の様子について情報交換
③大塔リフレッシュ大作戦について　④３部会の活動報告
※中学校の授業の様子について、意見交流を行った。
※家庭学習の手引きについて、本協議会で作成したものを配布したが、どのように活用するかが課題である。

第３回大塔地域学社融合推進協議会　（2/28に鮎川小学校にて開催する予定）
①令和４年度鮎川小学校・大塔中学校の学校評価について　②３部会の活動内容と成果について報告　③決算報告　④全体を通しての成果と課題について

特徴的な協働活動

[行事支援部]学校行事の地域との協働を進める。地域行事への児童・生徒・保護者の参加を進める。
☆大塔音頭の講習会　☆川パトロール・大塔地球元気村パトロール
☆大塔リフレッシュ大作戦　☆ふれあいスクールへの協力
[学習支援部]学校図書館の運営ボランティア、学習やクラブ活動の支援を進める。
☆図書ボランティア（水曜日の昼休み）　☆クラブ活動　☆芋の苗植え・焼き芋
☆出前授業　☆選択交流学習　☆家庭学習の手引き
[生活支援部]登校の見守り、毎月はじめの登校指導を行う。学校や施設の整備作業を進める。
☆登校時の見守り活動・あいさつ運動　☆通学路の安全点検、改善要望
☆ぐるりんメールで情報共有　☆施設の整備作業
◎大塔CS（コミュニティスクール）だよりの発行（地域への広報）

【ふれあい出前授業】
低学年は、ふれあいスークールのサポーターさん（ちい先生）に出前授業に来ていただいた。「遊びを楽しもう」では、ゴムとびやお手玉、けんけんぱをしながら、ちい先生と交流した。
「楽しく学ぼう！防災学習」では、防災クイズや防災ダックゲーム、新聞紙スリッパの作成などを通して、ちい先生から楽しく防災について学んだ。

【水路見学】
４年生は、総合的な学習の時間に、地域の発展に尽くした「撫養重太夫」について学習した。大塔公民館の高根館長さんに撫養重太夫が作った水路を案内していただいた。210年前の撫養重太夫の偉業を確かめようと取水口から射場の田んぼまでの下津屋水路を見学した。（児童の感想）石を積んで高低差のある山道に約3500メートルの水路を作るのは、大変だなあと思った。

【選択交流学習】
6月と10月には、高学年と中学1年生の3学年が一緒に学ぶ「選択交流学習」を行った。「音楽」「体育」「生け花」「大塔探訪」「科学」（1学期）「木工」（2学期）の5講座に分かれて、地域の方から学んだ。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館　三里分館

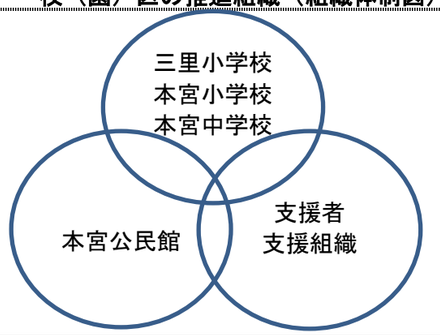
学社融合における学校・地域の様子

共育コニュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。
平成23年度から「音無の里共育コニュニティー事業」として小中３校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。

目標　学校・園・地域

平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な３項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。
また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
熊野本宮語り部の会
本宮プロバスクラブ
田辺市女性会連絡協議会本宮支部
本宮町自治会連絡協議会
本宮町林業研究グループ
学校ボランティア
世界遺産熊野本宮館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・「地域に生きる学校として、地域を生かした学びを深める」という、学社融合の目標に沿った取組ができた。コロナ禍ではあるが、感染対策を行った上で、地域の方にゲストティーチャーとして学校にきてもらい、たくさんのことを教えていただいた。また、地域のお店や施設などを訪問し、地域で働いている人の思いなども学ぶことができた。 ・文化作品展や三里運動会などで、子供たちの様子を地域の方に見てもらうことができ、励みになった。	・地域の方にはたくさん協力いただいているが、学校として地域にお返しできる活動をもう少し増やしていきたい。地域の活性化に参加しているという気持ちを子供たちがもてるような取組を行うことが大切である。 ・コロナ禍ということもあり、行事等も縮小や制限をしながら行っている。行政局に取組をまとめたものを掲示したり、学校だよりを配ってはいるが、地域への情報発信を積極的に行う必要性を感じている。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。 ・学校教育に参画することで、サークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。	・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年２回開催とする。
・第１回定例会で承認された事業内容について取り組む。
　承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。
　　〇各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力　等
　　〇地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請　等
・学社融合の活動を通じて、子供たちに地域の事や人を知ってもらい、本宮を自慢できるような町づくりに取り組んでいく。
・委員から意見
「学社融合の取組を行政局ロビーにて、事前に告知する提案は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になると思う。」
「コロナ禍で途絶えている本宮祭りへの児童生徒の参加について検討してほしい」

特徴的な協同活動

【１・２年生　音無茶農家体験活動】
三里小学校の卒業生である音無茶の農家さんに年間を通して、「音無茶」について教えていただいた。春には、地域のお茶畑で茶葉を収穫させていただき、「炒る、もむ、干す」などの行程を体験し、自分たちで作ったお茶を味わった。秋には、藁を畑にまいたり、雑草をぬく活動を行った。

【３・４年生　花のプレゼント大作戦】
本宮町内の老人クラブの方に色の配列や根の崩し方などを教わりながら、プランターにパンジーなどの苗を植えた。
また、プランターは、日ごろお世話になっている地域の方に、手紙と共に子供たちが配った。地域の方からには、大変喜んでいただくことができた。

【５・６年生　熊野古道語り部ジュニア活動】
９月から、地域在住の語り部の方にきていただき、「発心門王子から三軒茶屋」までの語り部の原稿作成や語りの練習を行った。
１１月には、本宮小学校５・６年・地域の方と一緒に熊野古道を歩きながら、「地域を知り・魅力を伝える」語り部活動を行った。次の週には、田辺市立会津小学校６年生に向けて語り部活動を行った。２月には、県立古佐田丘中学校とリモートでつながり語り部を発表する予定である。また、教職員が本校の語り部活動について深く関わっていくために、指導していただいている語り部さんの語りを聞きながら熊野古道を歩くという研修を行った。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立本宮小学校	公民館名	本宮公民館　本宮分館 四村川分館　請川分館

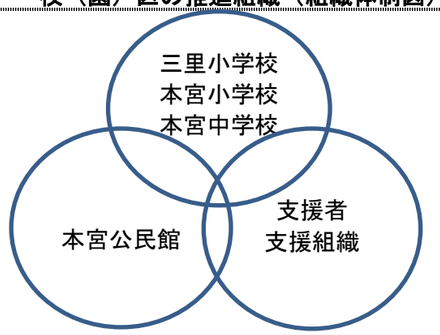
学社融合における学校・地域の様子

共育コニュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。

平成23年度から「音無の里共育コニュニティー事業」として小中３校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。

目標	学校・園・地域	
		平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取り組みである主な３項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続き実施していく。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
熊野本宮語り部の会
本宮プロバスクラブ
田辺市女性会連絡協議会本宮支部
本宮町自治会連絡協議会
本宮町林業研究グループ
学校ボランティア
世界遺産熊野本宮館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・保護者や地域、一般の方々を対象にして語り部ジュニア活動を行うことができた。地元本宮の魅力と熊野古道の素晴らしさを紹介しようと意欲的に取り組むことができた。 ・今年度も、語り部ジュニア活動、クラブ活動、手話活動、伝統芸能などの活動に、地域の方々に学習パートナーとして参画していただいた。クラブ活動では、公民館から地域の方を紹介していただき、新たに「グラウンドゴルフ」クラブを開設することができた。2学期には、静川のグラウンドゴルフチームの方にクラブ活動に参加していただき、ゲームを通して子供たちは地域の方々との交流を深めることができた。	・児童のコミュニケーション能力を高めるためにも、地域の方との関わりを深める機会を増やしていきたい。 ・高齢化により学習パートナーを辞退される方もおり、新たな人材確保が必要である。学社融合推進協議会の協力を得ながら進めていきたい。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。 ・学校教育に参画することで、サークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。	・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年２回開催とする。
・第１回定例会で承認された事業内容について取り組む。
　承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。
　　〇各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力　等
　　〇地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請　等
・学社融合の活動を通じて、子供たちに地域の事や人を知ってもらい、本宮を自慢できるような町づくりに取り組んでいく。
・委員から意見
「学社融合の取組を行政局ロビーにて、事前に告知する提案は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になると思う。」
「コロナ禍で途絶えている本宮祭りへの児童生徒の参加について検討してほしい」

特徴的な協働活動

「音無茶　製茶体験　～本宮大好き・本宮町の今とこれから～」

川湯地区の茶畑で音無茶を栽培している宇恵操さんの畑で、3年生児童が茶摘み体験をさせていただいた。その後、収穫した茶葉を煎り、葉をもんで天日に干し、製茶を行った。児童は、美味しいお茶を作るまでの作業の大変さや楽しさを学ぶことができた。出来上がったお茶は、学習パートナーの方にもお配りし皆さんに本宮の味を楽しんでいただくことができた。

「語り部ジュニア活動」

1　熊野古道の魅力発見

「熊野本宮語り部の会」の梅崎奈美江氏から本宮の魅力、熊野古道の魅力についてお話を聞かせていただき、語り部の役割についても教えていただいた。

2　語り練習

各自、紹介する場所の調べ学習を行い、自分の思いや考えを新たに加えた自分の語りを作った。児童が作成した語りは、梅崎さんに確認いただきアドバイスをもらったり、６年生が５年生に語りの見本を見せたりすることで、聞き手に伝わる語りを意識することができた。リハーサルでは、実際に現地に行き、梅崎さんにも指導いただきながら語りの練習を行った。場所の案内だけでなく、語り部は、道中の安全のため足元への注意などの声かけを行うことが大切であると学んだ。

3　語り部本番

三里小学校の５・６年生、保護者、学校教育関係者、和歌山大学、日本ユニスト、熊野古道女子部の皆さんに参加いただき語り部ジュニア活動を行った。道中の声かけや名所の紹介などを通して、児童は、自分たちが愛する地元本宮の魅力と世界遺産熊野古道の魅力を伝えることができた。

4　語りの振り返り、そして新たな発信

児童一人一人が自分たちの語り部活動を振り返り、作文にまとめたものを発表した。発表は梅崎さんにも聞いていただき、今回の語り部活動の成果と来年度に向けてのアドバイスをいただいた。また、5年生は、3学期に地域の方に向けて語り部活動のＰＲを行う。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：東陽中学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立東陽中学校	公民館名	東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館

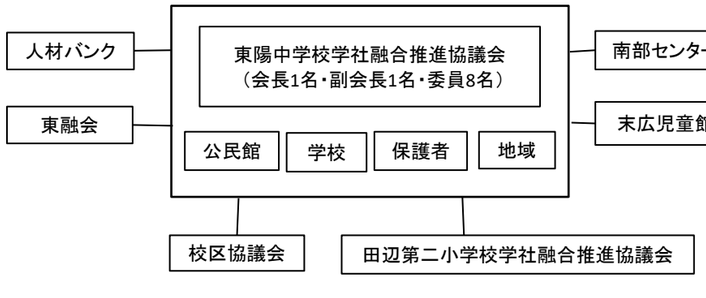
学社融合における学校・地域の様子

公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と校区の学社融合を推進する会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができている。公民館の掲示版には学社融合行事の様子や教科・部活の作品等を掲示し、地域の方々に紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校と連携した学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎながら、現在の東陽の地域実情に合った取組の議論を進めている。

目標　**学校・園・地域**

・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。
・校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。
・学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。
・幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。
・生徒たちと共に、当地域の課題（防災等）について学んだり、活動したりする機会を持つ。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

○人材バンク
（学校支援サポーター）
・図書整備
・バラ園整備
・各種授業講師

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	地域との連携は、主に総合学習として取組を行った。１年生は歴史や史跡、田辺の偉人についてウォークラリー形式等によって学んだ。また、２年生は地元の事業所にご協力頂き、商品開発を行い、イベントでの販売を行った。職業観や郷土愛を育むことができたとともに、地域の魅力を認識し、将来この地域を盛り上げ、担っていくという思いを抱かせることができた。 小学校との連携では、田二小と行っていた中学校体験学習を、他の中学校とも協力して校区内の小学校と行なう等活動を発展させている。	まだまだコロナウィルスによる影響があるが、昨年度よりも様々な活動を行うことができ、また、新たな取組も行えた。今年度の協議の中心となっている総合的な学習の時間を来年度に向けて再整備し、社会に開かれた教育課程として確立させていきたい。 今後、このままコロナが収束していくのかどうかはまだ全く未確定であるが、今後もより充実した取組を工夫していく必要はあるだろう。
公民館（地域）	今年度５月に、バラ園の整備を行った。東陽中学校生徒のボランティア34名と、地域のボランティア４名が整備作業に参加し、剪定・草抜き・消毒等に協力して取り組んだ。バラと音楽の鑑賞会については、３年ぶりに開催することができ、約150名の方々に足を運んでいただくことができた。 また８月には「スマホ講座with東陽中」と題し、東陽中学校コンピュータ部の生徒を指導スタッフとして招き、スマホ講座を実施した。これらの取組は、それぞれの世代の得意分野を生かすことに繋がっている。	今年度に入り、多くの事業を数年ぶりに開催することができた。 ただ、依然としてコロナ禍前と同じ内容では開催できない事業もあり、コロナ収束の見通しがつかない中で今後も感染症対策を講じつつ工夫をしながら実施していく必要がある。 また、地域からは「普段若者と意見交換できる機会が少ない」という声も聞かれた。各種事業を行っていく際には、幅広い世代が交流できるような工夫も加えていきたい。

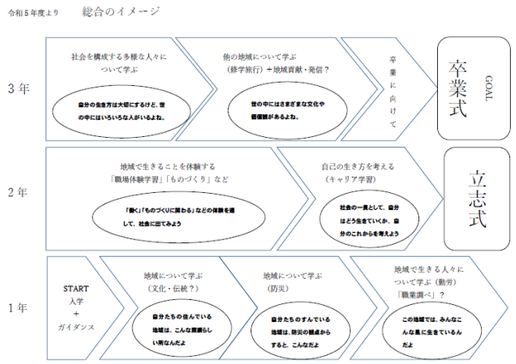
今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

協議テーマ　総合的な学習の時間 ～社会に開かれた教育課程の編成に向けて～

本年度改めて東陽中・地域の魅力や強みについて見直し、一昨年までのよさこいに代わる取組について協議を行った。そして、総合的な学習の時間を１０年先まで継続して行えるよう、具体的な内容・形を検討中である。

目指す子ども像にむけ
・東陽色を出せる何かを。
・地域を誇りに、地域とリンクして。
・闘鶏神社・田辺祭・弁慶祭…
・地域の大人が生きていることを肌で感じる。
・どんな子どもをつくるために
　どんな活動にするか……。



特徴的な協働活動

バラの東陽

地域の方と一緒に、５月に無事バラ園の整備作業を行うことができました。また、ここ何年か実施できていなかった「バラと音楽の鑑賞会」も行うことができ、150名以上もの方にお越し頂きました。バラ園整備の地域サポーターは年間を通じて活動してくださっています。
また、昨年度”バラの東陽”をアピールするために「バラのメモ帳」を作り、今年度の「バラと音楽の鑑賞会」等行事で地域の方に配布しています。さらに今年度はバラの焼き印が入ったコースターを２年生が制作し、地域のイベントで配布しました。

また、２年生は、総合的な学習の時間にSDGｓ(持続可能な開発目標)について学びました。その中で、地方創生という言葉を知り、今ある地域社会を持続していくために何かできないかと考えるようになりました。そこで、たなべ未来創造塾さんの協力のもと、田辺市の地域の強み(地域資源)を生かした商品開発に取り組みました。
世界遺産である「闘鶏神社」と、学校がある「東陽地区」をイメージした弁当やスイーツの案を考え、地元の事業所の協力を得て商品化しました。また、SDGｓの観点から、紀州木材の廃棄する部分を提供して頂き、絵馬やコースターに加工して、弁当に付けました。

今回、ご縁があり「田辺エキストラ商店街」「GINZA MUSIC STREET」に参加させて頂くことになり、店名を「TOYOマート」とし、販売を行いました。これらは、未来を支える子どもたちにとって、自分たちが住む地域のことを深く考え、行動するきっかけとなりました。この取組が少しでも田辺市の地域活性、地方創生につながることを願っています。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：明洋中学校学社融合推進協議会

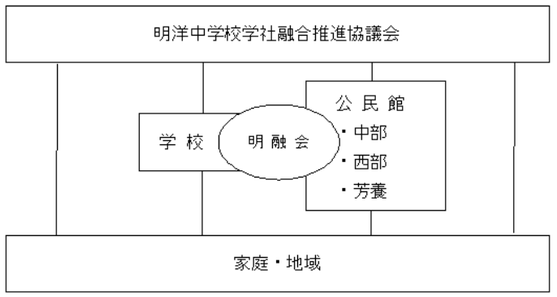
学校・園名	田辺市立明洋中学校	公民館名	西部・芳養・中部公民館

学社融合における学校・地域の様子

本校では、学社融合推進協議会と公民館主事及び学社融合推進教員で組織する「明融会」の２つの会を中心に学社融合の取組を進めている。授業や部活動を地域から講師を招いて行う活動と、学校が地域に出向く活動があり、ともに公民館の協力を得ながら実施し、活動の充実に努めている。

目標	学校・園・地域	【学校】 〇地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを自覚し、故郷を愛する気持ちを育成する。 〇地域での活動を通して、多くの方々と関わることによりコミュニケーション能力を育成する。 〇地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。 【地域】 〇地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統・文化の継承や技術の取得を図る。 〇学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。 〇子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・学社融合推進協議会
・明洋中学校育友会
・芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々
・芳養公民館
・西部公民館
・中部公民館
・西部センター
・天神児童館
・芳養児童センター

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策をとりながら、感染状況に応じた実施の仕方を検討してきた。中止となった取組もあったが、第2学年のキャリア教育については、職場体験は実施できなかったものの、JCティーチャーを学校に招いて、様々な職業について話を聞く体験を実施する等、今の状況でできることを考えて取り組むことが出来た。	本年度も地域に出向いて行う活動は実施困難な状況であった。 実施できていない期間が長くなってきている取組もあるため、公民館との連携や教職員間での情報共有を行って、継続するべきものがきちんと継続できるようにしていきたい。 また、地域の方々に、学校の様子を知っていただき、実情に応じた学校の対応についてご理解いただけるように努めたい。
公民館（地域）	昨年度同様、新型コロナウイルス感染状況の悪化から、実施出来なかった取組があったものの、紀州てまりや茶道、華道等については、講師を派遣して実施できた。また、紀州てまりと生け花については、文化発表会において展示することができ、保護者にも見てもらうことができた。 また、各公民館主催の作品展に、中学生の作品を展示することで、地域の方々に中学校の取組の一端を示すことができた。	現在取り組んでいる内容を今後精査し、継続していくもの、縮小していくもの、新たに取り組んでいくものなど、新型コロナウイルスへの対応をきっかけに考えていく必要がある。 講師の先生方が高齢になってきていることに伴い、取組内容を検討したり、取組自体できなくなることを予想した対応をしたりする必要がある。人材確保等について、学校と連携を深めたい。

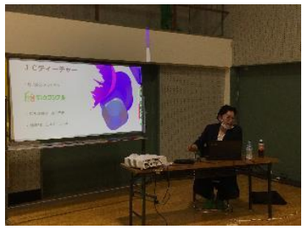
今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【第1回学社融合推進協議会(R4.5.31)における協議内容】
・子供たちの挨拶がよくできている。
・コロナ禍で地域との関わりが減っている中、どのように職場体験を実施するのか。
・タブレットを活用した授業の効果について、年度末に示してほしい。
・いじめ問題や不登校生徒への対応を丁寧にすることが必要。
・生徒数に応じた部活動の数を考えることが必要であるが、できるだけ部活動を存続させていく。
【第2回学社融合推進協議会(R4.11.29)における協議内容】
・コロナ禍ではあるが、生徒や先生方の頑張りがよく分かった。
・行事等も中止にするのではなく、出来る形で行うことができて良かった。
・学力については、今後も基礎基本を大切にして取組を進めてほしい。
・今後も感染予防対策を行いながら、学校運営をしてほしい。
・部活動の地域移行について、課題が多いように感じる。
・部活動の地域移行の際に、本校が抱える部員数減少の問題を解消できないか。
・校則について、時代に即して見直す必要がある。
【第3回学社融合推進協議会はR5.3.15予定】

特徴的な協働活動

【キャリア教育　JCティーチャー】
・本校の体育館において、JCティーチャーを招いての職業に関する聞き取りを第2学年が行った。様々な職種の方に御協力いただいて、生徒も複数の職業の内容を詳細に教わることができ、有意義な取組であった。



【紀州てまり】
・中部公民館から講師先生を複数派遣していただき、今年度も文化部の生徒が紀州てまりを作製した。部員数が多いが、講師先生も複数で来てくださるため、個々に丁寧に教えていただけた。文化発表会や公民館の作品展示会にも出品することができた。

【茶道教室】
・西部公民館から講師先生を派遣していただき、文化部の3年生を対象に茶道教室をしていただいた。相手の立場に立った丁寧な対応について教わり、良い経験になった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：高雄中学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立高雄中学校	公民館名	秋津・万呂・稲成・ひがし・中部・南部公民館

学社融合における学校・地域の様子

例年、家庭科、社会科、保健体育科などの授業や文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形でゲストティーチャーを快く引き受けていただいている。例年では、1年生は校外学習、2年生は職場体験学習、3年生は保育実習で地域におもむき、学習させていただいている。本年度はコロナ対応のために一部しか実施できていない。

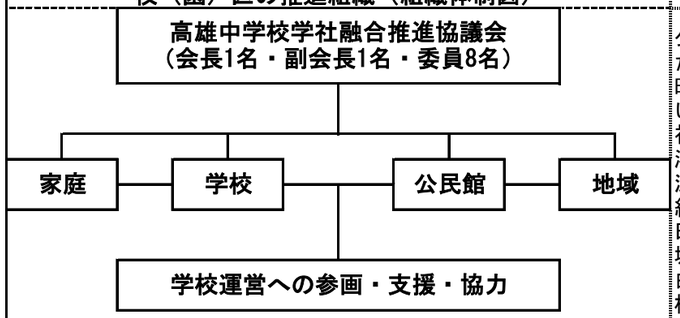
目標

学校・園・地域

授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り、専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。

【高雄中学校学社融合推進協議会】
高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等（以下「保護者等」という）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

公民館
たなべる
昭和幼稚園
いずみ保育所
初山歯科　切目薬局
湊浦漁協女性部（お魚ママさん）
深見助産所
紀南県税事務所
田辺市消防署
城山台給食センター
白浜田辺青年会議所
株式会社島精機製作所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の方に学校や生徒たちの様子を分かってもらうことができた。 ・夏季休暇や普段の授業などで、ゲストティーチャーとしてお招きし、思春期講座や平和学習、国際理解など教室では普段学ぶことができないことについて学ぶことができた。 ・地域の方との交流を通して、地域でどのような仕事が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。 ・SDGsの取組として島精機製作所と協力し、牛乳パックの回収と再利用について学習した。	・ゲストティーチャーの話を聞いて終わるのではなく、そこから学んだことを地域に発信していくことも必要だと考えられる。 ・昨年同様、中止になってしまった行事に関しては代替案を立てて取り組んだものもあるが、できていないものもあるので、今後、更に検討していく必要がある。
公民館（地域）	・作品展示会や公民館活動のボランティア、講演会などの活動を通じ、コロナ禍の中でも地域と学校が関わるきっかけを増やすことができた。 ・学社融合推進協議会を通して、学校の様子を知ることができ連携が進んでいることを確認した。 《推進協議会》 ・5つの公民館の館長が委員として、地域と学校を繋ぐパイプ役になっている。	・本年度はコロナ禍においても、開催方法を工夫しながら行事を行った。中止になった行事もあるため、来年度は更に中学生を巻き込んだ行事も組み込めるよう、模索していきたい。 《推進協議会》 ・公民館と学校が密に連携し、学校・地域の課題に対し互いに協力できるよう、常に情報交換を行っていきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

学校支援ボランティアについて
【本校の課題】
・不登校生と、別室を利用したことがある生徒が３０名近くいる。
・昨年度、協議を行っていた学校支援ボランティアについては責任の所在が明確にならないため断念したが、別の形で地域の方に関わっていただくようお願いした。

【協議事項】
・本校の不登校・別室登校生徒の現状を共有、理解してもらった。
・不登校生徒を対象とした読み聞かせをお願いした。
・文化部を対象に紀州手鞠の作製や茶道教室をしていただいた。
・３年生を対象に英語科講座の開催をお願いした。
【学校側として期待すること】
・教員以外の方々との交流により、自分に対する新たな気づきが生まれる。
・コミュニケーション活動に対する自信を取り戻す。
・学校集団に戻って活動できるようにする。

特徴的な協働活動

≪１・２年生　ＳＤＧｓ　国際理解　カンボジアについて≫

国際理解についての学習として、田辺市国際交流協会の倉谷さんと本校学社融合推進協議会副会長の坪井さんにお越しいただいて、英語について学習するとともに、カンボジアの歴史や教育の現状などについてお話を伺った。生徒たちは、カンボジアで起こった悲劇的な出来事やそれによって子供たちや学校が今でも甚大な被害を受けているということを聞いて、いかに自分たちが恵まれているのかを実感していた。また、日本がカンボジアに対してたくさんの支援を行っていることを知り、興味を持っていた。

【生徒の感想】
カンボジアで大量虐殺があったことを初めて知った。その影響で先生をする人がいなくなって、今でも学校では子供たちが満足に勉強ができていないということを聞いて驚いた。自分たちは、学校も教科書もあって、先生もいるので恵まれていると思った。
学校の写真を見ても、日本から寄付した本や漫画、教科書があって、日本がカンボジアにたくさん支援をしていることを知れた。

≪２年　企業説明会～みんなで知ろう！JCティーチャー～≫

コロナ禍で職場体験学習が実施できない中、キャリア教育の一環として２年生を対象に白浜田辺青年会議所の協力のもと、企業説明会を実施した。白浜・田辺から１１の事業所が体育館にブースを設け、生徒は各事業所の説明を聞いたり、体験したりした。
自分たちの住んでいる地域の仕事について学び、日常の学習はどのようにして職業に繋がるのか知ることができた。

【協力企業】

飲食業	阪本様
公務員	小倉様
工務店	新藤様
弁護士	佐藤様
梅加工業	泰地様
印刷・デザイン業	池田様
不動産業	浅山様
車設備業	那須誠一様
情報通信業	阪口様
製造業	島田様
情報通信業	那須一徳様

【生徒の感想】
今回、ＪＣティーチャーの授業で、自分たちの地域の企業の話しを聞くことができた。１１の業種の中から３つを選んで話を聞いたが、すごくおもしろい話を聞かせてもらえた。「やりがい」を見つけることがすごく大事だということがわかった。お客さんの立場に立って仕事をすることが、いかに大変なことかわかった。質問にもすごく丁寧に答えてくれて、自分の将来についてきちんと考えるきかいになった。将来、自分がどんな職業に就きたいか考えてみたいと思う。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で育友会・ＰＴＡの協力のもと、保護者・地域との取り組みも進めています。

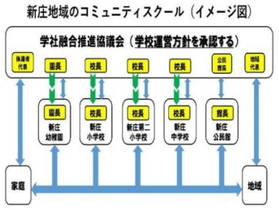
目標

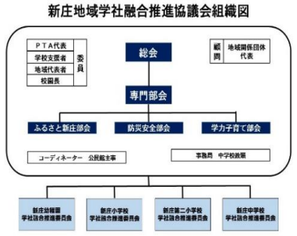
学校・園・地域

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

本校における学社融合の目標
　地域の祭りや行事等への参加と、地域の文化や伝統産業の調べ学習、地域の未来を考える学習を通して、地域を愛する心を育てる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）





支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
- ○　幼稚園・小中学校育友会
- ○　学校支援者・地域代表者
- ○　地域関係団体
- ○　公民館運営委員会
- ○　新庄地区校区協議会

新庄中学校
- ・新庄杜氏唄保存会
- ・新庄漁業協同組合
- ・和歌山県南紀熊野ジオパークガイド田辺ジオパーク研究会
- ・新庄橋谷獅子舞保存会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	１年生では、「新庄の伝統文化、自然を未来へ」をテーマに、「新庄の地質」、「新庄の獅子舞」について地域の方から学び、伝える活動に取り組んだ。２年生では、１４ケ所の事業所での職場体験、地域活性化を目的に情報誌作成に取り組んだ。３年生では、「身近な～が世界を救う」をテーマにSDGｓに関することに取り組んだ。 　多くの地域の方に学校行事に参加してもらう機会はもてなかったが、生徒の俳句作品や、行事の生徒の感想を、各種たよりに多く載せることで、地域の方に、学校の活動を知ってもらった。	・今後は、専門的な技術、知識を持っている地域の方ともっとつながり、ゲストティーチャーの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げていきたい。 ・その日限りでなく、子どもと地域の方が継続的に関わりを持ち、子どもの成長につながる工夫などを考えることが必要である。 ・自ら進んで挨拶をしたり、関わったりできるよう、コミュニケーション能力を高める。
公民館（地域）	「新庄の獅子舞」や「新庄ぎおんさんの夜見世」など、地域の特色ある伝統行事について、地域の大人から子どもたちへ伝える良い機会を設けることができた。 　文化継承の取組は、子どもたちにとって、自分たちが住む地域のことを知るとともに、大人にとっても自らの知識や特技を生かす場となった。	・学校を中心として、学校と地域が共通の目標に向かってどのような連携ができるのかを考えていく必要がある。 ・地域学習の幅をさらに広げられるよう、公民館行事やサークル活動を通じて、地域の人材把握や育成に努めていく。

今年度の取組内容

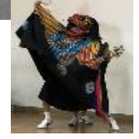
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

＊学力子育て部会：ふるさと新庄部会と共催で「地域探検」を実施。
・県の天然記念物「奥山の甌穴」を見学。13名の委員さんが参加。
＊ふるさと新庄部会：総合学習の調べ学習で、公民館や新庄地区の各種団体と連携。
・鳥の巣海岸等の地質観察・祇園さんや獅子舞の文化継承の取組。（1年生）
・職場体験学習・情報誌〔新庄地区の飲食店〕作成の取組。（2年生）
＊防災安全部会：消防新庄分団とのHUG（避難所運営ゲーム）を実施。（3年生）
＊１１月２０日の文化発表会（１１月１４日から１１月２０日は学校開放週間）の案内をし、委員さんが来校。 生徒の様子や取組内容を知っていただく機会とした。

特徴的な協働活動

新庄の地質についてジオパークの方に協力してもらい、自分たちが住んでいる地域を調査。

新庄橋谷の獅子舞保存会の指導のもと、獅子、笛、太鼓を学び、発表。



新庄の伝統行事「祇園祭」に作品を出品。

地域の情報誌作成のため、多くのお店に取材を受けてもらった。

１４ケ所の事業所での職場体験

SDGsに関する学びと調査。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：衣笠中学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館

学社融合における学校・地域の様子

三栖地域では、学校が抱いている課題を保護者や地域の方々に積極的に伝えることにより、共有化を深めている。また、「地域について学ぶことで地域への愛着心を培い、様々な人たちと交流を図る中で好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身に付けさせる。」という目標実現に向け、学校・地域・公民館がお互いに協力できる体制が確立されている。

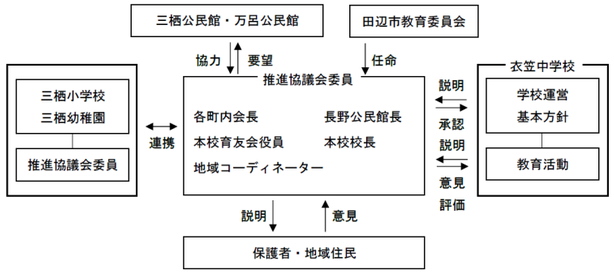
目標

学校・園・地域

・自然や地域の人々との触れ合いを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、様々な面から地域に貢献する態度を育成する。
・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、豊かな心を育て、生き方を学ばせる。
・様々な活動を通じ、中学校の取り組みについて理解を深め、地域ぐるみで取り組んでいく体制を作っていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

衣笠中学校学社融合推進協議会　組織体制図



支援者及び支援組織

○三栖幼稚園　○三栖小学校
○長野小学校　○会津小学校
○三栖公民館　○万呂公民館
○育友会　○地域住民
○田辺市梅振興室
○ＪＡ三栖等地域団体や企業

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・昨年度に引き続き、１年生で伏菟野地区を訪問した防災学習、全校生徒と保護者を対象にした「情報モラル教室」を実施することができた。 ・コロナ禍で自粛していた幼稚園との合同避難訓練を実施することができた。 ・幼稚園交流週間を設定し、合唱や読み聞かせ等で中学生と幼稚園児が交流することができた。 ・２年生では、これまで実施していた梅体験学習に加えて、梅を活用した商品を開発し発信していく「未来開発学習」を実施した。地域の課題解決と生徒の資質能力の育成の両面での効果が感じられた。	・保護者対象の「情報モラル教室」では、幼稚園や三栖小学校の保護者の方にも案内を配布したが、参加者が少なかった。案内の方法、オンライン開催の併用、隔年開催など、改善方法を検討していきたい。 ・幼稚園との交流は広がってきているが、小学校との交流が少ない。生徒だけでなく、教員間での交流も検討していきたい。 ・感染症の影響もあるが、公民館と連携してゲストティーチャーによる授業や、中学生が地域の行事へ参加するなど、地域の方との交流を増やしていきたい。
公民館（地域）	・地域学習やSDGs学習を通して、中学生がどのようなことを学び、考えているのかを知ることができた。 ・防災学習については、伏菟野地区より外部講師を招き、学校と現場の両方で住民の実体験に基づく生きた学習ができた。未来を担う中学生の防災意識の向上につながった。 ・公民館の作品展やロビー展において、生徒の美術作品を展示することで、普段公民館を利用されない方も公民館に訪れるきっかけとなった。	・学校、家庭、地域、それぞれの取組について、情報を共有し理解を深め、様々な活動を通し、地域ぐるみで自覚のある子どもたちの育成に努めていきたい。 ・公民館と学校が密に連携し、学校の課題に対し、地域が協力できるよう、公民館がコーディネーターとしての役割を果たしていきたい。 ・昨今話題となる情報モラルという分野において、公民館として課題解決に協力できるよう尽力したい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・昨年度同様、新型コロナウイルスの影響のため、これまで通りの取組をそのまま実施することが難しい状況ではあったが、学社融合推進協議会を開催して規模の縮小や時期の変更等も考え、できる活動を協議した。
・時代の変化と共に学校の抱える課題が複雑化、多様化している中、学校と地域が協力し、地域ぐるみで子どもを育成するという認識を共有した。
・学校では年々情報機器による生徒間トラブルが増加していることと情報モラル教育の重要性を伝えた。会員からも、地域や家庭においても情報モラル教育の重要性が報告され、様々な視点から活発な議論が行われた。感染症の状況もみながら、２学期に情報モラルの教育講演会を実施する計画を立てた。
・伏菟野地区土砂災害から１１年が経ち、災害を風化させないために学社融合推進協議会と学校が協力し、現地視察を含めた学習会を１年生で開催する方向で協議した。
・可能であれば、地域の敬老会に合唱部が訪問して交流することを提案した。
・来年度の体育大会を５月開催にすることの影響を検討した。

特徴的な協働活動

・１年生で、平成２３年の台風第１２号における豪雨で大きな被害に遭った伏菟野地区を訪問し、その後谷口元区長よりお話を聞き、災害の怖さや日頃の備えの大切さ、復興に向けての取組について学習することができた。
・NIT情報技術推進ネットワーク（株）代表取締役の篠原嘉一先生を招聘し、「安心して使うために知っておきたいネットのリスク」をテーマに、午前は生徒対象に、午後は生徒と保護者、地域の方を対象にした教育講演会を実施した。
・２年生では未来開発学習として、地元の特産品である梅を活用して、生徒が地域や企業と共同で梅料理レシピを開発し、ＳＮＳ等を活用して梅をPR（広報）する活動を行った。
・「世界津波の日」に、中学生が幼稚園児を迎えに行く合同避難訓練を実施した。
・１２月に幼稚園交流週間を設定し、中学生が幼稚園に行って合唱や読み聞かせで交流することができた。
・敬老会が中止となったため、中学生が地域の方に手紙を書き、公民館を通じて配布していただいた。
・１年生で地域学習を実施し、郷土の魅力について調べ、知識を深めることができた。
・元三栖小学校栄養教諭の田上成美先生を招聘し、全学年食育の授業を行った。
・三栖小学校６年生を対象にした中学校授業体験と、中学１年生が案内するクラブ見学を実施することができた。

梅料理開発

合同避難訓練

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館

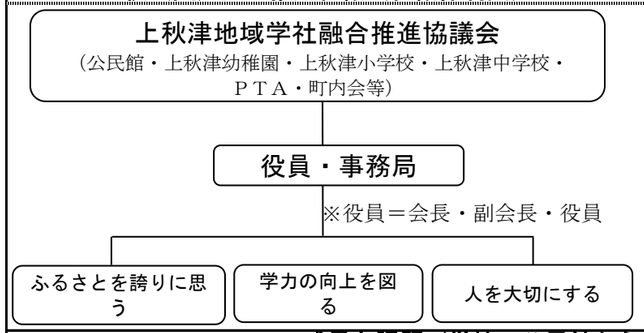
学社融合における学校・地域の様子

平成２８年度から３０年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る１１年間の教育活動を目標にした、地域とともにある実践活動を目指している。
従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、上秋津地域学社融合推進協議会はその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いたものであった。

目標　**学校・園・地域**

・農業体験を中心とした活動を行い、ふるさとを大切にする心を育てる。
・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。
・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。
・幼・小・中の連携を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

上秋津町内会　上秋津公民館
ＪＡ紀南上秋津
ＪＡ青年部
幼稚園PTA　小学校育友会
中学校PTA　民生児童委員
公民館サークル
秋津野ガルテン
介護老人保健施設あきつの
等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	感染症も少しずつ落ち着きを見せ、従来の活動を状況を考慮しながら実施することができた。成果としては、これまでの行事等の実施の仕方について、従来通りとするのではなく、その都度最善の方法を考えることができたことである。地域との交流では、農事体験で地域の方々のご協力で産業を知る機会をいただき、また文化発表会では、３年ぶりに地域の方々にも舞台発表や作品展示を参観いただき、学校の様子を知ってもらうことができた。	本来、学校と地域の交流が活発な上秋津地域で、３年生は入学から３年間、これまであった行事等がなくなったり縮小したりする中で学校生活を送っている。地域の大人だけでなく、幼稚園・小学校との交流も少なく、十分な異年齢交流ができていないことは大変残念である。しかし、地域の方々の思いを伝えたり、中学生が地域に発信できることは継続したりし、活動の範囲が狭くなっている今こそ工夫しながら人と人を繋ぐことを大切にしていきたい。
公民館（地域）	今年度も新型コロナウイルスの影響により、地域行事の多くは中止となってしまった。しかし、昨年度末に実施した「上秋津ふるさとウォーク」への参加や、昨年度に引き続き今年度も実施した「上秋津お気に入りの風景」への応募は、地域への興味を持つきっかけとなった。 また、幼稚園・小学校・中学校・公民館サークルの作品による「上秋津文化作品展」を実施し、地域の方に自分たちの作品を見てもらう機会となった。	今後、地域行事が再開した際にスムーズに実施できるよう、地域と学校が協力できる体制を継続させる。 地域行事の内容についても、地域と学校の負担にならず今後も継続して行うことができるよう、学社融合推進協議会を中心に協議し、内容の変更や修正を行っていく。 また、昨年度末に初めて実施した「上秋津ふるさとウォーク」のような、楽しみながら地域について知る機会を今後も増やしていく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◇ 開かれた学校づくり
◎学社融合推進協議会全体で課題・目標を共有する。
◎授業を中心に、学社融合を推進する。
・農事体験　・職場体験　・食育講座　・防災訓練　・地域学習　など
◎地域と学校が一体となって行事を融合させる。
・公民館主催の春祭　・高尾山登山　・夏祭り（盆踊り）
◇ 幼・小・中・ＰＴＡ・公民館の連携
◎校園長・学社融合担当者・公民館主事・ＰＴＡ役員が共通理解できる場の設定。
◎幼・小・中・地域が連携した取組を進める。
・防災訓練など校区が一つになる取組を含め、連携を図る。
・特別支援学級の交流（小・中）　・職場体験　・保育実習の取り組み

特徴的な協働活動

高齢者施設『あきつの』へジャンボ暑中見舞い・ジャンボ年賀状

生徒会生活委員会では、高齢者施設『あきつの』を訪問し、高齢者の方々と交流をしていましたが、新型コロナウイルスの影響で３年間実施できていません。それに代わる交流として、ジャンボ暑中見舞いとジャンボ年賀状を各学年で作り、前期・後期の委員長・副委員長が代表して施設に届けました。
字を大きく分かりやすく書くなど、相手の立場にたって考える機会になりました。

ラジオ体操 in 秋津野ガルテン

今年度、「早寝・早起き・朝ごはん推進運動事業」の取組の一環として、夏休みの一日、地域の方々にも参加していただき、１年生が企画してラジオ体操をしました。当日は子どもから大人まで１３０人余りが参加してくださり、気持ちの良い一日のスタートをきりました。

「上秋津子ども作品展」への出品

例年、本校の文化発表会で生徒作品の展示をしていますが、文化発表会が保護者と一部の地域の方々のみへの公開となり、地域の方に作品を見てもらう機会がなくなっていました。しかし、その機会として公民館主催「上秋津子 ども作品展」が上秋津農村センターで開催されています。地域の方が子どもたちの作品を楽しみにしてくれており、子どもたちも作品制作への励みとなり、コロナ禍での貴重な交流となっています。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：秋津川地域学社融合推進協議会

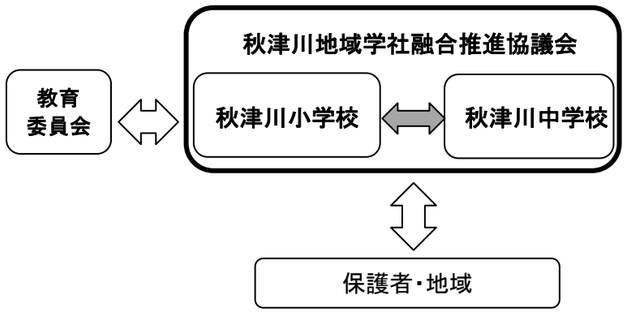
学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館

学社融合における学校・地域の様子

秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育んでいこうとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになるとともに、一緒に行動することで地域全体の活性化に貢献している。ここ数年は開催されていないが、ふるさと祭りや町民運動会など秋津川の文化の継承も行われている。

目標		
	学校・園・地域	・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の方々との交流を通して、子供たちに伝統文化等の様々な知識を教え愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の方々に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

秋津川公民館
秋津川町内会
秋津川振興会
JA紀南秋津川店
JA女性会
秋津川婦人会
秋津川小学校
秋津川保育所

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・町民運動会やふるさと祭り等の地域行事は、前年度に引き続き全て中止になった。 しかし、体育参観日や文化発表会での籐工芸教室、中学生・小学生で行う地域清掃、キャリア教育の実施などに取り組むことができた。 ・昨年度に引き続き、ウバメガシの森づくりの一環として「植樹祭」を、「紀州備長炭の里　秋津川」の紹介の一環として紀伊田辺駅で炭琴演奏をすることができた。 ・小中学校の連携については、感染症対策をしながらほぼ例年通り実施できた。	・地域の方々との交流を通じて、地域の良さを再確認させ、それを大切にする心を育てるなど、地域の方々と過ごす時間を効果的に活用できるようにしていきたい。 ・生徒自身が、地域の方々と関わりながら地域の一員としての自覚を持つことで、学校や家庭、地域での自分の役割について考え、責任感を高められるような指導をしていきたい。
公民館（地域）	・昨年に引き続き、令和４年度も公民館主催の行事など、多くの地域活動が中止となり、地域と子供たちが交流する機会は例年より少なくなってしまった。しかし、地域と学校の工夫・協力により、炭琴の演奏や、植樹体験など地域の文化・資源などを学ぶ活動は継続して行うことができた。 ・田辺駅で炭琴を演奏することで、地域の魅力を多くの人に知ってもらうことができた。また、この活動を通して、子供たちも地域の魅力を再発見することができた。	・地域の活動が再開した際に、地域と子供たちの交流がスムーズに行われるよう、学社融合推進協議会を中心に、地域と学校が連携できる体制を継続していく。 ・中学生が秋津川について学び、また地域の方と交流することで、地域の一員としての自覚を持ち、社会的な立場における行動力をさらに高められるように働きかけていきたい。 ・地域の高齢化が進み、既存行事の継続が難しくなると予想される。そのため、一つ一つの行事の内容について地域で協議し、持続可能な取組になるよう努めていきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・今年度の第一回学社融合推進協議会は、5月に予定されていたが、新型コロナ感染拡大防止のため、書面開催となった。会議で協議する予定であった項目は以下の通りである。また、今年度開催予定であった、秋津川公民館主催の町民運動会、敬老会、ふるさと祭り等は中止となった。

【議案】

・令和４年度スクールプランについて（秋津川小学校・中学校）

・令和４年度年間計画案について　　・令和４年度会計予算案について

特徴的な協働活動

・6月27日（月）保育所、小学校、中学校合同避難訓練を行った。地震が発生したという想定のもと、揺れが収まるまで机の下に入り、避難指示が出てから保育園児たちの避難誘導も手伝った。その後、消防士の方々からお話を聞き、消火訓練では「火事だ」と大きな声で叫び、ピンポンパンのリズムで消火活動を行った。

・11月7日（月）今年度もコロナウイルス感染症の影響もあり、小学５年生６年生と中学生で、地区ごとに分かれ地域清掃作業を実施した。県道田辺龍神線沿いにたばこの吸い殻やカン、ビン、ペットボトルなどがたくさん捨てられていた。ウバメガシの植樹を行う活動の一環として、どんぐり拾いも行った。

・11月19日（金）文化発表会を実施した。保護者や地域の方々にもお越しいただき、作品展示や合唱、炭琴演奏、学年の発表など、日々の学校生活での取り組みの成果を見ていただいた。また、髙松紀子さんをお招きして籐工芸教室も実施した。地域の方々も参加していただき、楽しく制作活動ができた。

・12月6日（火）秋津川集落協定推進委員会および秋津川振興会が取り組んでいる、備長炭の里「秋津川」ウバメガシの森づくりの一環として、植樹祭を行った。ウバメガシを植え、地域の皆さんと一緒に大きく育つよう見守っていきたい。また12月21日（水）には秋津川振興会の依頼を受けて「紀州備長炭の里　秋津川」を紹介するために、紀伊田辺駅に停車する観光列車「銀河」の前で炭琴を演奏した。伝統文化の継承と炭琴演奏学習の成果を発表する良い機会となった。

【文化発表会および籐工芸教室に参加された地域の方々の感想】

・学習発表もわかりやすくまとめられており、大変勉強になりました。

・炭琴と合唱はとてもきれいな音色、歌声で感動しました。一人一人が活躍して輝いた文化発表会でした。

・籐工芸作品を生徒の皆さんと作り、生徒の皆さんは器用に作っていました。いい思い出になりました。

・少人数であっても他の学校に負けない素晴らしい発表でした。この伝統をいつまでも続けてほしいです。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上芳養地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

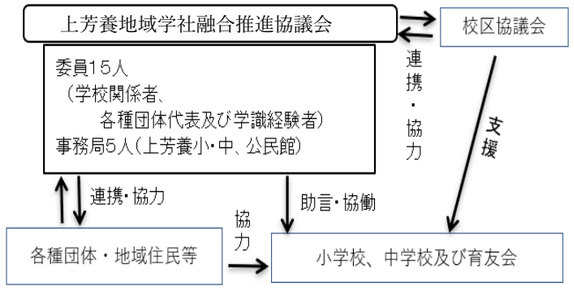
自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に見守られながら学校生活を送れている。小・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、地域にある施設や事業所の方々と交流を図ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動に非常に協力的である。
公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催したりして地域の交流を図っている。

目標

学校・園・地域

＜ 学校 ＞
〇地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。
〇地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。
〇地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。
＜ 地域（公民館）＞
〇児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。
〇学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。
〇地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
　上芳養小学校育友会
　上芳養中学校育友会
　上芳養公民館
　日向保育所
　各種団体
　　・上芳養町内会
　　・交通安全協会上芳養分会
　　・上芳養消防団
　上芳養校区協議会
　学識経験者
　地域の事業所・地域の先生

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・農事体験学習により、働くことの大切さや意義を学ばせることができた。 地域の産業（梅産業、農産業）を通じて郷土愛を育んだ。 ・地域貢献活動では、教科横断的な取組の中で思考を深めることができた。 地域との関わりの大切さを学んだ。	・取組を学校だけでなく、地域と様々な行事等で関わりを持つことで新たな価値を見いだすなど、地域の方々とより一層連携を深め、地域貢献・地域活性化を共に考えていきたい。 ・総合的な時間を見直し、さらに充実させ継続していきやすい系統立てた取組にする。 ・生徒自身が学びを振り返り、次の学びに繋げていけるような、深い学びとなるよう工夫改善をする。
公民館（地域）	・乗馬体験教室等、日常生活では体験できないような事業を通して、生徒達の豊かな感性、人間性を育むことができた。 ・体育行事を通して、地域の様々な年齢の方と交流ができ、コミュニケーションを取ることができた。また、地域の方と教職員の交流もでき、今後の学社融合の取組等にも生きる関係作りの一端を担えた。 ・作品展等の開催や、公民館報と一緒に学校だよりを配布することで、生徒達の学習の成果を地域の方に発信でき、地域住民の教育への関心を高めることができた。	・生徒達に向けた事業の参加者数が減少傾向にあるので、より参加したいと思えるような工夫や、より興味を引く事業を展開できるように取り組む。 ・地域と学校がより一体となり、地域も学校も活性化するように、関係作りに努める。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

＊第1回　定例会　新型コロナウイルス感染症予防のため文書決裁
＊第2回　定例会　（令和４年７月１９日）
・学校行事の説明・紹介
（今後の活動について）
・・・地域連携の「職場体験」「清掃活動」について
〇今年度も、コロナ感染症防止のため年度当初、学校と地域が連携がしにくい状況であったが、後半は予定通り行えている。地域・家庭・生徒の社会生活に目を向け、学校行事・生活と連携させ、相乗効果が出るように取組を充実させていきたい。
〇登下校時、交通安全について生徒の見守り活動について。野生動物（さる、クマ）についての情報交換もいただき、必要に応じて見守りを行った。
＊第3回　定例会　（令和５年２月予定）
・活動のまとめ、次年度の取組について　　・学校評価について

特徴的な協働活動

〇**「農事体験学習」**を通して、生徒たちは働くことの大切さ、意義についての学習ができた。
〇**公民館主催体育行事**（卓球・ファミリーバトミントン・ソフトバレー）で、公民館・地域の方々と交流したことで、地域・生徒・教員ともに親睦を図ることができ、上芳養地域学社融合推進協議会としての活動が充実した。
〇生徒会主催の**「地域清掃活動」**にも地域の方に参加いただき、生徒の郷土愛を育む活動ができた。
〇**「校内マラソン大会」**の道路交通安全見守り、**「文化発表会」**に参観など学行事に積極的に参加をしていただいた。
〇**「職場体験学習」**としてジビエ関係の職場訪問・体験協力が得られた。
〇**「ころころ山さん」の読み聞かせ**を月1回実施し、地域の方々の協力により、読書に関心をつなげることができた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：中芳養地域学社融合推進協議会

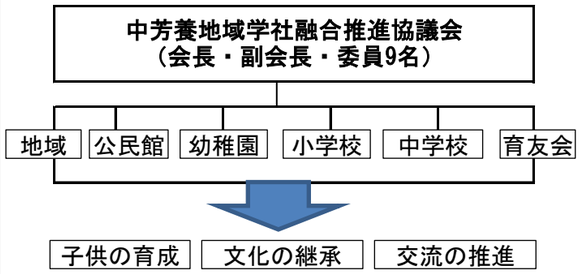
学校・園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

「地域と共にある学校　学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子どもの育成」「文化の伝承」「交流の推進」を３つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にした取組を公民館と連携して進めている。

目標		
	学校・園・地域	・子どもたちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子どもたちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・中芳養公民館
・中芳養幼稚園
・中芳養小学校
・ＪＡ紀南芳養谷支所
・中芳養地区老人会「芳寿会」
・中芳養町内会
・中芳養地区消防団

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、地域との交流行事は以前のようには行えていない。「和の心の授業」、「中芳養合同作品展」は、今年度も実施することができ、「PTA陶芸教室」においても3年ぶりに開催することができた。職場体験学習はまだ実施できていないが、それに代わる取組として、地元の企業や高校と連携をはかり「UMEプロジェクト」と称するキャリア教育体験活動を行った。幼稚園・小学校・中学校・公民館による「中芳養地域連絡会」によって、交流を深め連携を図ることができた。	校内での行事については、以前と同じような活動ができるようにはなってきたが、地域との行事については、まだまだ開催を見送っていることが多い。また、以前の活動を知る教員が少なくなってきているため、今後はかたちを変えた取組、または新たな取組になっていくと思われる。地域との行事については、どのようなかたちで繋がりをもっていくのかを再検討していく必要がある。今後も、幼稚園・小学校・中学校・公民館・町内会の連携を進め、交流を深めていきたい。
公民館（地域）	合同作品展等を通して、地域の方に生徒の日頃の学習の成果を見ていただくことができ、地域の方の教育への関心を高めることができた。また、作品展で行ったアンケートをフィードバックすることで、生徒たちのさらなる学習意欲の向上につなげることができた。 地域活動に参加し、地域住民と交流を図ることができた。	地域全体で教育に関心を向け、学校運営や公民館事業に積極的に参加してもらえるような地域づくりに取り組む。 生徒が主体となるような公民館事業を展開し、さらに地域住民との交流を促進できるように取り組む。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

第２回協議会（会場：中芳養小学校）
本校の取組①、②について、学社融合推進協議会委員の方々に説明を行い、意見を伺った。
①「図書室活性化プロジェクト」：生徒（３年生）の発想をもとに、リニューアルした図書室の更なる活性化（ビブリオバトル、生徒によるお薦め本の展示等）に取り組んだ。
②「特産の梅を使ったキャリア教育」：南部高校、南紀みらいと連携し、２年生が校内で栽培した南高梅を材料に梅ジャムの加工、商品化、販売（弁慶市）までを体験することができた。
委員の方々からは、「新聞等で生徒の活動の様子を拝見し、頼もしく感じた。」「梅ジャム商品化の体験は生徒の自信や成長につながったと思う。」「生徒主体の活動で図書室の利用が更に進むといいですね。」等の感想や意見をいただき、今後の活動方針の参考になった。

図書室活性化プロジェクト

特産の梅を使ったキャリア教育

特徴的な協働活動

和の心の授業（書道・華道・茶道）
ねらい：　日本の伝統文化に触れながら、自らの心と静かに対峙し、心豊かな人生の素地を形成する。周囲の人をもてなす生活態度や習慣を身につける。

1学期・夏季休業中	講師依頼と日程調整を行い、授業の流れ等の共通理解を図った。
書道 （6時間） 10月25日～ 11月8日	前田一彦先生を講師にお招きし書道に取り組んだ。今年度は「一文字」を1つ、「二文字～四文字」を1つの、全部で2つの書きたい文字を生徒が事前に選び、練習及び清書を行った。生徒たちは落ち着いた様子で、ていねいに書くことができた。その中から1人1つの作品を「中芳養祭」「中芳養合同作品展」で参観者に披露した。
華道 （6時間） 11月7日～ 11月18日	竹下佳寿美先生を講師にお招きし、フラワーアレンジメントに取り組んだ。1回目の授業では（2時間）ドーム型、2回目の授業ではLシェイプのアレンジ方法を教えていただいた。生徒たちは、花のバランスを整えつつ形を綺麗にすることに苦戦をしていたが、それぞれ満足のいく仕上がりとなった。3回目の授業では生徒はどちらかの方法を自分で選んでアレンジを行い、その作品を「中芳養祭」で参観者に披露した。
茶道 （4時間） 10月31日～ 12月15日	八木幸子先生を講師にお招きし、茶道の授業を行った。歩き方やお辞儀の仕方、お茶の出し方、受け方、飲み方、立て方等、茶道の基本的な作法を教えていただいた。生徒たちは、回数を重ねるごとにスムーズに動けるようになってきた。新型コロナウイルス感染症の影響で「中芳養祭」でお茶を振る舞うことはできなかったが、授業風景の写真を展示し、活動の様子を見てもらうことができた。

１年生の書道の授業

２年生の華道の授業

３年生の茶道の授業

PTA陶芸教室

中芳養合同作品展

中芳養祭（ﾓｻﾞｲｸｱｰﾄ）

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：龍神中学校学社融合推進協議会

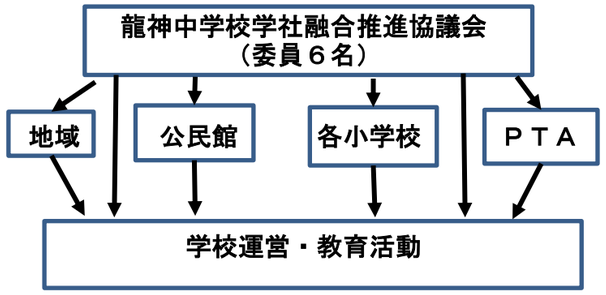
学校・園名	田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館　龍神・宮代・殿原・東西・中山路・福井・甲斐ノ川分館

学社融合における学校・地域の様子

校区が旧龍神村全体である本校は、３台のスクールバスを所有し、全校生徒の約７０%がバス通学している。校区は広大であるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的である。
学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施したり、生徒が地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）へ出かけ学習する場を多く設定するなどし、外部人材を有効に活用する教育活動に取り組んでいる。

目標	学校・園・地域	
		①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。 ②ＰＴＡ、公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。 ③体験活動の実施、外部講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
　○龍神中学校ＰＴＡ
　○龍神公民館・各分館
　○学校支援者
その他の関係機関
　○田辺市社会福祉協議会
　○龍神行政局
　○ＮＰＯ「みらい龍神」

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・外部講師を授業に招聘することにより、生徒の「学びに向かう力」がより高まった。 ・生徒の学びの場を校区やさらに広域な地域に求めることにより、より教育効果を高める学習を展開することができた。 ・生徒が、清掃活動やリサイクル活動に取り組むことにより、達成感を感じることができ、自己有用感の高揚につながった。 ・地域での教育活動に対し、保護者や地域の方々から多大な協力を得ることができた。	・生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中であっても継続していける持続可能な取組を工夫しなければならない。 ・各教科の授業に招聘する新たな外部講師の確保に努めていきたい。 ・生徒に、地域の活動や行事により積極的に関わらせたり、多くの人々と交流させたりすることにより、社会性を高めたい。
公民館（地域）	・地域の方々が、清掃活動やリサイクル活動を通じて生徒と交流することにより、学校の教育活動がより身近なものに感じられるようになった。 ・リサイクル活動などの取組が継続して行われていることにより、取組に協力することが地域にとっての「当たり前」になってきている。 ・学校行事・取組への参加が交流の場となり、コミュニティが形成されている。	・学校行事や学社融合の取組を継続して進めていくには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。また、地域の人口減少と高齢化が進む中で、持続可能な仕組みの構築を地域全体で考えていくことが求められている。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

①保護者・地域の願いについて
　◎生徒の学力の向上
　◎生徒の「豊かな心」と「健やかな体」の育成
　◎部活動の取組の充実
　◎生徒にとって楽しい学校生活の実現
②生徒の実態
　◎素直で真面目な生徒
　◎部活動等に意欲的に取り組む
　◎あいさつができる
　◎ＳＮＳ等を利用する時間が長い
③学社融合の活動を通してどんな生徒を育てていくか
　◎ふるさとに誇りを持ちながら、新しい時代を拓き、たくましく生きる生徒
④「めざす生徒像」を実現するための取組をどう進めていくか
　◎生徒が地域に出て、地域の住民とともに行う活動を継続していく
　◎生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることにつながる取組を行う

特徴的な協働活動

【「豊かな人間性」を育むための取り組み】

（1）「田んぼアート」への協力
◎6月10日(金)、1年生が安井地区にある『たんぼアート』の田植えをしました。『田んぼアート』は、龍神地域の9団体(田辺市龍神行政局産業建設課他8団体)によって構成している『田んぼアート実行委員会』が取り組んでいる活動です。本校もその構成団体の一つです。『田んぼアート実行委員会』会則の目的に、「この会は、龍神村安井地内において田んぼアートを実施し、龍神村の観光振興、地域振興に寄与することを目的とする。」と記されています。
稲刈りは、10月4日(火)、2年生が行いました。
◎収穫した田んぼアート米は、給食でいただきました。今年は223kgのお米をいただきました。

（2）古紙古着回収
◎古紙古着回収は、昭和52年、旧下山路中学校から始まりました。その後、多くの地域の方々にご協力いただきながら、旧龍神村の全ての中学校で実施されるようになりました。平成19年、龍神地域の3校が統合してできた龍神中学校も、学校と保護者、生徒が協力してこの取り組みを継続していて、龍神地域の古紙古着回収は、46年目を迎えています。
◎校区の全世帯(約1500戸)に案内を配布し、年3回(日曜日)実施しています。1年間の回収量は約160tです。回収で得た収益は、各学年の宿泊体験活動の費用に使っています。

（3）3年宿泊体験活動(沖縄修学旅行)
◎77年前に地上戦が行われた沖縄でしか学べないことがたくさんあって、本当に勉強になりました。その中でも、一番心に残っているのは、アブチラガマ(避難壕)の中に入って、ガイドさんのお話を聞いたことです。壕の中にいた人たちは、戦争中どんなことをしていたのかなどを想像しながら見学できたので、戦争に対する理解が深まりました。平和の礎(いしじ)に、敵や味方、民間人や軍人を問わず、24万人の戦没者の名前が刻まれていたことも印象に残りました。戦没者のお名前を探しやすいように、都道府県別、五十音順になっていたことにも感動しました。【3年生の感想】

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中辺路地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館　栗栖川下分館 栗栖川上分館　二川分館

学社融合における学校・地域の様子

学社融合推進会議では、学校と保護者と地域の発展的な関りと、結びつきが深められるような取組について協議を行った。近い将来、生徒数が激減することで、中学校の在り方について考え、会議では熱心に議論が行われた。本校の生徒数は少人数ながらも、保護者や地域の方々に温かく見守られながら学校生活を過ごしている。学校においては、新型コロナウィルスの影響で、地域の方々との例年ほどの積極的な交流はあまりできなかったが、可能な範囲で地域の皆様に協力してもらえる行事を行った。

目標	学校・園・地域	
		・家庭、地域の持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切に取組をめざす。 ・自然や地域の人とのふれあいを大切にし、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

田辺市学社融合推進協議会規則に基づき設置

中辺路地域学社融合推進協議会　　事務局：教頭

- 学習支援・行事
- 環境・安全

支援者及び支援組織

- 田辺市中辺路町社会福祉協議会
- 熊野の森ネットワーク
- いちいがしの会
- JA紀南
- 中辺路生活研究グループ
- 中辺路町観光協会
- 田辺消防署中辺路分署

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・地域の教育力を生かし、様々な行事や活動を行った。本年度も、学校と地域は良好な関係を保ち、取組を通して地域との連携を深め、学校教育や生徒に対する、理解と関心が高められた。 ・学校の中だけでは経験できない社会性が育まれ、コミュニケーション能力の向上にも繋がった。 ・地域の伝統をはじめ、様々な技術の共有や交流ができた。	・今年度も、新型コロナウイルス感染対策により、体育祭や文化発表会等においては、地域の方々を学校に招待できなかった。しかし、参観は、家族の方限定とする等、その時々に応じた対応を行っている。情勢を見ながら工夫をし、可能な範囲で地域の方を招くことが課題となる。 ・来年度も、社会情勢を見ながら、行事を充実させていくことが必要である。今できることに目を向け、持続可能な取組を考え、この機会を前向きに捉えてより発展的に地域との交流を図っていく。
公民館（地域）	・花いっぱい運動では、生徒の手によって育てた苗は、地域の方々に配ることで、地域とのつながりを広めている。 ・地域の方から頂く感謝の言葉によって、生徒は自尊感情を高め、地域に貢献できている達成感を味わえている。 ・地域の方と学校とが互いに誇れる活動を通して、その交流が地域の環境美化意識を高めることに繋がっている。	・公民館として、学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加したりしてもらえるよう、サポートしていきたい。 ・花いっぱい運動以外にも、地域の各自治会や社会福祉協議会との活動を通じて、地域の老人会などと積極的な交流を継続していきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

①【夏の整備作業中止】
昨年に続いての中止であった。本年は実施する方向で諸準備に取り組んでいた。
コロナの流行が地域にも迫ってきている時期と重なり、再協議が必要となった。
会議では、学社融合推進協議会会長、育友会会長と協議し、小学校の意見も聞き、調整を図った。
会議では、実施か見送るかが論点であったが、今後も、この状況が続くと考え、引き続きコロナの状況を注視し、地域と密に連携をとりながら、協議を重ねて決定していくこととした。

②学社融合推進協議会委員が、これまで以上に学校行事に関われるようにと話し合いが持たれた。コロナ禍であり、体育祭・文化祭の参観は、家族のみとした。

特徴的な協働活動

【森林ボランティア】

【JAへどんぐりの苗の寄贈】

熊野古道と南方熊楠について事前学習で勉強し、森林ボランティアでは、いちいがしの会の方と歩き、学校で育てるドングリの実を採取した。道中では、熊野古道について解説をしていただいた。また、２年間かけて育てたどんぐりの苗木をJAに寄贈した。
自然を取り戻す取組は、SDGｓを身近に考えさせる良い機会となり、生徒はそれぞれで達成感を味わえた。そして、SDGｓにつながる取組は今後も発展させ、持続したものにしていきたい。

1学期・花いっぱい運動
　中辺路町公民館と連携「種まき」「苗育て」「地域の方への配布」

２学期・森林ボランティア学習
　熊野の森ネットワークいちいがしの会・JA紀南と連携
　【森林学習】紀伊半島の照葉樹林を学ぶ
　【校外学習・発心門王子～大斎原へ歩きどんぐりの採集】
　【育苗（ボランティア寄贈用）】
・福祉学習／福祉体験
　田辺市中辺路町社会福祉協議会
　南紀支援学校と連携【来校し手話で会話】
・ジビエ料理の調理実習
　中辺路生活研究グループ【シカ・イノシシの調理】
・和装体験
　町内在住の講師先生　中辺路観光協会【和服ゆかた】

３学期・田辺消防署中辺路分署　【火災非難訓練・煙体験】

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：近野地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立近野中学校	公民館名	中辺路公民館　近野分館

学社融合における学校・地域の様子

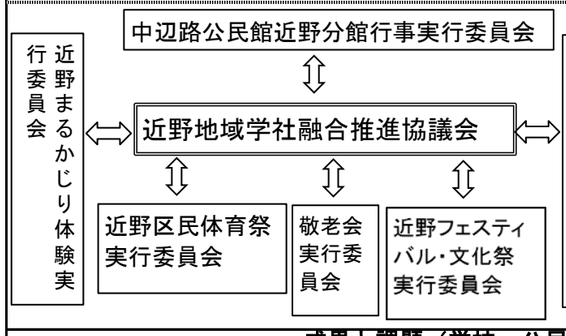
伝統的に、学校と地域の結びつきが密である。学校と地域が一体となって取り組む行事が多くあり、中学校も実行委員会に入り一翼を担い、生徒・職員ともに主体的に参加してきた。例年の取組としては、「近野区民体育祭」。地域の方の協力で、年間を通じてのお米作り。出来上がったお米を「近野まるかじり体験」で、お餅つきをし販売。また、地域にある旅行会社「奥ジャパン」との連携でアメリカンファミリーとの交流・英語語り部等があげられる。しかし、新型コロナウイルスの影響で、今年度は、米作りと郷土料理の『めはり寿司』作り体験、一昨年度からの地域MAP作り等の取組を展開した。

目標

学校・園・地域

学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。
（学校）
・地域での活動を通して地域を知る。
・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切にし、尊敬する気持ちを育てる。
・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わい、郷土愛を培う。
（地域）
・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。
・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

・尾中氏・岡上氏
・久保氏・多禰氏
・前氏・三栖氏
・古久保氏
・まるかじり体験実行委員会
・ＪＡ女性会
・近野振興会
・公民館近野分館
・奥ジャパン　　等

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年実施している餅つき、アメリカンファミリーとの交流、熊野古道英語語り部などができなかった。 しかし、「今年度の取組内容」の欄に示すように、一昨年度より開始した新たな取組を通して、生徒たちに、より地域を知り地域の伝統・文化を大切にし、尊敬する気持ちを育てることができたと考える。	今年度の取組も大変充実したものであった。コロナ禍前の取組と、コロナ禍に工夫された新たな取組をうまく融合させ、無理のない取組にしていく必要があると思われる。
公民館（地域）	本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校と地域住民が連携した従来の取組ができなかった。しかし、学校とは常に連絡を取り合った。また、学校だよりの全家庭配布により、地域の伝統や文化に関連した新たな学校の取組状況を伝えることができた。	生徒数が少なくなってきている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。今のような状況が続いた場合でも、どのように学校と地域が連携した取組をしていくか考えていきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・新型コロナウィルスの影響は今後もあると思われるので、地域と連携した従来の行事等はしばらくは制限された中での開催となるだろう。しかし、生徒たちが作成した近野マップや近露ガイドを地域の事業所に置かせてもらい、観光客に実際に手に取ってみてもらう機会を設けたり、米作り体験にとどまらず地域の郷土料理である『めはり寿司』作り体験を地域の専門家をお招きして実施したりするなど、工夫を凝らして活動を進めていることは大変意義のあることである。
・マップやガイドの印刷費として地域の方々からご寄付をいただいたこともありがたい。
・学校周辺の草刈りは地域の方々が大勢参加してくださり大変ありがたい。
・学校だよりの全戸配布も常会の協力があり大変ありがたい。

特徴的な協働活動

1　生徒会が「道の駅 熊野古道中辺路」を訪れ、昨年制作した『ちかつゆマップ』（地域を紹介する動画が見られるQRｺｰﾄﾞ付）を置かせてもらい、感謝の気持ちを伝えた。観光客に届くことで生徒たちは有用感を感じている。

2　米作り　地域の方々のご指導とご協力の下、米作りを体験（左から箱苗作り、苗水やり、田植え、稲刈り）。

3　地域の方のご指導とご協力の下、『めはり寿司』作りを体験。

この後、高菜栽培、高菜の塩漬けなども教えてもらい、来年度の『めはり寿司』体験に向けて取り組んだ。米づくり体験を発展させる取組となった。

4　近野地区の清掃活動　近野クリーン作戦　熊野古道を清掃

河童のミモギー

野中の清水の化身神水（しんすい）くん

紀伊半島のオオカミの化身がん

近野3キャラクター（近野中生徒考案）

5　地域を紹介する動画
昨年に引き続き、地域ＰＲ、近野中の取組を紹介する動画作成

6　今後の取組
今後もSDGｓの目標と関連した取組を継続していきたい。
米作り・郷土料理（地産地消）
⇒目標７番（エネルギー）、9番（産業と技術革新）、13番（気候変動）などと関連
熊野古道の清掃活動
⇒目標11（まちづくり）、目標12（作る責任使う責任）、目標17（ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ）などと関連
マップ作り・ガイド作り・英語語り部の再開
⇒目標11（まちづくり）、目標17（ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ）などと関連

”KYSGs　プロジェクト”　Keep yourself to sustainable goals
~持続可能な目標達成のためにあなたの行動を続けてください~３ｷｬﾗｸﾀｰの頭文字をとって令和2年度から開始

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：大塔地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館　鮎川分館 三川分館　富里分館

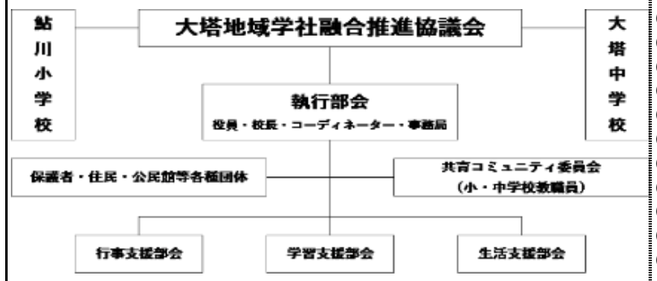
学社融合における学校・地域の様子

旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。

目標　**学校・園・地域**

○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。
○鮎川小学校と大塔中学校の９年間を見通した学校運営を行う。
○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。
○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

○大塔公民館、各分館
○田辺市自治会連絡協議会大塔支部
○大塔女性会
○大塔老人クラブ
○社会教育委員会
○子どもクラブ
○放課後ふれあいスクール
○民生児童委員
○田辺市保護司会大塔支部
○社会福祉協議会
○田辺市消防署大塔分署
○田辺市消防団大塔分署
○青少年健全育成市民会議
　大塔地区協議会

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・保育園との合同避難訓練を実施した。災害時の対応について、実戦さながらの体験を行った。 ・図書ボランティアさんのサポートにより、図書室の本を借りやすい、読みやすい環境が整えられている。 ・大塔CSを中心とした朝のあいさつ運動により、児童生徒の安全が確保されている。 ・大塔CSの会議を昼間に行ったことで、生徒の授業の様子を参観していただくことができた。	・災害が起こった時に、中学生が中心となるため、動きの確認や役割分担を明確にしておく必要がある。 ・「ふるさと学習」をさらに深める必要があるという昨年度の反省より、今年度は、総合の学習の時間にふるさと大塔を理想の村にするために私たちができることを全校生徒で考え、ドリームビレッジプロジェクトを立ち上げ、各学年で活動内容を決め、活動した。来年度もさらに活動の幅を広げていきたい。
公民館（地域）	○昨年以上に事業を展開し、図書ボランティアや校外学習、公民館事業を通して、生徒がリーダーシップを執り、地域の方々と世代間の交流を深めることができた。 ○今年度は、1年生に対して大塔地域の民話や歴史、文化財といった地域学習を行った。生徒に対して、地域の魅力を提供し、また、職員も地域のことについて再度勉強ができ、大変良い機会となった。 ○朝のあいさつ運動や通学路（横断歩道）の補修要望、CSだよりの発行（交通安全の啓発や家庭学習の手引きの掲載）等を通じて、児童生徒に様々な生活支援を行うことができた。	○新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、今まで以上に、学校と連携を密にし、生徒が中心となって活躍できる場を提供していきたい。 ○公民館として、地域全体で行っている学社融合推進活動により関心を持っていただくために、CSだよりや公民館だよりを通じて、地域に積極的に広報し、人材確保に努めていきたい。 ○情報モラルやSDGs等の現代的課題や、児童生徒、また、地域の課題を解決できるよう、学社融合推進活動や公民館事業を通じて積極的に取組を推進していきたい。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

○リフレッシュ大作戦の在り方について
・開始時間を厳守する。開始時間より早く始めない。
・地区によって開始時間をずらして実施することにした。
・分別収集の方法の確認。最終分別は教育事務所で代表者が集まって行う。
・地域の参加者の送迎について。元の場所に戻ってこない場合は、スタート場所への送りが必要になってくる。
・回収ルートを変更する。効率の良い移動ができるようにする。
・来年度は中学生がいない地区があったり、人数が極端に少ない地区があるので、班分け、地域分けの統廃合や再編が必要になってくる。

○大塔PR動画への協力よびかけ
・３年生によるPR動画（ダンス）への出演依頼を行った。

★トークフォークダンスの企画・運営について（３月に開催予定）
・地域の方と中学生の交流を計画中
・立場の異なる参加者同士が１対１になって、お題について語り合う
・１分ごとに交代しながら、お題について話し合う

特徴的な協働活動

Dream Village Project の様子
３年生が総合的な学習の時間に水辺の楽校の階段に壁画を描きます。その階段をきれいにするために、地域の消防団が協力してくれました。

３年生が作成している大塔PR動画の撮影で、地球元気村の実行委員の方々に協力していただきました。「パプリカ」の振り付けを練習しているところです。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：本宮地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館　本宮分館　三里分館 四村川分館　請川分館

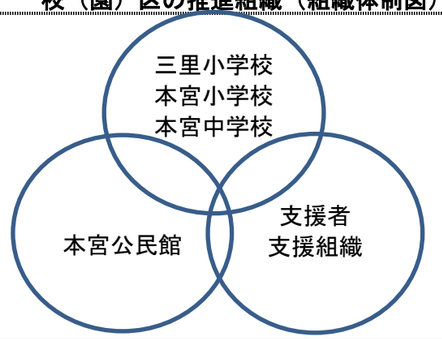
学社融合における学校・地域の様子

共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。
平成23年度から「音無の里共育コミュニティ事業」として小中３校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており、現在も継続している。

目標　学校・園・地域

平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な３項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き継いでいく。
また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

育友会
熊野本宮語り部の会
本宮プロバスクラブ
田辺市女性会連絡協議会本宮支部
本宮町自治会連絡協議会
本宮町林業研究グループ
学校ボランティア
世界遺産熊野本宮館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・家庭科や体育等の授業や花を配る活動、語り部学習や熊野古道道普請など、多くの活動で地域の方に協力していただき、生徒にとって学習以外の面でも大切なことを学ぶよい機会となった。 ・毎月1回のボランティア定例会では、地域の方から学校外での情報を聞くことができ、参考になった。	・総合的な学習の時間の内容や現在行っている活動を継続しつつ、さらに地域の方に関わっていただけるような活動にしていきたい。 ・生徒数の減少により、現在行っている活動ができにくくなっている部分もあるが、できるだけ続けていけるように工夫していきたい。
公民館（地域）	・新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。 ・学校教育に参画することでサークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子どもたちと接することにより、子どもたちから元気をもらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。	・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年２回開催とする。
・第１回定例会で承認された事業内容について取り組む。
　承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。
　○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、
　　福祉、社会体験教室、授業協力　等
　○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請　等
・学社融合の活動を通じて、子どもたちに地域の事や人を知ってもらい、本宮を自慢できるような町づくりに取り組んでいく。
・委員から意見
「学社融合の取組を行政局ロビーにて事前に告知する提案は地域の方に取組を知ってもらうよい機会になると思う。」
「コロナ禍で途絶えている本宮祭りへの児童生徒の参加について検討してほしい」

特徴的な協働活動

●合気道　･･･9月27日、10月4日
体育では毎年、地域の指導者の方から、合気道を教えて頂いている。
今年も学年ごとに学校近くの講堂に行き、指導して頂いた。指導者の方は、技だけでなく礼儀なども含め、将来社会人になったときにも大切なことも生徒に伝えてくださっている。

●読み聞かせ　･･･12月14日
毎年、図書ボランティアさんから2カ月にい回程度、学年ごとに読み聞かせをして頂いている。今年は、全校生徒に音楽も取り入れた朗読劇をしてくださり、地域の方も生徒と一緒に鑑賞した。

【成果】学社融合の活動は、生徒が地域の方から様々なことを学ぶ機会となっている。また、花を植えるための土作り作業や熊野古道道普請などの活動を通して、生徒は「地域のために頑張れた」など達成感や自己有用感を感じることができている。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館

学社融合における学校・地域の様子

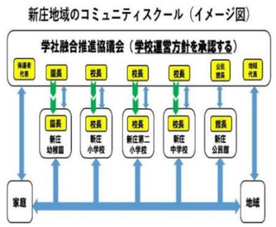
新庄地域では、「共有コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進協議会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。

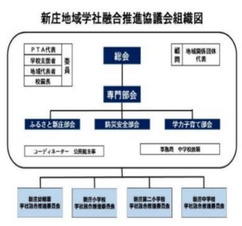
目標　**学校・園・地域**

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
第２条（目的）　協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

新庄幼稚園
〇地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた園運営（保育の公開や参加型の保育）を展開し、地域の方の幼稚園理解を深める。
〇地域の人、自然、文化との出会いやふれあいを大切にし、ふるさと新庄が大好きな子どもを育てる。（親世代も巻き込んで）
〇応答性のある関係づくり、互いにメリットのある活動を大切にし、地域の中の幼稚園・子育て支援の核となれるよう努める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）





支援者及び支援組織

学社融合推進協議会
〇　幼稚園・小中学校育友会
〇　学校支援者・地域代表者
〇　地域関係団体
〇　公民館運営委員会
〇　新庄地区校区協議会
〇　新庄共育コミュニティ本部

新庄幼稚園（おまつりごっこ）
・地域や民生委員の方々
・グラウンドゴルフの方々
・保護者
・未就園児と保護者
・つながりのある方々

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	社会全体の行動制限が緩和される中、感染症対策を取りながら幼稚園行事の公開を拡げてきた。運動会や発表会で、地域の方々に園児の様子を見ていただいた。 小学校との交流も再開し、園児にとって入学の期待を膨らませる機会となった。 未就園児事業では、園庭開放や親子広場に多くの未就園児と保護者の方に来ていただき、幼稚園の楽しさを伝えることができた。	様々な未就園事業を開催してきたが、園児確保には至らなかった。また、来園した幼児も1～2歳児が中心で次年度入園対象の年齢の子どもたちが来園することは、ほとんどなかった。
公民館（地域）	感染症対策を講じながら、コロナ禍以前と同程度の交流ができるよう努めた。 地域の方々が直接幼稚園に出向き、「獅子舞」や「新庄ぎおんさんの夜見世」などの伝統行事を次世代に伝えることができた。また、いけばな教室、グラウンドゴルフなど地域内のサークル、団体と世代を超えた交流をすることができた。	幼稚園と地域が共通の目標に向かってどのような連携ができるのかを考えていく必要がある。 また、地域学習の幅をさらに広げられるよう、公民館行事やサークル活動を通じて、地域の人材把握や育成に努めていく。

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

学社融合推進協議会では、各園、学校の取組について承認していただき、今年度のメンバーで、「ふるさと新庄部会」「防災安全部会」「学力子育て部会」に分かれ、活動計画等を立てた。
新型コロナウィルス感染症が拡がる時期もあったが、感染症対策を取りながら少しずつ行事を再開してきた。各園・学校も協議会の委員に行事の案内を送り、少しずつ園・学校の状況を見ていただく機会も増えてきた。今年は運営協議会が主催して地域学習のフィールドワークを取り入れ奥山甌穴の見学会を実施したが、幼稚園の発表会と日程が重なり参加できなかった。
また、運営協議会で幼稚園の園児数減少の現状について報告し対策について意見を頂いたが、園児確保には至らなかった。

「おまつりごっこ」に向けての取組

ねらい
・遊びの中で自分の力を発揮し、友達や地域の人とのかかわりを楽しみ、達成感や充実感を味わう。

〇おまつりごっこについて知り、おまつりについて話し合う
地域で開催されるお祭りに行った経験から、お祭りについて「金魚すくいあった」「たませんもあった」と話し合う。その中で5人それぞれがやってみたいお店を決めていき、必要な物や店構えについて設計図を描いていく。

『私は、千本くじ屋さんをします。くじと景品のブレスレットとコースターを作ります』とみんなで伝え合いをし、5人での共通理解につなげた。みんなでお祭りごっこをする

設計図に店構えを描いたことで看板が必要なことに気付き、イメージしている看板を実現しようと画用紙や絵の具など様々な素材を使って試行錯誤する。また、できた看板を木枠につける際には、何でつけるとより良くなるのかを5人で話し合いながら試す。

テープを丸くしたら隠せるし、いいんじゃない？

開店に向け品物づくりを進めていく。品物についても本物のようにしたいという思いから様々な素材を組み合わせながら作っていく。また、毎日の活動の最後には、進行状況を伝え合い、友達と助け合いながら進めていく。

進行状況の伝え合いを重ねたことで、『手伝えるよ』と友達の手伝いに参加し、5人全員で5つのお店を開店に向けて進めた。

全員で助け合いながら進めたことにより、段々とそれぞれのお店が完成し、お祭りの雰囲気も出てきた。お店が完成し、おまつりごっこが開催に向けてのお知らせをしていないことに気付き、『チラシが

11月2日　おまつりごっこ当日
地域の方々や未就園児のお友達もたくさん来ていただいたことで、子どもたちは『大成功だった』と達成感と充実感を味わうことができた。また、地域の獅子舞にも来ていただき、獅子舞にも興味を持つことができた。後日、獅子舞の絵を描き『耳あったで』『歯が四角と三角だった』と言いながら楽しんで描いている様子も見られた。
おまつりごっこを通じて、グラウンドゴルフサークルの方々との関わりはより深くなり、グラウンドゴルフを教えて頂く機会を設けることができた。
また、未就園児との交流も子どもたちにとって自分たちより小さい子どもとの関わり方に触れられる機会となり、とてもいい経験となった。
おまつりごっこを通して、様々な年代の方々との触れ合いを経験することが

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書 協議会名：三栖地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館

学社融合における学校・地域の様子

三栖地域は、新興住宅として他地域からの転入家庭が増え、本園の保護者も地域に知り合いが少なく、保護者同士や保護者と地域とのかかわりも薄くなってきている。本園では今年度「人とかかわり育ち合う」を研究主題として、友だちや地域の方とかかわる中で育ち合う保育を目指して取組を進めている。「自分が好き」「友だちが好き」「地域が好き」な子どもに育ちつつある。

目標		
	学校・園・地域	コロナ禍の中、できることを企画し、園児の成長に繋げる。 ・小学生・中学生・地域の方々とかかわる事で、お互いが育ち合う喜びや楽しさを味わう。 ・園児同士が、日々温かい関係をつくれるよう保護者や地域の協力を得られる園経営を目指していく。 ・地域と連携を取り地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子どもを見守っていく意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）

三栖幼稚園・三栖小学校学社融合推進協議会
- 会長（公民館長）
- 副会長（町内会長）
- 委員
  - ・地域関係者
  - ・保護者
  - ・校園長
- 事務局
  - ・公民館主事
  - ・小学校教頭
  - ・小学校学社融合担当職員

支援者及び支援組織

保護者
三栖公民館
三栖小学校
衣笠中学校

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・衣笠山登山では「集う」「学ぶ」「遊ぶ」をテーマに文化委員さんや公民館長さん、主事さんにご協力いただき職員・保護者も参加して実施できた。 ・梅取り体験や防火パレードでは地域の皆様の協力や声援を受け、地域に見守られているという気持ちを持つことができた。 ・三栖小学校とは、2年生との交流や音楽会への招待を、衣笠中学校とは、ゲームや読み聞かせ、歌による交流を実施することができた。 ・「えんだより」「ホームページ」「公民館報」で、保護者・地域へ園の様子を発信できた。また、公民館への作品展示も良い機会となった。	・出来ることを考え、小学校・中学校との交流を実施した。小学生・中学生と園児の触れ合いは、両者にとってとてもいい交流になった。今後も継続できる形を模索しながら実施したい。コロナウイルス感染症が終息すれば、園行事等地域の皆様に来園していただく機会を増やしていきたい。 ・地域に出向き地域の方とかかわることは、単に地域の名所だけではなく地域の方の思いにもふれる機会となると考えており、できることを企画し実施継続したい。
公民館（地域）	・衣笠山登山を通して、三栖地域のシンボルである衣笠山の歴史や地域の魅力を伝えることができただけでなく、子どもたちと地域の方々との世代間交流ができた。 ・三栖公民館のロビーにおいて月替わりでロビー展を開催したことで、日常的に地域の方々に園児の作品を見てもらえる機会ができ、幼稚園の活動を知ってもらえた。 ・公民館だより（館報）の発行を通じて学社融合の取組などを広く発信できた。	・公民館関係者の高齢化対策として、館区内で新たな人材を発掘し将来へとつないでいく仕掛けが必要である。 ・幼稚園と公民館だけでなく、地域全体が融合できる機会を作り、つながりを深めていく必要がある。 ・数少ない人口増加地域であるが、古い住民と新しい住民との交流機会やコミュニティの確保が期待されている。 ・新型コロナの扱いや対応が今後どうなっていくのか、活動への影響が懸念される。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

コロナ禍でもできる交流を模索し、以下の活動に取り組んだ。
・ＪＡ三栖支所との交流
ＪＡ三栖支所の職員と公民館主事の協力により、梅取り体験や雨で中止となったサツマイモの植え付け等、梅の本場である三栖を知る機会となった。
・防火パレード
園を出て、誓いの言葉を地域の方に聞いていただくだけでも園児たちの地域への意識が高まることをパレードを通して感じた。園児たちは、自主的に誓いの言葉を覚え、しっかりと伝えることができた。
・小中学校との交流
今年度行ったこの交流が、地域の幼稚園であるという意識を強くした。両者にとって有意義な交流の形を見つけ継続することは、子どもたちにとって必要であると実感した。
・開かれた園づくり
公民館での作品展示は、幼稚園を知っていただく機会となっており、今後も取り組みたい。
・保護者同士のつながりを高める
講師を招いての子育て講演会は大変好評だった。普段はできにくい子育てについて振り返る機会となり、保護者同士の感想をまとめ共有することで繋がりを深められた。

特徴的な協働活動

～衣笠山に登ろう～
「集う」「学ぶ」「遊ぶ」をテーマに、地域のシンボルである衣笠山に登ることができた。頂上では保護者もいっしょに三栖の四城や展望を学ぶことができ、その後木登り等山での遊びを楽しんだ。昼食時、文化委員さんから「園児が登るとき、登山道や山頂付近の草刈りと整備をするのは当たり前の事だ。」と教わった。名所はもとよりこの三栖の当たり前も園児達が受け継いでくれたらと思う。地域の方とかかわることで、職員も保護者も三栖という地域を再確認することができた。
～三栖小学校・衣笠中学校との交流～
2年生のまち探検を契機に、園外保育時の河川敷でのゲーム、そして小学校の音楽会への招待へと交流が広がった。子どもたちのおかげで、小学校と幼稚園の職員のつながりが強くなった。また、衣笠中学校とは、昼休みの時間を活用して生徒会・図書委員・合唱部の生徒と園児の交流が図れた。ゲームやダンス、絵本の読み聞かせと歌の交流。園児の背丈に合わせてしゃがんでタッチしてくれる姿、しっかり練習してきてくれた読み聞かせ、園児と歌でどのように交流しようかと考えてくれた中学生の優しさが、みんなの笑い声が聞こえる大切な時間となった。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館

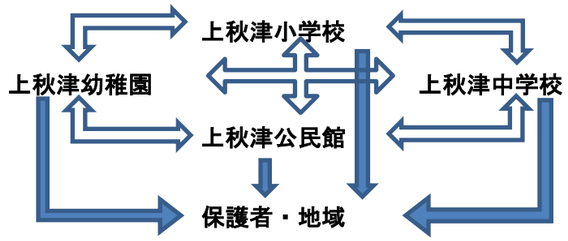
学社融合における学校・地域の様子

本園は旧田辺市の北東部、高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して様々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少し、今年度の本園の保護者においては一世帯となっている。昔から教育熱心な地域で、幼稚園教育にも理解があり物心両面において温かい支援をいただいている。昨年度はコロナ禍において多くの行事が中止を余儀なくされたが、今年度は感染防止措置を取りながらできる範囲で実施している。預かり保育については100%の出席率となっている。

目標　学校・園・地域

・今まで取り組んできた地域とのつながりを深めていけるように感染防止対策を図りながら行事等を実施できるようにする。
・絵本タイムの支援活動を行う。（お話の会・絵本タイム支援）
・安心ネットワーク活動による高齢者との交流を行う。
・老人保健施設「あきつの」との交流を図る。
・豊かな自然を活用し、動植物に触れるなどして情操を養う。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

あきつの運営委員会
上秋津地区民生児童委員
社会福祉協議会
上秋津公民館

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
園	・園児のマスクの着用とシールドを設置することで感染防止対策を講じ、外部の人材にも来園していただくことができた。 ・安心ネットワーク活動では、高齢者の方々に手作りメッセージをプレゼントすることができた。そのことで握手を求められるなど、とても喜んでもらえた。この活動で、園児達も成就感を味わうことができた。 ・防火パレードをする中で、地域の方々が沿道に出てきてくれ、励ましの声をかけていただいたことで充実感を感じることができた。 ・「上秋津子供作品展」においては、制作物を展示することで園児たちの活動を知ってもらえた。	・昨年度上秋津町内の老人会が解散したことで、高齢者との交流については公民館主事等との連携が必要になった。しかし、これらの交流は、年間を通した活動には至らなかった。 ・高齢者福祉施設「あきつの」との交流については、健康面を考慮して交流が途絶えている。今後、再開に向けて検討していく必要がある。
公民館（地域）	・昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、「夏まつり」や「敬老会」などの事業は実施できなかった。しかし、敬老記念品に園児が書いた手紙を入れて配布するなど、例年とは違う形で地域と関わることはできた。また、絵本タイムなどは感染防止対策を講じ、ほぼ例年同様実施することができた。 ・12月に上秋津公民館で行った作品展に、昨年に引き続き園児の作品を展示した。地域の方が、幼稚園の取組を知る良い機会になったと思う。	・学社融合推進協議会を中心に、幼稚園と地域が協力できる体制を維持していく。 ・新型コロナウイルスの影響による行事等の中止が続き、幼稚園の取組を地域の方が知る機会は少なくなっている。そのため、公民館や町内会と連携し、そのような機会を増やす必要がある。 ・現在行っている活動を継続し発展させるため幼稚園に関わってくださる人材を発掘する。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・学校融合推進協議会では、本年度も昨年同様にコロナ禍の対応をしていくこととなり、春祭りや夏祭りは中止することとなった。幼稚園としては、地域に根差した園運営しており、園児たちを見かけた際には声掛け等をお願いしたい旨を伝えた。（園児の登下校は保護者の送り迎えが基本となっているため）
・地域を挙げての「見守り活動」についても、地域の方が進んで沿道に立ってくれており、大変充実した活動となっている。子どもたちも、元気な挨拶ができている。
・幼稚園としては、公民館活動にも積極的に関わっていきたいことを伝えた。

特徴的な協働活動

・毎月第2週の月曜日に「絵本タイム」を設定し、地域の方に読み聞かせをしていただいている。公民館主事に連絡調整をしていただくとともに主事にも読み聞かせをしていただいている。
園児たちはとても楽しみにしており、読み手に近寄って聞こうとしている。こうした中で交流が図られている。（左の写真）

・公民館主事には、園での活動に積極的にかかわっていただいている。保育活動でも、大きなシャボン玉の中に入る実験をしていただいた。
（左の写真）

・地域の方の田んぼでオタマジャクシすくいも行った。（右の写真）

・裏千家の長尾宗静師範にお越しいただき、「お茶会」を行っている。真・行・草の作法を学びながらお茶をたてたり、お運びを行ったりしている。また、年度末には修了証と言える「おしるし」を授与していただいている。
普段は落ち着いて活動できない子も、お茶会の時は作法に則り活動できていた。

・安全のため園外での活動内容が限られている中で、秋の防火週間に関わって「防火パレード」を実施している。
田辺消防署の職員にご指導いただき、町内を歩くと沿道付近に住まわれている方が外に出てきて、園児たちに声をかけてくださっていた。

・地域の方々に支えられ、菜園での夏野菜・冬野菜育てをし、収穫ができた。
園近くのミカン畑での袋被せ体験も行うことができた。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書　協議会名：中芳養地域学社融合推進協議会

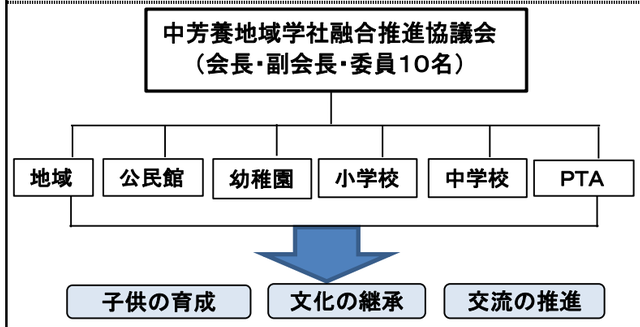
学校・園名	田辺市立中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館

学社融合における学校・地域の様子

豊かな自然環境と温かく協力的な地域環境の中で、園児たちは伸び伸びとした園生活を送っている。今年度の学社融合の取組は昨年度に引き続き、三つの柱「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」をもとに進めている。また今年は、コロナ禍にあっても何ができるか、どのようにすれば実施可能かを考え、本来の取組の７～８割程度を目指し、地域・公民館と連携を図っているところである。

目標		
	学校・園・地域	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、自分の住む地域を知り、地域のことを大切に思う心情を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織

- 中芳養地域の方
- 中芳養公民館
- 中芳養小学校
- 中芳養町内会
- 中芳養中学校
- 老人会「芳寿会」
- JA紀南芳養谷支所
- 未就園児の家庭

成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成果	課題
学校	・梅やみかんなど地域の特産物を中心とした体験活動の場を設けたり、寺や神社など園外保育をもとに地域の伝統文化に触れさせたりした取組は、園児たちが地域を知る大きなきっかけとなった。 ・コロナの感染状況を見ながらではあるが、地域の方との交流の場を多く持つことができた。特に地域の老人クラブ「芳寿会」さんとの活動は、学期に１回ずつではあるが、今年度再開することができた。 ・未就園児交流の活性化により、次年度は一定の園児数となり、活動の幅を広げることが期待できそうである。また在園児たちにとっては、進級への期待感を高めることにつながった。	・園の特色のひとつである菜園活動については、年間の見通しを持ったり、見直しをしたりすることが難しかった。地域人材の手を借りるなど、次年度の大きな課題としたい。 ・未就園児との交流については、現在の土台の上に保護者同士のつながりを少しプラスできるような取組も考えていきたい。
公民館（地域）	・園児の日頃の活動等の様子を、公民館報に掲載し、地域に発信することで「地域で大切に育てていく子供」という気持ちを改めて感じられ、より積極的な支援活動の促進につなげられた。 ・地域の方と園児が交流する場を持つことで、園児たちの心の豊かさを育むことや、郷土愛を深めることができた。	・園児が、地域の方に支えられながらより多くの体験ができるように、地域の人材発掘に注力する。 ・園児を対象とした、家庭や幼稚園ではできないような公民館の体験事業を検討していく。

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【全体：携帯・タブレット・ゲーム等について】

〇ひとり１台タブレットを持つなど、今の子供たちの学習方法が変化していた。タブレットなどは今の子供たちにとって興味が高いものであり、得意な子も多いと思われる。これらを活用することが、課題となっている学力向上につながるのではないかと思った。

〇携帯やゲームなどの時間が多くなってきている。これらは子供たちが小さいときから問題となっている。もちろん子供たちだけでなく、親世代も考えていかなければならない。

→情報セキュリティ研修の資料提供はできるので、研修会を持つときは活用してもらいたい。

【全体：交通安全に関わって】

〇芳養清川線の交通量が多く、車のスピードも出ている。子供たちが道路を横断する際の危険性や、横断前の待機場所が問題である。

→地域住民から速度規制に対する意見をもらうこともあったが、町内会としては子供たちの安全面を優先してもらえるよう、地域の方々に理解を求めたところである。

【幼稚園：園児数・菜園活動について】

〇来年度、中芳養幼稚園は園児数が増えるようであるが、園児の確保は市全体の幼稚園の課題であると聞いている。このことについて、今後どのようなことが大切だと思うか。

→幼稚園では、今も未就園児交流や子育て支援の拠点となるような取組を行っている。小学校との連続性を考えたとき、地域住民同士のつながりの力を借りながら、特に幼稚園対象年齢となる地域の子供への働きかけを大切にしていきたい。

〇園児数の減少と共に保護者数の減少が考えられる。今後、少ない職員数で菜園活動を維持していくためにも、その指導に関わって頂ける地域人材の確保は課題である。

特徴的な協働活動